Asamidori 65th Anniversary

65 years of smiles

1957-2023

援け合う こころを 育んで

あさみどりの会の活動

会の発足から65年間にわたる活動の足跡

A5判　232頁（1986.12.1）

A5判　184頁（1986.12.1）

A5判　156頁（1982.9.15）

A5判　248頁（2005.12.1）

A5判　284頁（2002.12.1）

A5判　208頁（1998.12.5）

A5判　168頁（2014.7.20）

B5判　171頁（2012.10.27）

A5判　340頁（2012.6.16）

A5判　266頁（2022.11.24）

A5判　266頁（2020.9.30）

B5判　248頁（2015.9.19）

社会福祉法人　あさみどりの会

法人設立50周年を迎えて

あさみどりの会は、数人の有志で活動を始めてから65年、
社会福祉法人を設立してから50周年を迎えました。
本誌は、法的裏付けのない中、信念を持って社会活動を実践し、
法人を設立された先駆者のご苦労を偲び、
その理念に共感して活動に参加していただいた膨大な数のボランティア、
そしてボランティアの心をもって献身的に働いてきた歴代役職員、
わが子のために精いっぱい自助努力し、
法人事業に全面的に協力し、共に取り組んできた障害児・者の家族、
当法人の活動を温かく見守り、支援していただいている地域住民の皆様、
そして法人経営を全面的に支えていただいている行政等諸機関へ、
感謝の気持ちを込めて活動の足跡を記し、実践の積み重ねに込められている
〝あさみどりの心（援け合う心・ボランティアの心）〟を次世代へと伝承したい
と考え、編集いたしました。

２０２３年３月31日

社会福祉法人あさみどりの会

親子療育キャンプ・ボランティアさんと

あさみどりの会の始まり
〈伊藤方文氏の活動〉

あさみどりの会の創始者伊藤方文（みちふみ）氏は、小学校教師から兵役を経て1940年、30歳の時満州帝国（日本が植民地支配していた中国東北部）の職員として大陸に渡ったが、5年後敗戦でソ連（ロシア）のシベリアに抑留され、2年後病気になり日本に送還された。伊藤氏は奇跡的に生きて帰ることが出来たことへの感謝の気持を、何らかの形で社会に貢献したいと考えていた。

帰国から10年後、NHK（ラヂオ）の教育放送作家になった頃から青少年問題への関心が高まり、小学校教師時代の仲間数人と、敗戦で国民の心が荒廃していく中で、純真な子どもの心が損なわれていくことを憂い、子どもの生活を考える雑誌「青い空」を発行するなどの活動を始めた。そして仲間の一人が特殊学級（現在の特別支援学級）担任になったのを契機に、焦点を「障害児問題」に絞って活動するようになる。

伊藤氏は名古屋城再建の記録映画制作を依頼されるなど、映画プロデューサーでもあったので、障害児とのかかわりも、学校や親の会の活動の記録映画制作の依頼からであった（以後伊藤氏は大小10本の記録映画や心身障害問題の啓発映画を作っていくことになる）。そして、知的障害児・自閉症児・重症心身障害児の実態に触れ、その親の会の人たちと深く交流するようになる。

そこでこの子らの福祉・教育の行政施策があまりにも不備なことを知り、障害児の置かれている実態や親たちの要望を行政に届けるために度々県庁や市役所に足を運んだ。

また社会の無理解、無関心には啓発映画を制作し上映会を開き、講演会、シンポジウムなどの開催。出版物の発行・頒布と、活発に社会啓発活動を展開していった。活動を進める中で主旨に賛同する会員も増えていき、会の名称を「あさみどりの会」と名付けた。

この時期1960年代は、作家の水上勉が重症心身障害児の父として「拝啓池田総理大臣殿」と題する公開状を〝中央公論〟に発表し、障害児施策の貧困を指摘したことに始まり、森繁久彌、坂本九ら多くの芸能人も参加した募金活動「あゆみの箱」運動などを、マスコミが大きくとり上げキャンペーンが繰り広げられた。あさみどりの会の活動もこの地方の新聞やテレビがとり上げ、運動を後押ししてくれた。そしてライオンズクラブ、国際婦人クラブなどの諸団体の支援もあり、会員も200人を越えた。数人のボランティアで活動を始めてから10年余り、1968年1月、社団法人を設立するに至った。

同年10月、糸賀一雄氏の思想に深く傾倒していた伊藤氏が、糸賀氏の著書を映画化したドキュメンタリー映画「この子らを世の光に」を発表し、あさみどりの会の社会的認知度は更に高まった。

同年4月には民間社会教育施設「東別院青少年会館」が開館し、会館の配慮で事実上あさみどりの会の活動拠点となった。7月に第1回心身障害児のためのボランティア療育援助研修会を開催。以後毎年2講（各10～20回）開催（1976年ボランティアスクールに引き継がれる）。また2年前より伊藤氏宅で行っていた「療育相談室」も会館の小会議室に移した。相談内容も、多動で処遇困難な自閉症児の相談が多くなっていった。

これまで社会啓発運動団体として活動してきたが、窮状を訴える親たちに対面して、糸賀一雄氏の言葉にあるように「目覚めたる者の責任」で、直接行動を起こさなければならないと考えた。

子どもの状態から通園施設にも保育園・幼稚園にも入れて貰えない在宅の重い障害児を受け入れ、療育することが必要であると考えた。そのためには療育する場所が必要である。まずプレハブの小屋を建てて始めようと思い、神社・仏閣など広い土地を所有している所を片っ端から当たったが全部断られた。そこへ映画「この子らを世の光に」を観て大変感動したという城北カトリック教会（聖心教会）の神父さんが教会の部屋を貸しても良いと申し出てくださり、医療・心理等の専門家の支援と多くのボランティアの協力で、1969年12月、週3回の集団療育（子ども個人にとっては週1回・母親は別室で相談）を開始した。

僅か週1回の療育で子どもが著しい変化を見せたことに驚いた親たちは、この子ら専用の場所を作りたいと立ち上り、積立て貯金を始めると共に、市役所に土地の借用を求める陳情に行った。その姿を見た聖心教会の信者さんも協力を申し出られ、あさみどりの会の会員も含めボランティアを動員して大規模なバザーを開催したり、廃品回収したり、多方面からの寄付もあり、正に多くの市民参加による「施設建設運動」に発展していった。

運動の声は市役所にも届き、心ある市の幹部職員や公職者（議員）にも協力する方がいてくださり、前例のない〝市有地の民間福祉団体への貸与〟が実現し、15年間にわたるボランティアでの福祉運動を経て、1972年11月「社会福祉法人あさみどりの会」を設立し、同年12月1日「さわらび園」を開園することが出来たのである。

基本理念

あさみどりの会は
心身に障がいのある人との
かかわりを通して
ボランティアの心を育み
すべての人々が
共に良い人生を送れる
社会づくりをおこなう

活動指針

ボランティアの心を基調として活動する

法人設立の原点である〝ボランティアの心〟を事業活動の根幹として、信頼関係に基づく人と人とのかかわりあいを重視し、人々が援け合いながら生きる共生社会の実現を図る。

福祉運動のパイオニアとして活動する

障がいのある人にも、ない人にも〝真の人間福祉〟を実現するために、人間理解の研究・研修を行い、人間援助の技術を開発すると共に、福祉の心を広めるための社会啓発活動を行う。

支援の基本姿勢は利用者本位で行う

支援者は〝人間の尊厳〟を基調として、一人ひとりの利用者の心に聴き、利用者が人間愛を感じ、自由な心で安心して暮らせる良い環境の一員となる。

障がい者の自立と地域生活を目標に支援を行う

幼児期から学齢期も含め成人に至る〝各ライフステージに応じた一貫した発達支援〟に関与し、働く力・生活する力を養い、地域社会の一員として生きられるよう自立支援を行う。

障がい児・者の家族と共に活動する

障がい児・者の安心と心の豊かさを支える最大の存在である家族と共に、本人の〝生涯にわたる豊かな人生を拓くための環境づくり〟に連携して取り組む。

事業は開放的に運営する

事業活動・財務・人事・情報等を常に開示し、利用者・家族・役職員・ボランティア・市民の主体的参加のもとに〝公明・公正な事業運営〟を行う。

事業所は地域福祉の拠点として機能する

事業所は障がい児・者の発達支援・自立支援を行い、地域生活や社会活動を支援すると共に、行政等他の機関と連携して〝地域の様々なニーズに対応する〟福祉の拠点として機能する。

あさみどりの会歴代役員名簿

社団法人あさみどりの会（1968年1月23日設立）

役職	氏名	期間	任期
理事長	伊藤　方文（株式会社光映役員）	1968.1~1972.11 辞任	理事長4年10ヶ月
理　事	堀　　要（名古屋大学医学部教授）	〃	理事4年10ヶ月
	小林　靖彦（名古屋市立大学医学部助教授）	〃	〃
	村上　英治（名古屋大学教育学部助教授）	〃	〃
	中条　雅二（作詞家）	〃	〃
	古橋　金一（名古屋手をつなぐ親の会相談員）	〃	〃
	舟橋　玉燿（愛知県精神薄弱者愛護協会会長）	〃	〃
	原田　五介（名古屋市特殊教育連絡協議会長）	〃	〃
	新田　敏夫（名古屋市あずま中学校特殊学級担任）	〃	〃
監　事	原　　浩（愛知県仏教会副会長）	〃	監事4年10ヶ月
	牧野　正男（名古屋手をつなぐ親の会連合会長）	〃	〃

社会福祉法人あさみどりの会（1972年11月24日設立）

役職	氏名	期間	任期
理事長	堀　　要（名古屋大学名誉教授・児童精神医学者）	1972.11~1983.12 死去	理事長11年
	北野　博一（元県立看護大学学長・内科医）	1978.4~1988.3 辞任	監事6年・理事長4年
	村上　英治（名古屋大学名誉教授・臨床心理学者）	1972.11~1995.6 死去	理事16年・理事長7年
	島﨑　春樹（施設長・元社会教育主事）	1975.4~2014.11 辞任	理事4年・専務理事16年・理事長20年
	後藤　秀爾（愛知淑徳大学教授・臨床心理学者）	1996.7~ 現在	評議員4年・理事15年・理事長8年～
理　事	伊藤　方文（専務理事・法人創始者・元教師）	1972.11~1979.8 死去	専務理事7年
	鈴木　末造（元愛知県民生部長）	1972.11~1974.12 辞任	理事2年
	松原　正之（元名古屋市厚生院長）	1972.11~1975.3 辞任	理事2年
	中北　智久（中北薬品会長）	1972.11~2014.11 辞任	理事42年
	牧野　正男（名古屋市親の会理事）	1972.11~1993.3 辞任	理事21年
	舟橋　玉燿（愛知県精神薄弱者愛護協会会長）	1974.12~1995.11 辞任	理事13年・監事7年
	伊藤伊登子（創始者婦人・主婦）	1979.8~1983.11 辞任	理事5年
	伊藤　方一（元愛知県職員・教育カウンセラー）	1983.11~2000.9 死去	理事17年
	鈴木　國夫（元名古屋市児童福祉センター精神科医）	1983.11~2006.11 辞任	監事5年・理事18年
	村地　俊二（愛知県コロニー名誉総長・整形外科医）	1988.3~2010.11 辞任	理事23年
	椿　　泰廣（保護者・会社役員）	1993.3~ 現在	理事29年～
	高濱　　潔（施設長・元市リハセン副センター長）	1995.7~2014.11 辞任	専務理事20年
	嶌村　善照（元豊田市福祉事業団事務局長・僧侶）	2006.11~2019.11 辞任	理事13年
	島崎　徹也（専務理事・施設長）	2009.4~ 現在	評議員2年・理事3年・専務理事9年～
	追分　伸夫（専務理事・事務局長）	2009.4~ 現在	評議員6年・専務理事8年～
	島田　修三（保護者・愛知淑徳大学学長）	2010.4~ 現在	評議員5年・理事8年～
	熊谷かの子（施設長）	2014.11~2020.9 辞任	評議員5年・理事1年
	山本　智恵（施設長）	2020.11~ 現在	理事2年～
監　事	原　　浩（地域支援者・僧侶）	1972.11~1978.12 辞任	監事6年
	黒宮　光一（名古屋市民生局参事）	1972.11~1978.3 1986.12~2003.11 辞任	監事21年
	河野博太郎（労務コンサルタント）	1978.12~1986.12 辞任	監事8年
	小林　博義（司法書士）	2003.3~2018.5 辞任	監事15年
	渡邊　冬樹（社会保険労務士）	2018.6~2019.7 死去	監事1年
	菅沢　　豊（青空の家施設長）	2014.11~ 現在	監事8年～
	渡邊　　勝（税理士）	2019.11~ 現在	監事3年～

あさみどりの会評議員会（1995年4月発足）

役職	氏名	期間	任期
評議員	鵜飼　信孝（元法人職員・僧侶）	1995.4~ 現在	監事19年・理事3年・評議員6年～
	青山　達雄（町内会役員・カメラマン）	1995.4~ 現在	評議員27年～
	浅井　　勉（ボランティア・自営業）	1995.4~2021.6 辞任	評議員26年
	綱木みどり（知的障害者相談員・地域支援者）	1995.4~2921.6 辞任	評議員26年
	島﨑　左世（施設長・元産業カウンセラー）	1995.4~2014.11 辞任	評議員20年
	坂　　礼美（ボランティア・主婦）	1995.4~2008.3 辞任	評議員13年
	吉田とき江（施設長・元愛知県コロニー保育士）	1995.7~2010.3 辞任	評議員15年
	渡辺由紀子（民生委員・主婦）	1995.7~2001.3 辞任	評議員6年
	山際　耕兄（福祉専門学校教授）	1996.4~1996.6 死去	評議員3ヶ月
	中谷　雄二（弁護士）	2001.4~2005.3 辞任	評議員4年
	伊藤　暁子（中学校教師）	2001.4~2009.3 辞任	評議員8年
	坪内　勝彦（保護者・自営業）	2003.4~ 現在	評議員19年～
	森　　弘典（弁護士）	2005.4~ 現在	評議員17年～
	植田　一雄（施設長）	2008.4~2009.3 辞任	評議員1年
	野々山　郁（野々山歯科医院長）	2014.11~ 現在	評議員8年～
	手嶋　雅史（椙山女学園大学教授）	2014.11~2022.3 辞任	評議員8年
	葛原　成美（施設長）	2014.11~2017.3 辞任	評議員3年
	渡邊　幸良（同朋大学教授）	2021.4~ 現在	評議員2年～
	堀　美和子（日本福祉大学准教授）	2022.4~ 現在	評議員1年～
	江部　眞弓（ＮＰＯ法人理事長）	2022.4~ 現在	評議員1年～

あさみどりの会評議員選任解任委員会（2019年4月発足）

役職	氏名	期間	任期
委　員	田中　善美（外部委員・保育園長）	2017.2~ 現在	委員5年～
	江部　眞弓（外部委員・ＮＰＯ法人理事長）	2017.2~2022.3 辞任	委員5年
	渡邊　冬樹（外部委員・社労士）	2017.2~2018.5 辞任	委員1年
	菅沢　　豊（法人監事）	2017.2~ 現在	委員5年～
	葛原　成美（法人職員）	2017.2~2018.5 辞任	委員1年
	村地　裕子（外部委員・医療ケースワーカー）	2018.5~ 現在	委員4年～
	山本　智恵（法人職員）	2019.11~2020.9 辞任	委員1年
	鷲見まち子（法人職員）	2020.10~ 現在	委員2年～
	堀　　智二（外部委員・会社員）	2022.3~ 現在	委員8ヶ月～

療育相談中の初代理事長 堀要氏

映画「この子らを世の光に」の舞台「岐阜長良荘」にて 法人創始者伊藤方文氏

あさみどりの会の事業

令和5年3月31日現在

あさみどりの会

この子らを世の光にと願い 援け合うこころを育む

もくじ

あさみどりの会の始まり …2
基本理念 …3
あさみどりの会 歴代役員 …4
あさみどりの会の事業
あさみどりの会の公益を目的とする事業 …8
さわらび園 …10
べにしだの家 …12
れいんぼうワークス …14
あらくさ …16
郡上山の家 …17
社会福祉法人あさみどりの風 わらび …18
あさみどりの会のあゆみ ― 育み、取り組んできたこと ―（年譜）…20
集い・研修・講座など活動記録の概要
1 心身障がい問題を考える集い …44
2 障がい児問題研修旅行 …46
3 子どもの精神衛生講座 …47
4 療育問題研修講座 …47
5 療育問題公開講座 …47
6 お母さん教室 …47
7 婦人のためのボランティア講座 …48
8 心身障がい児のためのボランティア療育援助研修会 …48
9 ボランティアスクール …49
10 ボランティア集会 …53
11 ボランティアフェスティバル …53
12 心身障がい児の母親研修会 …54
13 カウンセリングセミナー …56
14 障がい児療育セミナー …57
15 障がい児・者発達支援セミナー …58
16 ワークショップ …58
17 父親の会（研修会）…58
18 父親フォーラム …59
19 フォーラムあさみどり …59
20 福祉コンサート（わたぼうしコンサート・なないろコンサート）…60
21 グループホーム見学会 …62
出版物・映画製作 …63
機関紙「療育援助」インデックス …74

●● あさみどりの会の公益を目的とする事業 ●●

療育援助事業

療育相談　1966年伊藤方文氏宅で開設。1968年東別院青少年会館小会議室に移転。1972年さわらび園開設により同園に移転。以後開設される各事業所でも対応。公的には2006年障害者自立支援法施行と共に「相談支援事業」が開始され「相談支援専門員」が置かれるようになった。

在宅障害幼児集団指導　1969年～1972年、「聖心教会」の部屋を借り、ボランティアの支援で実施。

在宅の重い心身障害児・者年末訪問　1969年～1974年、東別院青少年会館所属のボランティア100人余が、名古屋市各区親の会役員の案内で訪問。

在宅障害児の家庭療育援助　1973年～、ボランティアが家庭を訪問して障がい児支援を行い、家族の負担軽減、家族の話し相手などに対応。2000年以降「居宅介護」「重度訪問介護」「移動支援」などの制度が充実。

水曜療育　1976年～、毎週水曜日午後1時～3時、任意契約で障害乳幼児の療育。1982年名称を「りとるぐるぅぷ」と改名、名古屋市の補助事業となる。（於・さわらび園）

学童療育　1985年～、月1回土曜日午後、小学1年から中学3年まで、主に就学後の育てのモニタリング。別日に母親グループカウンセリング。現在、学童療育の中に放課後クラブを設置し、ダンス等の余暇活動の支援。（於・さわらび園）

学童作業実習　1984年～、夏休み中に小学5年～中学3年の学童を、1組5～8人ずつ1週間作業実習。実習後母親面談。（於・わらび福祉園、各事業所）

地域療育グループ支援　1970年～、市区町村単位の親の会等主催の療育グループの活動（月1回）にボランティア派遣。（於・千種区、中川区、師勝町など）

ボランティア育成事業

心身障害児のためのボランティア療育援助研修会（中日新聞社会事業団共催）　1968年～1976年、17講座（198回）受講者685人。（於・東別院青少年会館共催）

ボランティアスクール　1976年～、対象を心身障害の枠外にも広げて、参加者による自主企画運営方式で開講。2020年までに76講座（790回）受講者3795人。以後コロナ禍でオンラインにて開催。（於・あさみどり会館）

婦人のためのボランティア講座　1981年～1989年、6講座（31回）受講者94人。（於・あさみどり会館）

ボランティアサロン　1976年～1979年、毎月第1土曜日午後6時30分～8時30分。（於・あさみどり会館）

ボランティア集会（現ボランティアフェスティバル）　1996年～、ボランティアサークルの交流と研修（年1回）。2019年まで22回開催、コロナ禍で1年間中断。2021年リモート開催にて再開。（於・べにしだの家）

ボランティアグループ連絡協議会　1976年～、年1回開催。（於・あさみどり会館）

ボランティアグループ育成・ボランティア相談　随時。（於・各事業所）

社会啓発事業

機関紙「療育援助」（月刊）の発行　1974年～2023年3月号で577号。

出版物の刊行　1958年～2022年現在、「心身障害児の療育援助のために」「坂道をのぼる子ら」「父たち」「べにしだ物語」「夢あさみどり」など33冊刊行。

映画制作　1960年～1981年、「わが愛と祈り」「あなたはご存じですか」「この子らを世の光に」「広がれ愛の波紋」「そっちやない、こっちや」など10本制作。

心身障害問題を理解する集い（現心身障害問題を考える集い・朝日新聞名古屋厚生文化事業団共催・講演会、シンポジウム。対象、一般）　1966年～2022年現在、60回開催。（於・朝日ホール他）

父親フォーラム（現フォーラムあさみどり・講演会、シンポジウム、実践報告。対象・あさみどりの会関係者、一般希望者）　1997年～2021年現在、24回（年1回）参加者2540人。（於・中日パレス等）

わたぼうし名古屋コンサート（現ないろコンサート・障がい者やその家族等の詩に曲をつけて発表など）　1978年から2015年の間に19回開催。以後ミニコンサートを各地で開催。（於・名古屋市公会堂他）

お母さん教室（対象・地域一般の母親）　1977年～1981年、5講座（32回）受講者142人。（於・あさみどり会館）

新池子どもクラブ（対象・地域の小学生）　年6回活動。1976年～2019年（44年間）、以後2年間コロナ禍で中断。2022年再開（拠点・さわらび園）。

各事業所の地域住民参加の催事　1975年～、しんいけ盆踊り、さわらび運動会、さわらび祭、わらび秋祭り、べにしだ祭、れいんぼう祭など。

各事業所施設の地域開放　1975年～、随時。

支援者養成事業

障害児問題研修旅行（朝日新聞名古屋厚生文化事業団共催）　1966年～1979年、全国各地の先進的に実践している施設等を視察（原則年2回）、22回実施。

心身障害児の母親研修会（対象・さわらび園在園児母親、一般希望者）　1977年～2019年、438回開催。以後コロナ禍で中断。（於・あさみどり会館）

療育問題研修講座（公開講座）　1977年、4講座（25回）開催。（あさみどり会館開館の年集中して開講）

カウンセリングセミナー　1979年～1994年、宿泊を含めエンカウンターグループによる学習。32講座（205回）、受講者990人。（於・あさみどり会館）

障害児療育セミナー　1995年～2006年、21講座（118回）、受講者813人。（於・あさみどり会館）

障害児・者発達支援セミナー（他ワークショップ）　2007年～2016年、10講座（33回）、受講者449人。（於・あさみどり会館）

※各種支援制度の充実によるニーズの高まりで、各地で支援者養成セミナーが開かれるようになり、当法人のパイオニアとしての役割が終了。

障がいのある方の生活を支える支援者養成講座（グループホーム支援者）　2013年～2019年、各事業所（わらび福祉園、べにしだの家、れいんぼうワークス）で計21回開催、参加者258人、以後コロナ禍で中断。

父親研修会　1985年～1991年、10回開催、参加者452人。（於・あさみどり会館）

職員研修　法人職員全体研修、新任職員研修、初級職員研修、中級職員研修、リーダー職員研修、グループホーム世話人新人研修、インシデント・プロセス研修、他。

野外活動事業

障害児母子のためのホリディー・センター「みどりの苑」開設　1970年～1976年（於・瀬戸はちのす寮）。

なかよしキャンプ（障害児と健常児の混合キャンプ）　1975年～1976年（於・三重県藤原町）

さわらび園親子療育キャンプ（3泊4日）　1976年～1988年「三重県菰野町・尾高キンダーハイム」で13回実施。1989年～2019年「あさみどりの会研修所・郡上山の家」で31回実施。以後3年間コロナ禍で中断。

水曜療育グループ（後りとるぐるぅぷ）親子療育キャンプ（2泊3日→3泊4日）　1976年～1988年、郡上「島崎宅」で13回実施。1989年～2019年、「郡上山の家」で31回実施。以後コロナ禍で中断。

新池子どもクラブキャンプ（3泊4日）　1976年～1988年、郡上「島崎宅」で13回実施。1989年～2019年、「郡上山の家」で31回実施。以後3年間コロナ禍で中断。

学童合宿（さわらび園卒園児）　中学生合宿（3泊4日）2001年～2019年、19回実施。以後コロナ禍で2年間中断、2022年9月2泊3日で再開。小学生合宿（2泊3日）2005年～2019年、15回実施。以後コロナ禍で3年間中断。

学童農業体験プログラム　2021年～、小学生・月1回農作業体験。（於・れいんぼうワークス畑）

家族の活動支援

障がい児の生涯の幸せを実現するために活動する家族のグループを支援する。

父親のグループ　虹の会（1987年発足）／あらくさの会（1990年）／わらび自立生活を援助する会（1991年）／かわせみの会（1992年）／べにしだの家自立をすすめる会（1997年）／あしたばの会（1996年）／フォルテ（2000年）／れいんぼうワークス自立の会（2002年）／クラブ・ヤジオ（2011年）／かたつむり（2015年）

母親のグループ　四季の会（1978年発足）／みどりの会（1979年）／美樹の会（1980年）／わらの会（1981年）／すばるの会（1984年）／もえぎの会（1986年）／ウイング（1987年）／あゆいの会（1990年）／あじさいの会（1990年）／こもれびの会（1993年）／あんずの会（1996年）／東風の会（1999年）／凪の会（2002年）／リズム（2005年）／宙の会（2008年）／こだま（2010年）／JOY!!（2014年）／コパン（2017年）／いちごの会（2021年）

きょうだい会（年2回開催）　1997年べにしだの家きょうだい会開始、2000年わらび福祉園きょうだい参加、2004年れいんぼうワークスきょうだい参加。2013年より法人全体きょうだい会1回、事業所別きょうだい会1回に分けて開催。

児童発達支援センター・法人本部
さわらび園

昭和 47 年 12 月 1 日開設（法人設立認可 / 昭和 47 年 11 月 24 日）

所在地　名古屋市千種区新池町 1-18-2
規　模　敷地面積 826.39㎡（名古屋市所有地）
　　建物床面積 782.11㎡、RC 造 3 階建（平成 26 年 6 月建替え）
建設費　2 億 6,790 万円〈資金 / 借入金 1 億 3,000 万円、寄付金 6,270 万円、建設積立金 6,750 万円、法人会計 390 万円、施設会計 380 万円〉

児童発達支援センターさわらび園の事業

〈障害児通所支援事業〉
▼ 児童発達支援・定員30名／母子通園での療育と併せて、保護者の学習プログラムも実施する。
▼ 保育所等訪問支援／保育園、幼稚園、学校等に当園の専門スタッフが訪問し集団生活適応への支援を行う。

〈障害児相談支援事業〉
▼ 障害児とその家族の子育て期を支え、適切な療育やサービス利用に向けてケアマネジメントを行う。

〈その他の事業〉
▼ **療育グループ**／りとるぐるぅぷ（就園前G・週1回）、親子教室ジョイフル（幼保就園児G・隔週1回）、学童療育（小中学生G・月1回）の実施。
▼ **療育相談**／ことばや発達が気になるお子さんの相談に当園の専門スタッフが対応する。

療育室

母親
カウンセリング室

さわらび園の沿革

開園早々困難に遭遇

昭和47年12月、「知的障害児母子通園施設・さわらび園」は。糸賀先生の「この子らを世の光に」の言葉を理念に、長年あさみどりの会の運動にかかわってきた多くの支援者に見守られて開園した。

翌年9月、当時社会現象のように全国の福祉施設に広がっていた労働争議の風が、台風のように新設の小規模施設さわらび園を襲い、開園早々に困難の時期があったが、毎月理事会を開いて対応し、4年後にようやく収束した。

多くの人々の夢と希望を託されて開園したさわらび園であったが、労働争議で子どもの療育は暫定定員となり、ボランティア養成や行事など他の事業は全く行えなかった。その〝空白の4年間〟が終り、再生に向けて、子どもの療育の充実と社会公益事業に取り組んでいくために施設設備を拡充整備することにした。

旧園舎　昭和47（1972）年～平成25（2013）年

あさみどり会館が完成

昭和52年、さわらび園2階を増築して研修室、会議室、相談室、カウンター付談話室を設け、さわらび園の設備も含め総称して「あさみどり会館」が完成。

研修室では母親研修会、ボランティアスクール、支援者養成講座など。会議室は母親グループカウンセリング、職員ケース会議、ボランティアサークルの集まりなど。相談室は療育相談、母親の個別カウンセリング、子どもの心理判定などが出来るようになり、談話室は学生やボランティアのたまり場として賑わうようになった。

さわらび園の療育も、広い研修室が出来たことで、入園式、学習発表会、クリスマス会、卒園式などを盛大に開催出来るようになった。

また、入園前の子どもを対象に「水曜療育グループ」、地域の小学生を対象に「新池子どもクラブ」も発足し、隣接するどんぐり広場も利用して「さわらび祭（バザーと催し物）」を盛大に開催出来るようになった。

さわらび園は困難から学び、工夫と努力で母子療育体制を確立させていった。

あさみどり会館が出来た昭和50年代から、学生や若いボランティアが多く集まり、ボランティアスクールも盛況で、多くのボランティアにさわらび園の療育や行事を支えて頂き、福祉コンサートも開催し、研修事業、地域交流も活発になり、会館は連日多くの人が出入りするようになっていった。

平成26年、老朽化した園舎の改築は助成金の目処が立たず、多くの人の支援と借入金で、全額自己資金で改築した。

母子療育の実践

母子で徒歩通園 ▼ 車社会の中あえて公共交通と徒歩で通園し、人・物・自然から刺激を受け母子の心と体が鍛えられる。

母親の療育参加 ▼ 母親が療育の場に入り職員と共に経験を分かち合い、母子関係を調整し、食事・排泄など身辺自立にも共に取り組み、家庭でも応用し、子どもの全面的な発達につながっている。

母親のグループカウンセリング ▼ エンカウンター方式で実践することで、母親が胸の内に抑え込んでいた苦しい気持ちを皆の前で吐露出来るようになると、共感の輪が広がり、本当の自分への気づきが起こり、わが子に真摯に向き合い、障がいのある子どもを育てることに「新たな価値」を見出して、わが子の特性を理解した育ての出来る母親になっていく。

母親研修会 ▼ 母親が子どもの障がいについての正しい知識や親としてのあり方などを専門家や先輩の親などから学ぶ。

親子療育キャンプ ▼ 3泊4日を子どもはマンツーマンでボランティアに担当で付いて貰い、母親は子どもと離れて、学習会の後温泉に行ったり、フランス料理のレストランで会食するなど、日頃の子育ての苦労から解放されるひとときを過し、土曜日には父親も合流し、全員でバーベキューを楽しむ。このキャンプは大自然の中で新しい体験や人間関係が生まれ、親子共に大きな変化が見られる。

親子宿泊療育 ▼ 1泊2日の宿泊で日々の療育では確認しきれない子どもの生活全体の状況を把握し、それを母親と共有し、家庭での対応につなげる。母親は食事会や親睦旅行などでリフレッシュする。

卒園後も関与

学童療育を開始 ▼ 開園から10年後に開設したわらび福祉園で強度行動障害の人や身辺未自立の人に出会い、学齢期の育てにも関与し二次障害を予防しなければならないと考え、昭和60年に開始した。

親のグループ育成 ▼ 卒園児の母親に卒園後も助け合い社会的に孤立しないようグループ作りを奨めた（現在まで19G）。父親には子どもの未来を拓くためにグループで取り組むことを奨めた（7G）。

50年間母子通園を貫いてきて

「母が育てば子は育つ」という信念で〝知的障害幼児母子通園施設〟を謳って開園したさわらび園は、途中で国からも市からも「子どもだけをバスで通園させる」制度を守るように強い指導はあったが強制はされず、見守って頂いた年月でもあった。平成29年、国の児童発達支援ガイドラインに「家族支援」が示された。45年の歳月が経っていた。

談話室

べにしだの家

（平成７年９月１日開設）

所在地　愛知県名古屋市中村区鴨付町 2-46
規　模　敷地面積 1,688.16㎡（名古屋市所有地）
　　建物床面積 1,784.34㎡、RC 造３階建
建設費　４億 5,000 万円〈資金 / 国・市補助金３億円、借入金 7,000 万円、寄付金 6,500 万円、法人自己資金 1,500 万円〉

べにしだの家の事業

〈日中支援〉
▼生活介護・定員55名／本館（クリーニング、部品組付け、音楽活動、アート活動、ウォーキング等）、あらわい作業室（箱折り、部品組付け等）。
▼日中一時・定員４名／障害者日中一時支援、障害児（小・中学生）作業実習。
〈夜間支援〉
▼施設入所支援・定員30名。
▼短期入所・定員４名（併設型２名＋空床型）。
▼共同生活援助・定員30名（グループホーム５軒に居住）。
〈障害児・者相談支援〉

べにしだの家の沿革

施設建設準備会「べにしだの会」発足

平成３年10月、名古屋市から当市有地に施設建設の要請があった。

平成５年６月、希望する保護者40人が施設建設準備会「べにしだの会」を結成し、学習と交流の会を隔月に開催、建設資金の共同積立ても開始した。学習会で入所施設は一定期間利用して地域へ移行するために作ることを説明。会合は法人研修所「郡上山の家」での合宿も含め13回行った。

平成７年９月、「べにしだの家」を入所更生30人、通所授産20人の複合施設として開設した。開設後10年計画で「利用者の地域生活」を目標に、保護者と施設が共働して取り組んでいく事を確認した。

入所した利用者は自傷他害器物破損など、片時も目が離せない強度行動障害のある人13人、重症心身障害者５人、全盲の人２人を含め重度者が８割を占め、幼児期・学齢期の育ち盛りに〝重度だから〟と人間として最低限の生活する術を家でも学校でも体験させて貰っていなくて、情緒的にも、身辺処理においても、生活する力があまりにも弱かった。

親と共に人海戦術で育て直しに挑戦

利用者の平均年齢23歳、母親52歳、父親54歳。親が体力的にも経済的にも頑張れるのは後10年。そこで利用者の生育年齢を５～６歳位まで戻して親と共に育て直しに取り組むことにした。

そのためには個別対応が必要で、日中活動（作業）に母親が当番で４人入って貰い、ボランティア２～３人と現場職員（入・通所の区別なく）18人全員が入り、50人の利用者に24人～25人の支援者を配置した。夜間は母親が宿泊当番で３人入り、宿泊ボランティア２人と夜勤専門職員１人、宿直職員４人で入所者30人に支援者を10人配置した。職員の休日（当時土・日は２～３人を残し大半が帰省できていた）出勤の代休が取れるのは３年目から、泊まり明け（11時まで勤務）は５年目からで、ウィークデイの泊まり明け昼夜連続勤務は４年間続いた。

地域移行と活発な授産活動

おかげで問題行動が減り、生活動作能力も向上していった。従って利用者の状況に応じて支援者を徐々に減らしていき、15年後にはほぼ全員がグループホーム生活が出来るまでになった。

グループホームへ移行した利用者は10年目までに20人、18年目に重症心身障害者も移行して30人になった。いずれは入所施設を閉鎖して全員グループホームなど地域生活を目指している。

日中活動（作業）は一部職住分離して徒歩15分の所に作業室を設置して20人余が街の中を通勤して働くようにした。作業の最盛期（平成18年）の売り上げは１７４０万円。クリーニング９９０万円。その後茶房「游」を閉店、クリーニングの顧客は減少していくことになる。

利用者の高齢化が進み次のステージへ

べにしだの家は今年（令和５年）で28年になる。利用者や親の年齢や体力に応じてその時期時期を精一杯取り組んできた。現在元気に働いている人もいるが、高齢化で車椅子の人も10人。時代は支援のあり方も次のステージへ進む。

父親の活動は「自立をすすめる会」を結成。年２回の学習と交流の会を開き、グループホーム建設資金の積立てを行い実現してきた。

母親の活動は当番で施設活動を支え、学習会（宿泊研修もあり）やバザー活動などで長年にわたり交流を深め、高齢で夫を送り一人になった人も、孤立せず良い人間関係に支えられている。

こがもホーム（定員５名）〈建物右〉

平成 19 年５月１日開設／平成 14 年４月別の借家で認可
所在地　名古屋市中村区小鴨町 85-2
規　模　敷地面積 156.12㎡、
　　建物床面積 216.97㎡（RC造３階建）。
土地建物購入　8,600 万円、改修費 800 万円〈資金 / 寄付金 8,600 万円、法人 800 万円〉

ゆうゆう（定員４名）〈建物左〉

平成 18 年７月１日開設
所在地　名古屋市中村区小鴨町 86-1
規　模　敷地面積 169.91㎡、
　　建物床面積 183.15㎡（木造２階建）。
建築費　5,000 万円〈資金・借入金 2,000 万円、寄付金 1,500 万円、法人 1,500 万円〉

〈沿革〉　自立をすすめる会では、施設開設後「地域移行」を実現するために５か年をめどに、共同貯蓄することを申し合せた。ちょうど５年目の平成 12 年、隣地に敷地 326㎡にRC造３階建の住宅が売りに出されていたので、緊急に総会を開き購入のために資金を拠出することを決めた。建物は「小鴨ハウス」と名付け、２・３階で重度障害者４名を入所措置のまま自活訓練を開始。１階はお母さんたちの手芸品作りの作業室にした。平成 15 年、敷地内に「第２小鴨ハウス」を新築、２階で重症心身障害者の地域生活の可能性を探るための生活訓練（４名）を行い、１階に喫茶店「茶房“游”」を開店した。以後ほぼ６か年を経てそれぞれグループホームに移行した。

共同生活援助事業所

いなばじホーム（定員７名）

平成 25 年４月１日開設・認可
所在地　名古屋市中村区稲葉地町 8-73
規　模　敷地面積 192.89㎡、
　　建物床面積 301.87㎡（RC造３階建）
購入・改修費　8,860 万円〈資金・借入金 6,700 万円、寄付金 1,200 万円、法人 960 万円〉

〈沿革〉　以前から重症心身障害者や高齢者の地域生活を模索してきたが、設備面やバックアップ体制が不充分であった。そこで本館から 200 mの距離で良い物件が出たので、自立をすすめる会と相談して購入することとした。そして身体的に不自由な人たちにしっかり対応できるよう配慮して改修した。土地建物購入費 4,470 万円、改修費 4,390 万円。

あらわいの家（定員７名）

平成 20 年６月１日開設／平成 15 年 10 月別の借家で認可
所在地　名古屋市市中村区荒輪井町 1-37-1
規　模　敷地面積 230.12㎡、
　　建物床面積 255.42㎡（RC造３階建）
購入・改修費　7,350 万円〈資金・借入金 3,500 万円、寄付金 1,500 万円、法人 2,350 万円〉

〈沿革〉　平成 14 年より順次借家を３軒借りてホームを運営してきたが、家賃が高額であることと使い勝手が悪いので、家賃に支払う金額を返済に当てることで借りられる金額を銀行から借入れ、土地・建物を購入し改修することとした。２・３階をホーム、１階を作業室にして「ながおさ作業所」を移転。土地・建物購入費 4,100 万円、改修費 3,250 万円。

ながおさホーム（定員７名）

平成 10 年９月１日開設／平成 11 年４月１日認可
所在地　名古屋市中村区長筬町 7-37-1
規　模　敷地面積 115㎡、
　　建物床面積 177.19㎡（鉄骨造３階建）
購入・改修費　5,600万円〈資金 / 寄付金 4,100 万円、法人 1,500 万円〉

〈沿革〉　グループホームの第１号を自立をすすめる会で共同購入、３階建の１階を作業室にして、２年間家賃 30 万円で借りていた作業所を解約した。購入費 4,100 万円のうち、3,000 万円を父親の会の共同名義で愛知銀行から借り入れ、９年後に完済後土地・建物を法人に寄付した。平成 22 年、作業室の移転により大改修（改修費 1,400 万円）して、ホームの定員を４名から７名に変更した。

れいんぼうワークス

（平成 14 年 4 月 1 日開設）

所在地　愛知県愛西市西條町相之江 119-1
規　模　敷地面積 745.95㎡　建物床面積 519.28㎡、RC 造 2 階建、（平成 22 年増改築、作業室を広げ会議室と相談室を設置）
建設費　1 億 5,740 万円〈資金 / 国・県補助金 7,900 万円、借入金 3,400 万円、寄付金 2,700 万円、法人自己資金 1,740 万円〉

左から
虹の家Ⅲ・Ⅳ、虹の家Ⅴ、
ミニログハウス、東屋、本館、
虹の家、虹の家Ⅱ、手前畑・駐車場
（土地総面積 3247.23㎡）

れいんぼうワークスの事業

〈日中支援〉 ▶ 生活介護・定員 23 名／農作業、部品組付け、創作活動他。▶ 日中一時支援・定員5名
〈夜間支援〉 ▶ 共同生活援助・定員 30 名／グループホーム 5 軒に居住

虹の家Ⅴ（定員 6 名）

平成 26 年 7 月 1 日開設・認可
所在地　愛西市西條町相之江 116-1
規　模　敷地虹の家Ⅲ・Ⅳと同一敷地
建物床面積 222.58㎡（木造平屋建）
建築費　5,930 万円〈資金 / 借入金 2,000 万円、寄付金 3,000 万円、法人 930 万円〉

〈沿革〉 虹の会会員の子ども全員が入居できるように第 5 号のホームを建設した。建物を地域交流スペースとしても活用できるよう、ゆったりとしたリビングルームにカウンターコーナーも設けた。設備は重度者・高齢者に対応できるよう配慮した。（各ホーム建築費寄付金は全て虹の会から）。

虹の家Ⅱ（定員7名）

平成 20 年 4 月 1 日開設・認可
所在地　愛西市西條町相之江 102-3
規　模　敷地面積 346.75㎡（坪内氏より寄付）、
建物床面積 154.73㎡（木造平屋建）
建築費　3,300 万円〈資金 / 借入金 1,700 万円、寄付金 1,600 万円〉

〈沿革〉 坪内氏から寄付された土地の半分を、グループホームの第 2 号建設用地として残してあったので、虹の家と 2 軒で虹の会第 1 グループの人全員が利用できるよう、定員 7 名で建設した。虹の会が、グループホーム建設を目標に活動を開始してから、20 年をかけて目標を達成したことになる。

虹の家（定員 4 名・6 室）

平成 17 年 4 月 1 日開設・認可
所在地　愛西市西條町相之江 102-3
規　模　敷地面積 248.5㎡（坪内氏より寄付）、
建物床面積 194.4㎡（木造 2 階建）
建築費　4,600 万円〈資金 / 日本財団 1,800 万円、借入金 2,000 万円、寄付金 800 万円〉

〈沿革〉 虹の会発足時からの目標は、グループホームの建設にあったが、当時は本体施設（バックアップ施設）がないと設置が認可されなかったので、まず施設を作ってからということになり共同購入した用地に「れいんぼうワークス」を建設した。坪内勝彦氏がグループホーム用の土地を寄付していただいたおかげで、実現させることができた。

れいんぼうワークスの沿革

5 家族から

昭和 62 年、さわらび園卒園児の親で愛知県西部地域（当時海部郡を中心）に在住する 5 家族が集まって、「障害児の生涯の幸せを願って〝生きがいの場〟の実現をめざすこと」を目的として「虹の会」を結成。

平成元年、あさみどりの会に相談しながら、将来通所施設とグループホームの建設を目標に「学習会」と「共同貯蓄」を始める。会員を募集し、平成 3 年には会員 12 名（家族）になり、活発に活動（例会、学習会、施設見学、親睦会、アルミ缶回収、フリーマーケットなど）。

土地を購入

平成 4 年、将来施設またはグループホームなどの用地として、745・95㎡の土地（3、500 万円）を共同購入。この時子どもの年齢は平均 10 才。以後平成 13 年の施設着工まで 10 年間、土地を畑にして作物を作ったり、草取りをしたり、会員は土地の管理に苦労した。また、この間に待ちきれない複数の会員が急に退会するなど、会の維持運営にも大変苦労があった。平成 12 年、地元佐屋町長と理事長が会談し、施設建設に向けて動き出した。

平成 14 年 4 月、知的障害者通所授産施設「れいんぼうワークス」（定員 20 名）開設。虹の会会員は、施設建設に当って先に購入した土地を法人に寄付し、建設資金にも多額の寄付をして、他のグループや法人の職員からも多額のカンパを寄せていただき、まさに 15 年余にわたる虹の会の苦労の結晶としての施設の実現であった。

開設時の利用者 18 名のうち会員の子ども 9 名が入所し（3 名は一般就労、他の 9 名が新規の人たちであった。施設開設後の課題は、15 年余にわたって物心両面で努力を積み重ねてきた虹の会会員と、新規利用者の精神的温度差をどう調整するかということであった。幸い新規利用者の方々も、グループホームの建設をめざしている虹の会の活動に共感して、全員が虹の会に入会し、徐々に良い関係が築かれていった。新旧合わせて 30 名の会員が、資金拠出など個人的にも痛みを伴う活動を信頼関係で繋がって実現できたのは稀有なことであった。

グループホーム建設へ向けて

平成 17 年、第 1 号ホーム「虹の家」を開設。その建設に当たっては定員 4 名のところ 6 部屋を設置。2 部屋は未入居の利用者がプレグループホーム体験実習の場として活用したことで、家庭からグループホームの生活への移行をスムーズに行っていくことが出来た。かくして、第 1 号ホームから 10 年間で 5 軒建設、虹の会会員の子弟全員がグループホーム生活を送っている。その後、令和元年施設南側グループホーム前広場に東屋とミニログハウスを建設。施設内のさまざまな活動や対外的なイベントに活用。平成 30 年れいんぼうワークス南側の土地を購入（953㎡）。令和 2 年その土地を畑と花壇や駐車場として整備し、同年、平成 14 年より開業していたクリーニング部門を顧客の減少で廃業し、無農薬・無肥料の自然栽培による農業を日中の事業の中心に据え、地域福祉の拠点となる事業所運営を目指して展開している。

共同生活援助事業所

虹の家Ⅲ・虹の家Ⅳ

（1 階、定員6名・7室）・（2 階、定員7名）

平成 23 年 4 月 1 日開設・認可
所在地　愛西市西條町相之江 116-1
規　模　敷地面積 953.03㎡（虹の会第 2 グループ共同購入 1,200 万円）、建物床面積 270.35㎡（木造 2 階建）
建築費　8,000 万円〈資金 / 補助金 1,900 万円、借入金 3,000 万円、寄付金 3,100 万円〉

〈沿革〉 平成 14 年 4 月、れいんぼうワークスが開設されたあと、虹の会（第 1 グループ）がグループホーム建設の準備に入っているのを見て、新規入所したメンバー（虹の会第 2 グループ）も刺激され、グループホーム建設に向けて資金づくりなど活動を開始。施設開設から僅か 2 年後（平成 16 年 3 月）に土地を共同購入。

用地の有効活用とホームをバリアフリーにするために、2 階建の 1 階と 2 階を別々のホーム（虹の家Ⅲ・Ⅳ）として利用する構造にした。

あらくさ

平成 17 年 4 月 1 日開設

所在地　愛知県名古屋市千種区神田町 14 － 5 サンサンビル(借家)
規　模　敷地面積　306.51㎡
　　建物床面積　作業室（1,2 階）349.56㎡
　　神田ホーム（3 階）178.2㎡
改修費　8,100 万円（グループホーム含む）
　　〈資金 / あらくさの会寄付金 3,100 万円、、法人 5,000 万円〉

あらくさの沿革

平成元年7月、さわらび園在園・卒園児父親で〝子どもの将来を考える有志〟19人が発起人会を作り、毎月学習会と話し合いを重ね（8回）、翌平成2年4月、名称を「あらくさの会」として設立総会を行った。そして5月から子どもの将来のために一人月額3万円の共同積立てを開始、毎年3千円増額することとした（子どもの平均年齢6歳、父親の平均年齢39歳）。平成5年6月、さわらび園の近くの大型中古住宅を共同購入。将来のグループホームと作業室を目標に、当面は会議、親の学習会、子どもの宿泊訓練に使用（（購入、改修費５５８８万円）。

平成11年4月、購入した建物1階で「小規模作業所あらくさ」開設。利用者3人から開始、平成13年には10人に増え名古屋市補助事業となる。平成16年4月、建物2階でグループホーム「あらくさの家」（（定員4名）を開所。平成17年4月、会員の小縣氏所有のサンサンビル3階を借りて改修し「神田ホーム」（（定員7名）開所（（改修費１２００万円）。翌年1月、同ビル1階を借りて改修し、作業室を移転。平成18年10月から運営をべにしだの家に移管し「分場あらくさ」となる（改修費６００万円）。

平成24年4月、「あらくさの家」土地建物を法人に寄付、改築し定員6名にする（建築費４１３０万円。あらくさの会１３５０万円寄付）。

令和元年、サンサンビル全館を借用、1・2階改修（６３００万円。あらくさの会１３００万円寄付）。これまであらくさの会が拠出した総額は1億38万円。あらくさの会は資金作りにも努力してきたが、全員がグループホームに入居するまでの15年間（平成2年～17年）に専門家を招聘して学習会12回、施設見学16か所（県内8か所、県外8か所）、会合は99回開催。以後も今日まで33年間活動を続けている。この間に、個々のさまざまな事情で入退会があり、現在会員は11家族である。その間母親の会「あゆいの会」も学習会、親睦会、施設見学を行い、平成4年、パン工房「神田ベーカリー」を始業し、平成11年作業所に引き継いだ。「あらくさ」は親たちの自助努力と法人との共働で育てた貴重な事業所である。

あらくさの家（定員６名）

平成 16 年4月1日開設・認可／
平成 24 年改築

所在地　名古屋市千種区
　　東明町 6-16-2
規　模　敷地面積　132.23㎡
　　建物床面積　131.86㎡
建築費　4,130 万円〈資金 / 借入金 2,500 万円、寄付金 1,350 万円、法人 280 万円〉

〈沿革〉　物件は平成５年、あらくさの会で将来のグループホームを視野に共同購入（改修費含め 5,300 万円、この時子ども８才、父親 44 才）父親の会合や小学生からの宿泊訓練などに使用。平成 11 年1階で小規模作業所開設。平成 16 年４月グループホーム「あらくさの家」開設。平成 22 年土地建物を法人に寄付。平成 24 年、建物を建て替えた。

あらくさの事業（べにしだの家従たる事業所）

〈日中支援〉
▼生活介護　定員15名／パン製造・販売、部品組付け、創作活動、音楽活動、ウォーキング等。
〈夜間支援〉
▼共同生活援助　定員13名（グループホーム２軒に居住）。

神田ホーム（定員７名）

平成 17 年４月1日開設・認可

所在地　名古屋市
　　千種区神田町１４－５
　　サンサンビル3階（借家）
規　模　建物床面積　178.2㎡
改修費　1,200 万円〈資金 / あらくさの会自主財源〉

〈沿革〉　あらくさの会会員の子ども全員分のグループホームを確保するため、２か所目の建設を模索していたところ、会員の小縣氏所有のビルの３階に空きが出たのであらくさの会が改修して借り受けた。

郡上山の家

（あさみどりの会研修所）

所在地　岐阜県郡上市大和町小間見 546-1
規　模　敷地約 3,000㎡（島﨑家より無償貸与）
　　建物・ロッジ 300㎡、母屋 260㎡
　　バンガロー4、倉庫2、屋外トイレ1
建設費　2,520 万円〈資金 / 全額寄付金〉

あさみどりの会 野外活動の沿革

昭和34年夏、あさみどりの会創始者の伊藤氏らは、障がい児の「親と子の合宿」（三河相楽荘・1泊2日）に協力者として参加して、大自然に触れることは子どもの成長に大切なこと、親たちが日常の苦労から解放され、合宿して深く交流することで心が癒され、元気になる姿を見て、毎年参加しながら会の活動として模索するようになる。

昭和45年夏、瀬戸〝はちのす寮〟の協力で、心身障がい児母子のためのホリデーセンター「みどりの苑（ディキャンプ）」を毎年1か月間開設、県内各地から親子が参加する（昭和50年まで）。一方で、大自然の中で親子が合宿できる場所を求めて東海三県を探し回り、三重県菰野町〝尾高キンダーハイム〟に巡り合う。昭和51年7月「第1回さわらび園親子療育キャンプ・3泊4日」実施。以後、この地で昭和63年まで13回行った。

野外活動事業

さわらび園親子療育キャンプ／療育グループ親子療育キャンプ／新池子どもクラブ・わいわいキャンプ／学童合宿／各事業所山の家合宿　等

郡上山の家の沿革

岐阜県郡上市大和町小間見の島﨑家は、昭和38年から養護施設の子どもを、昭和44年から名古屋の青年サークルの若者を、昭和48年から名古屋東別院こども自然教室など、20人から30人の合宿を行っていた。

あさみどりの会では、昭和51年から「新池子どもクラブキャンプ・3泊4日」を、昭和53年から「水曜療育親子療育キャンプ・2泊3日～3泊4日」を島﨑家母屋で実施。

昭和61年頃、わらび福祉園の親と職員から山の家を作りたいという話が出て資金カンパを始めた。以後法人全体に広がり、昭和62年、岐阜近郊の古家屋を譲り受け、島﨑家敷地の一画に移築、2階建て76㎡余の山の家を建設。

昭和63年4月、わらび福祉園の「山の家合宿・6泊7日・10人ずつ」開始。同年2階に接続して中広間を増築。山の家の名称を「あさみどりの会研修所・郡上山の家」とする。

平成元年から「さわらび園親子療育キャンプ」「新池子どもクラブキャンプ」「りとるぐるっぷ（水曜療育）キャンプ」を郡上山の家で実施。島﨑家母屋はキャンプの際の親の研修会場や講師、父親参加者、本部・厨房職員の宿舎に使用。

平成2年、隣接して2階大広間を建設。以後数年かけて大広間横に第2厨房、大広間階下に和室2間を作り、手作り含めバンガロー4棟、倉庫2棟、トイレ棟と順次整備した。

平成8年「べにしだの家山の家合宿」開始。平成13年「中学生合宿・3泊4日」開始。平成15年「れいんぼうワークス山の家合宿」開始。平成17年「小学生合宿・2泊3日」開始。その他職員セミナー等にも使用。

山の家の活動で、多数の車の出入り、山や川、道路等村中を自由に使えるのは、村の人が障がい福祉を理解され、温かく見守っていただいているおかげである。

社会福祉法人 あさみどりの会
わらび福祉園

昭和 57 年 4 月 1 日開設

社会福祉法人あさみどりの会
（昭和 47 年 11 月 24 日設立）から
わらび福祉園を分割して
「社会福祉法人あさみどりの風」を設立

移管

社会福祉法人 あさみどりの風
わらび

令和 2 年 10 月 1 日開設

所在地　愛知県みよし市三好町西荒田 28
規　模　敷地面積 1,614㎡（みよし市所有地）
　　建物床面積 558.48㎡、RC 造平屋建
建設費　1 億 1,000 万円〈資金 / 国・県補助金 5,300 万円、借入金 4,400 万円、法人自己資金（寄付金含む）1,300 万円〉

共同生活援助事業所

わらび第 3 ホーム（定員 4 名）

平成 8 年 4 月 1 日開設・認可

所在地　みよし市三好町西荒田 13
規　模　敷地面積 213.81㎡、
　　建物床面積 109.19㎡（木造 2 階建）
土地建物購入費　3,200 万円
〈資金 / 全額寄付金（共同貯蓄より）〉

〈沿革〉　平成 4 年 4 月、父親の会で「自立生活を援助する会」を発足。会員の親睦・学習とグループホーム建設資金として共同貯蓄を開始。平成 7 年 12 月、わらび福祉園と至近距離（20 m）の民家の土地建物が売りに出された。吉田政次会長は、一晩の内に電話で各会員（22 名）の賛同を得て取得することを決定し、全員が共同貯蓄を拠出して購入した。

わらび第 2 ホーム（定員 6 名）

平成 4 年 4 月 1 日開設／平成 6 年 4 月 1 日認可

所在地　みよし市三好町西荒田 29-3
規　模　敷地（わらび敷地内）、
　　建物床面積 150.7㎡（木造 2 階建）
建築費　3,740 万円〈資金 / 全額寄付金（利用希望者 26 名より）〉

〈沿革〉　プレグループホーム生活体験実習を開始して 1 年余、利用者の著しい生活能力の向上を実感した保護者は、アンケートへの回答で将来の利用も含め 26 名がグループホームを希望。当時は、ホーム建設に借入金を使うと利子が高いので家賃前払い方式の寄付金で対応。平成 6 年 4 月 1 日、認可に至るまで 2 年間は運営費も全額自己負担で実施した。

わらび第 1 ホーム（定員 3 名）

平成元年 10 月 1 日開設／平成 3 年 4 月 1 日認可

所在地　みよし市三好町西荒田 28
規　模　敷地（わらび敷地内）、
　　建物床面積 299.9㎡（木造 2 階建）
建築費　2,060 万円（増改築費）〈資金 / 借入金 1,000 万円、寄付金 1,060 万円〉

〈沿革〉　昭和 60 年、ナイトケア用生活実習棟を建設、建築費 850 万円、清水基金から 400 万円助成。平成元年増改築して、4 名ずつ 3 か月ずつ交代でグループホーム生活体験実施。費用は人件費含め全額自己負担（障害基礎年金 + 2 万円）。平成 3 年 4 月 1 日、定員 4 名のグループホームとして認可。以後、定員以外の 2 名を 2 か月ずつ生活実習実施。

わらびの事業

〈じぶんらしくはたらく〉

多機能型

▼ 就労継続支援 B 型・定員 10 名／うどん店「和來 ~wara~」　うどん・お弁当づくり、施設外支援

▼ 生活介護・定員 39 名／金属加工、部品組付け、菓子製造・販売、創作活動（絵画、紙漉き、刺繍など）、音楽療法など

▼ 日中一時支援・定員 5 名

〈じぶんのくらしをつくる〉

▼ 共同生活援助・定員 29 名／グループホーム 5 軒に居住

〈ちいきでいきる〉

▼ 重度訪問介護・同行援護・移動支援／ヘルパーステーション「笑の家」運営

▼ 特定相談・障がい児相談・地域移行支援・地域定着支援・障害者相談支援

あさみどりの風・わらびの沿革

社会福祉法人あさみどりの会は、昭和 54 年、みよし市（当時三好町）からの誘致に応え、当地に「知的障害者通所授産施設」を建設することになった。

昭和 56 年春、着工を前に地域住民から強い反対運動が起こり、13 回の困難な交渉を経て工期より 4 カ月遅れて着工。

昭和 57 年 4 月、「わらび福祉園」を開所した。しかし定員 30 人に対し最初の利用者は 8 人で開所早々から厳しい経営を強いられた。当時は早期療育も行き届いておらず、その後の入所者も含め、幼児期・学齢期に『重度だから』と人間として最低限の生活するすべを体験させて貰えず、自傷他害などの強度行動障害がみられる人や身辺処理未自立の人など、他の施設で断られた最重度の方も多かった。そこで、生活する力・働く力をつけるためには個別対応が必要で、定められた職員配置では人手が足りず、毎日数人の母親に当番で現場に入って貰った。

工作機械で作業することも、本人が親と離れて 1 週間、次は 3 カ月とナイトケアすることも皆初体験で、本人・母親・職員が共に学び合い力をつけ、機械作業は地域の企業から毎日定期的に仕事を請け負うまでになり、ナイトケアは処遇困難だった最重度の方も全員がグループホームで生活できる力を身につけられた。

開所した時は人口 2 万 6 千人だった三好町は 6 万人のみよし市となり、あさみどりの会も 2 か所の拠点事業所が 4 か所とグループホーム 18 か所となり、常勤職員は 21 人から 90 人になった。そこで人間関係と地域共生を重視して法人を分割することが決定し、令和 2 年 10 月、わらび福祉園は「社会福祉法人あさみどりの風・わらび」として独立し、みよし市の法人として歩みはじめた。

就労継続 B 型事業所

うどん店「和來 ~wara~」（就労継続支援 B 型事業）

令和 2 年 4 月 1 日開設

所在地　みよし市三好町小坂 66
規　模　174.63㎡(木造 2 階建 1 階部分、借家)
改装費　3,234 万円〈資金 / みよし市補助金 300 万円、積立取崩 2,934 万円〉

〈沿革〉　みよし市役所の直ぐ北側に賃貸物件が出たことをきっかけに、就労継続支援 B 型事業を移転。みよし市役所に食堂が無いこともあり、うどん店を始める計画を立てるがコロナ禍となり、テイクアウト弁当も含めた運営を始める。施設外支援も行っており、就職に結びついたケースも出ている。
また、利便性が良い場所ということもあり、地域の方々の話し合いの場にもなっている。

風の家（定員 10 名）

令和 3 年 4 月 1 日認可

所在地　みよし市三好町西荒田 29-6
規　模　敷地面積　400.01㎡
　　建物床面積（木造 2 階建）472.26㎡
建築費　風の家Ⅰ 7,360 万円〈資金 / 借入金 3,000 万円、寄付金 (共同貯蓄)4,360 万円〉
風の家Ⅱ 7,096 万円〈資金 / 借入金 3,500 万円、積立金取崩 3,000 万円、事業費 596 万円〉

〈沿革〉　重度者・高齢者への対応も考慮してわらび本館北側の土地を平成 23 年 10 月に購入、2,783 万円（坪 23 万円）。平成 25 年風の家を建設。その後平成 29 年に増築し、1 階を風の家Ⅰ（定員 5 名）2 階を風の家Ⅱ（定員 5 名）とする。新法人の申請の際に、合わせて 1 ヶ所にし、定員 10 名とした。

笑（わら）の家（定員 6 名）

平成 17 年 4 月 1 日開設・認可

所在地　みよし市三好町西荒田 36-10
規　模　敷地面積 239.36㎡、
　　建物床面積 262.11㎡（木造 2 階建）
建築費　6,180 万円〈資金 / 日本財団助成金 2,010 万円、寄付金（共同貯蓄）4,170 万円〉

〈沿革〉　グループホーム入居を希望して待機している人のために、第 4 のホームの建設に取り組む。平成 15 年 10 月、わらび福祉園から徒歩 3 分の距離の土地を購入、1,875 万円（坪 26 万円、積立金で購入）。平成 17 年建物建設。名称をアンケートにより「笑（わら）の家」とする。1 階にヘルパーステーションを併設（平成 25 年に「風の家」に移転）。

あさみどりの会のあゆみ

育み、取り組んできたこと

草創期　～ボランティアグループとして～

昭和32年〈1957年〉
伊藤方文（みちふみ）、子どもの教育問題について社会啓蒙活動を始める。
（伊藤方文が昭和45年に受賞した「キワニス社会公益賞」賞状に〝昭和32年以来社会の啓蒙につとめ〟とあり、この年をあさみどりの会の始まりとした。）

昭和33年〈1958年〉
中条雅二、水谷京、長沼兵三、伊藤方文らは、毎月子どもの生活を考える雑誌**「青い空」**を発行する。

昭和34年4月〈1959年〉
長沼兵三、橘小学校特殊学級の担任となり、伊藤方文長沼学級の記録映画制作に協力、これより「青い空」のグループは、精神薄弱を中心とする障害児問題に焦点を絞って活動することになる。

8月
長沼兵三らが企画した**親と子の合宿**（於・三河相楽山荘）に伊藤方文らが協力。（1泊2日）

昭和35年6月〈1960年〉10月
名古屋手をつなぐ親の会からの委嘱映画**「いずみ学園」**制作。
菊井中学校特殊学級の委嘱により同学級の職業教育を紹介した映画**「働く子ら」**制作。

昭和36年2月〈1961年〉
名古屋手をつなぐ親の会の啓蒙活動を支援して映画**「わが愛と祈り」**の制作開始、フジフィルム集会室で完成試写会を開く。（4月11日）

6月
21日～26日、長沼兵三らの企画した親と子の合宿を中日新聞社会事業団が主催することになり、三河相楽山荘での第1回親と子のサマースクールに伊藤方文、榊原和彦ら記録映画班として参加。（昭和39年まで）

昭和37年7月〈1962年〉
尾原信夫氏一家の協力により映画**「静かな波紋」**の制作開始。名城小学校講堂で完成試写会。（8月26日）

11月
精神薄弱に関する映画の会企画開催。（全国特殊教育研究大会随伴行事として）

映画「わが愛と祈り」撮影（昭和36年）

創立者 伊藤方文氏（昭和32年）

昭和38年7月〈1963年〉
アサヒ梶島キャンプ写真取材。
「第2回親と子のサマースクール」（於・犬山ユースホステル）写真取材。

昭和39年3月〈1964年〉
南山大学写真部杉野邦彦らの積極的な協力によりカメラ・ルポ「精神薄弱」を制作することとし、あけぼの学園の許可を得て撮影開始。

6月
21日、カメラ・ルポ第1集**「明日を待つ子たち」**刊行。
機関紙**「あさみどり」**発行。（№39・昭和51年まで発行）

昭和40年1月〈1965年〉
長沼兵三の紹介により伊勢市のアマチュア写真家浜口主一氏らがカメラ・ルポの制作に協力することとなり、カメラ・ルポ第2集**「教室の小菩薩たち」**の制作に着手、5月5日刊行。

6月
名古屋西ライオンズクラブの協賛により岸本鎌一氏監修映画**「あなたはご存じですか」**の制作開始。ニューナゴヤにおいて完成試写会（11月3日）。次いでCBCからオン・エアー、厚生省推薦映画となる（12月24日）。

昭和41年1月〈1966年〉
22日、第1回**心身障害問題を理解する集い**「心身障害児問題の根本をさぐる」開催。（於・市教育館講堂、以後、朝日新聞名古屋厚生文化事業団と共催。平成27年度まで会場を朝日ホールに移して開催。以降令和4年現在で59回）

4月
1日、古橋金一、山家拓、鈴木皓代らおよびボランティア6名が協力して事務局（伊藤方文自宅）に**「療育相談室」**を開設。

5月
27日、第1回**障害児問題研修旅行**「精神薄弱者を雇用している工場」を浜松市末久二男氏のあっせんにより実施。（昭和54年まで）

7月
7日、カメラ・ルポ第3集**「働く愉快な仲間」**刊行。
糸賀一雄氏「この子らを世の光に」の映画化を了承される。

第1回心身障害問題を理解する集い（昭和41年）

働く愉快な仲間（昭和41年）

教室の小菩薩たち（昭和40年）

明日を待つ子たち（昭和39年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和32年　市）障害児通園施設「みどり学園」開設

昭和33年　国）6月、国立知的障害児施設「秩父学園」開設。（所沢市）

昭和34年
伊勢湾台風襲来。
市）9月、障害児入所施設「名古屋市あけぼの学園」開設。

昭和35年
国民皆保険制度が確立。
国）「精神薄弱者福祉法」公布施行。（平11・知的障害者福祉法に改正）
団体）11月、「全国肢体不自由児父母の会連合会」結成。

昭和36年　国）3歳児検診始まる。
県協会）11月、第1回精神薄弱児施設東海ブロック大会を名古屋で開催。
「愛知県精神薄弱者愛護協会」結成。

昭和38年
山崎すみ子氏宅に重度児の授産所「すぎなの家」を開設。
川崎昴氏自宅に「ひかり学園」開設。
水上勉氏「拝啓池田総理大臣殿」を書く。
県協会）10月、第1回全国精神薄弱施設研究協議会を名古屋で開催。（以後〝全国大会〟として各都道府県持ち回りで毎年開催）

昭和39年
東京オリンピック開催。
パラリンピック東京大会開催。
団体）「全国重症心身障害児（者）を守る会」結成。
9月、第1回精神薄弱者福祉月間実施。（以後毎年）
11月、県内精神薄弱児施設、特殊学級合同運動会をあけぼの学園で開催。

昭和40年
大阪「ボランティア協会大阪ビューロー」設立（現在の大阪ボランティア協会）。日本初のボランティアスクール開講。
国）「理学療法士及び作業療法士法」公布。
全国精神障害者家族連合会」結成。
市）白金精神薄弱児相談室開設
県協会）年間を通じて施設長会と施設長研修を開催。永年勤続職員顕彰を開始。

「あなたはご存知ですか」
映画リーフレット（昭和39年）

あさみどりの会のあゆみ

8月　27日～28日、安居（あんご）会開催。（於・名古屋市大乗寺、昭和44年まで）
10日～16日、三和銀行栄町支店の協力により**この子らの写真展**を同行ロビーで開催。

昭和42年1月〈1967年〉
3月　くらしの資料№1「**遺伝と精神薄弱**」刊行。
5月　7日、神戸市の誕生日ありがとう運動本部から映画「この子らを世の光に」の制作資金として30万円寄付される。
6月　くらしの資料№2「**血液型と心身障害**」刊行。
10月　9日～10日、手をつなぐ親の会主催の重度児一泊旅行（於・稲武野外教育センター）にボランティアを派遣。

昭和43年1月〈1968年〉4月
23日、**社団法人あさみどりの会設立認可、理事長伊藤方文。**
くらしの資料№3「**赤ちゃんの脳**」刊行。
5日、糸賀一雄氏立ち会いのもとに「**この子らを世の光に**」岐阜長良荘においてクランク・イン。
6日、アキ・クロッカー氏からケネディ大統領の願いをこめて製作されたロウソク『希望の灯』寄贈される。
7月　ボランティア養成を目ざして第1回**心身障害児のためのボランティア療育援助研修会**を開催。（於・東別院青少年会館、各10回～15回、昭和51年まで、以後ボランティアスクールに移行する。）
9月　母親のための第1回**こどもの精神衛生講座**開講。（於・東別院青少年会館）
18日、糸賀一雄氏急逝。（54歳）
10月　2日、糸賀一雄氏を偲びつつ「**この子らを世の光に**」完成披露映写会。（於・東別院青少年会館）

昭和44年4月〈1969年〉5月
くらしの資料№4「**幼児期の再検討**」刊行。
あさみどりNo.19　別冊「**育つための条件**」刊行。
7月　20日、「**心身障害児の療育援助のために**」刊行。
12月　1日、聖心教会の支援により教会の部屋を借りてボランティアの力で毎週3回ずつ**在宅幼児集団指導**を開始。第1回**在宅の重い心身障害児（者）年末訪問**実施。（昭和49年まで）
あさみどりNo.21　別冊「**精神薄弱児存在の意義**」刊行。

昭和45年1月〈1970年〉
15日、機関紙「あさみどり」を季刊の会誌とすることとなりNo.22を発行。
3月　23日、第1回**障害幼児を援けるバザー**を開催。（於・日赤講堂）
5月　1日、会報「**さわらび**」創刊。（幼児療育相談所〈聖心（ひじり）教会内〉）発行、No.11よりさわらび園発行、昭和49年No.14まで確認）
6月　10日、心身障害に対する市民の認識調査を開始。
7月　19日、瀬戸はちのす寮の協力で心身障害児母子のためのホリデーセンター「**みどりの苑**」を開設。（昭和51年まで）
8月　5日、会の意見として「地域保護の観点に立つ心身障害児の処遇」を発表。
9月　27日、市内特殊学級の協力を得て彫塑展開催。
11月　27日、伊藤方文、名古屋キワニスクラブよりキワニス社会公益賞受賞。

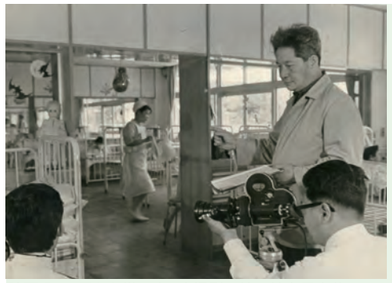
昭和46年2月〈1971年〉
6日、映画「ぼくのなかの夜と朝」特別試写会開催。（於・東別院青少年会館）
4月　6日、日本短波放送、聖心教会での幼児集団指導を取材した「母子通園1年を省みて」を放送。
9月　27日～10月2日、ボランティア育成のために第1回**コロニー宿泊奉仕**（6日間）実施。
10月　6日、昨年末に制作を開始した映画「**ひろがれ愛の波紋**」完成特別試写会開催。
11月　5日、NHK名古屋、聖心教会での集団指導を取材した「幼児療育相談所の子どもたち」を放映。

ボランティア研修〈コロニー見学〉（昭和43年）

聖心教会で在宅幼児集団指導（昭和44年）

第1回障害幼児を援けるバザー（昭和45年）

みどりの苑のキャンプ（瀬戸市、昭和45年）


映画「この子らを世の光に」撮影開始　岐阜長良荘にて（昭和43年）

糸賀先生撮影を立ち会う（右端）（昭和43年）

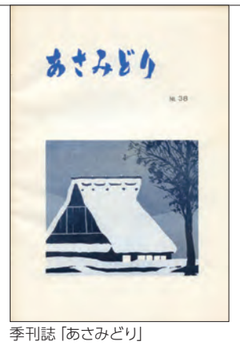
キワニス社会公益賞（昭和45年）

映画「この子らを世の光に」リーフレット（昭和43年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和42年　市）法改正による授産施設の草分けとして「名古屋市日金職能訓練室」開設。
団体）「自閉症児親の会」結成。

昭和43年　国）国連総会にて「児童権利憲章」採択。
県）愛知県心身障害者コロニー開設。
市）「愛護手帳」交付開始。
県協会）5月、職員研修会に糸賀一雄近江学園長を講師に招く。


季刊誌「あさみどり」

昭和44年　県）愛知県コロニーに「春日台養護学校」が開校。
市）児童手当、交通遺児手当制度実施。

昭和45年　大阪万博（日本万国博覧会）開催。
国）「心身障害者対策基本法」公布。
県）愛知県コロニー「中央病院」が開院。

映画「ひろがれ愛の波紋」リーフレット（昭和45年）

昭和46年　国）「児童手当法」公布。
国立コロニー「のぞみの園」開所（高崎市）
愛知県コロニー「春日台授産所」、名古屋市「若杉作業所」、社会福祉法人ゆたか福祉会「ゆたか作業所」の3つの授産施設が開所。
県）愛知県コロニー「緑の家」で短期母子療育を開始。
市）名古屋市児童福祉センター開所。

社会福祉法人設立から現在まで

あさみどりの会のあゆみ

昭和47年度〈1972年〉

4月　5日、通常総会、この総会において社団法人を解散して社会福祉法人を設立することを議決。
17日、**社会福祉法人あさみどりの会設立会議**。（於・東別院青少年会館やわらぎの間）
理事長 堀要、理事 鈴木末造、村上英治、松原正之、中北智久、牧野正男、伊藤方文、監事 黒宮光一、原 浩
6月　30日、親たちをはじめ多くの人々の支援を得て、建設を計画していた障害幼児母子通園施設「さわらび園」は、日本自転車振興会の補助によって創設することとなり建設工事を開始。
11月　24日、**社会福祉法人あさみどりの会設立認可**。
12月　1日、**「さわらび園」**精神薄弱児通園施設として開園（定員30名、千種区新池町）、園長に伊藤方文就任。16日、落成披露の会。
さわらび園後援会発足。（会長大橋一八）
さわらび園開園と同時に療育相談を常時開設（毎週火・木曜日）
2月　24日、公開講座を開催。（於・中区役所）
3月　18日、幼児療育を援けるバザー開催。（於・さわらび園）
26日、コロニー宿泊研修実施。

昭和48年度〈1973年〉

4月　3日、幼児療育研究会開催。（於・さわらび園）
9月　5日、一部職員による労働組合結成（団体交渉等による療育の混乱が昭和52年まで続く）
10日、在宅障害児の処遇を補完するために、ボランティアによる**家庭療育援助活動**を推進することを考え、テスト・ケースとして6家庭に対し援助開始。
11月　12日、さわらび園 園長清水武利就任。（伊藤方文あさみどりの会事務局専任）
10日～12日　ボランティア活動研究のため各グループの代表10名を大阪ボランティア協会に派遣し「ボランティア活動の推進について」懇談。（於・大阪日生会館）
市内の在宅障害児（者）現況調査。

昭和49年度〈1974年〉

4月　1日、さわらび園暫定定員23名。（当年度のみ）
16日、家庭療育援助活動を開始し、毎月第3火曜日に援助者の**援助活動検討会**を実施。
6月　1日～2日、ボランティア合宿研修会実施。（於・はちのす寮）
10日、家庭療育援助者の教育と、この活動に対する理解を社会に促進するための機関紙**「療育援助」～心身障害児（者）のためのボランティア活動～**創刊。（以後継続。令和5年3月現在で577号）
7月　22日～23日、耳の不自由な子どもたちの親の会の要請により難聴児のキャンプにボランティア13名派遣。
12月　あさみどりの会理事舟橋玉耀就任。（鈴木末蔵退任　以下あさみどりの会省略）

昭和50年度〈1975年〉

4月　1日、理事島﨑春樹就任。（松原正之退任）
さわらび園 園長島﨑春樹就任。（清水武利辞任）
5月　1日、あさみどりの会**「連絡事務所」**開所。（中区上前津中野ビル2F）
7月　さわらび園夏季特別療育実施。（さわらび園・はちのす寮）
8月　第1回**しんいけ盆おどり**開催。（以後継続、令和4年現在第44回）
6日～9日　なかよしキャンプ開催。（三重県員弁郡藤原町にて障害児と健常児の混合キャンプ、昭和51年まで継続）
10月　第1回**さわらび運動会**開催。（昭和56年までさわらび園横どんぐり広場にて、昭和57年からはわらび福祉園、平成7年からはべにしだの家、平成14年からはれいんぼうワークスが加わり、成人施設との合同運動会「あさみどり運動会」として開催。平成27年から再びさわらび園単独の運動会として継続）
心身障害者のトレーニング・ルーム開設。（上前津連絡事務所、毎週月・金曜日・昭和54年まで）
さわらび園の新規事業
入園時の両親面接、母親のグループカウンセリング週1回2グループで実施、父親参観日を年3回実施、年末懇親会、母親の療育参加、水曜療育、親子療育キャンプ　これらは以後継続実施。
4月　**20日、ボランティアサロン20**開始。（月1回、昭和52年まで）
5月　9日、**新池子どもクラブ**（地域の小学生対象）発足。
6月　1日、第1回**ボランティアスクール**開講。（療育援助研修会から切換え、以後継続）
水曜療育グループ開始。（毎週水曜日午後1時～3時、以後継続。（平10・日本知的障害福祉連盟に改称）

第1回しんいけ盆踊り（昭和50年）

さわらび園建築始まる（昭和47年）

初代理事長 堀 要（昭和47年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和47年　県下初の通勤寮「岩崎通勤寮」開設。

さわらび園（道路脇に水路がある）

昭和48年　第1次オイルショック（高度経済成長時代終焉）
国）「療育手帳制度要綱」通知。
県協会）名古屋市特殊教育研究協議会、名古屋手をつなぐ育成会と県協会の3団体懇談会開始。
県・市）愛知県・名古屋市が「民間社会福祉施設運営費補助制度」を開始。
市）「名古屋障害児保育研究会」発足。
10月、心身障害者医療費助成制度実施。
昭和49年　国）通園施設の国制度が改革され、入園の要件が緩和された。
団体）「日本精神薄弱者福祉連盟」結成。

尾高キンダーハイム（昭和51年）

新池子どもクラブ発足（昭和51年）

第1回さわらび運動会（昭和50年）

第1回さわらび園親子療育キャンプ オリエンテーション、吉田とき江（昭和51年）

療育援助
療育援助〈創刊号〉

昭和50年　県協会）9月、「働く仲間の展示会」開催。（県内の授産施設が7カ所になり、愛護月間行事として開催）昭51年より「ぼくらの展示会」へ移行。
市）10月、心身障害者施設通所付添交通費助成制度開始。
昭和51年　市）10月、在宅重症心身障害児・者緊急一時保護制度実施。

あさみどりの会のあゆみ

昭和57年りとるぐるぅぷと名称変更）

7月　17日～20日、第1回**さわらび園親子療育キャンプ**実施。（於・三重県菰野町尾高キンダーハイム、14家族が参加、以後継続）

30日～8月2日、第1回**新池子どもクラブキャンプ**（於・岐阜県郡上郡大和村 島崎宅、以後継続）

8月　7日～8日、第2回しんいけ盆おどり。（地域からの参加多数、ボランティアが模擬店を出す）

11月　3日、第2回さわらび運動会。（子どもクラブ40名、名広愛児園鼓笛隊30名、ボランティア150名、初めて風船を飛ばす。）

3月　さわらび園 労使紛争収束

昭和52年度〈1977年〉

4月　**ボランティアサロン**開催。（毎月第1土曜日に実施。昭和54年まで）

27日、ミットラー教授講演会「重い知恵遅れの子どもの教育と福祉」。

5月　20日、**さわらび園増築**完工式典、今後はさわらび園、療育相談所、ボランティア・センターの機能を併せもつ〝**あさみどり会館**〟と総称する。

さわらび園の**母親グループカウンセリング**を本格的に開始。

6月　**心身障害児の母親研修会**開催。（以後継続）

療育問題研修講座開講。

7月　17日、第1回公開講座「**ことば**」開催。

8月　伊藤方文著「**この子らと**」刊行。

9月　4日、伊藤方文著「**この子らと**」出版と中日功労賞受賞を祝って記念会を開催。（於・東山会館）

10月　**お母さん教室**開催。（昭和56年まで）

11月　「**地域福祉の実践とその背景**」刊行。

6日、第2回公開講座「**運動機能**」開催。

1月　ロータスクーポン収集開始。（平成5年頃まで、他に古切手収集も実施）

2月　11日、第1回**さわらび祭バザー**開催。（以後継続）

3月　監事北野博一就任。（黒宮光一退任）

「**さわらびグループ**」結成、婦人ボランティアのグループとしてさわらび園の療育ボランティアを開始する。（以後継続）

母親グループカウンセリング

第1回母親研修会（昭和52年）

あさみどり会館開所記念（昭和52年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和52年　国）1歳6カ月児健康診査制度創設。

県協会）「療育研究会」「対外対策」「広報」「事業」の4委員会を設置し事業の活性化を図る。

市）拠点方式と通所方式による「療育グループ」を開始。

さわらび祭バザー（昭和52年）

昭和53年度〈1978年〉

さわらび園卒園児の母親の会「**四季の会**」発足。（代表服部美子・35名参加）

ケースカンファレンス開始。スーパーバイザーに堀要Dr。（月1回・昭和58年まで）

4月　ハーグリーブス氏講演会。

9月　22日、全国精神薄弱関係施設長会議の通園部会にて、さわらび園の療育の体系についてまとめた「**子どもは育つ**」発表。好評を得、全国各地からの見学者が多くなった。

9月25日～27日、**水曜療育キャンプ**開始。（郡上郡大和村 島崎宅、以後継続）

10月　28日、第1回**わたぼうし名古屋コンサート**開催。（於・市公会堂、昭和55年まで）

地域の一般小中学生を対象に**グループ学習**を週2回実施。（昭和55年まで）

12月　監事河野博太郎就任。（原浩退任）

富田療育グループへ集団療育援助開始。（平成2年まで）

昭和54年度〈1979年〉

［国際児童年］

母親の会「**みどりの会**」発足。（代表鈴木美知子・8名参加）

4月　記録映画「コミュニティケアへの道」制作委員会発足、募金活動開始。（10月知多市にてクランクイン）

5月　さわらび園の1年間の療育を撮った**8㎜映画「坂道をのぼる子ら」**が完成。（ボランティアグループ〝**シネマとコーヒー**〟が製作）

カウンセリングセミナー開始。（カウンセラー石原文理 他、平成6年まで）

8月　国際児童年会場（愛知青少年公園）へ、さわらび園の子らの写真パネル多数出品。

12日、**伊藤方文事務局長逝去**（69歳）、同14日の葬儀には600余名が参列（葬儀会場さわらび園にて）。

昭和50年5月から開所していた上前津の事務所を閉じる。後任理事に伊藤伊登子就任。

20日、NHK社会福祉施設社会化奨励賞をさわらび

療育援助―伊藤方文氏の追悼特集（昭和54年）

映画「コミュニティ・ケアへの道」撮影（昭和54年）

第1回わたぼうしコンサート（昭和53年）

わたぼうしコンサートに集まった観客

昭和53年　市）児童福祉施設入所児童、戦傷病者、原爆被爆者、精神薄弱者市営交通料金無料化実施。「障害児保育指導委員会」設置。

県協会）授産施設ソフトボール大会を9チーム参加で実施。

昭和54年　国）「養護学校教育」義務化。障害児保育制度実施。

県協会）「国際児童年」の主会場が愛知県に設けられたので、これに参加するとともに、県協会は「ぼくらの展示会」をはじめ各種主催行事を開催した。

あさみどりの会のあゆみ

園が受賞。

昭和55年度〈1980年〉

4月 母親の会「**美樹の会**」発足。（代表井戸節子・10名参加）

西加茂郡三好町から土地の提供を受け、精神薄弱者通所授産施設「わらび福祉園」を建設することに決定。

5月 **療育援助カンファレンス**実施。（活動中のボランティアの学習、平成16年まで）

さわらび園OB有志会発足。（会長 鈴木美知子・昭和57年にあさみどりの会後援会に名称変更）

10月 地域秋まつり獅子宿、園児参加。（以後継続、現在園児は参加していない）

中川療育グループへ集団療育援助開始。（平成10年頃まで）

11月 同朋大学心身障害福祉研究会「ソロプチミスト青少年ボランティア賞」受賞。

昭和56年度〈1981年〉

［国際障害者年］

4月 母親の会「**わらの会**」発足。（代表小林苑子・36名参加）

5月 11日、シンポジウム「障害者の社会参加」を開催。

8皿映画「**小さなともだち**」完成。

8月 7日、わらび福祉園起工式。

10月 **婦人ボランティア講座**を開催。（平成元年まで継続）

11月 10日、記録映画「**そっちやないこっちや**」（コミュニティ・ケアへの道）完成。11日あさみどり会館、15日名古屋、16日一宮、20日岡崎、24日豊橋にて完成発表会。（小野 宏氏講演）

14日、第1回**なないろコンサート**を開催。（於・市公会堂、昭和63年まで毎年開催、その後随時開催）

3月 あさみどり会館**ボランティア集会**開催。

師勝町療育グループへ集団療育援助開始。（平成16年まで継続、これ以降も療育グループは継続）

昭和57年度〈1982年〉

4月 「**わらび福祉園**」開設。（通所授産施設定員30名・西加茂郡三好町）20日竣工式。授産生8名で出発。

わらび福祉園 園長島﨑春樹就任。

さわらび園 園長島﨑左世就任。（島﨑春樹異動）

第1回なないろコンサート（昭和56年）

「坂道をのぼる子ら」（昭和57年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和55年 市）身体障害者、精神薄弱者、戦傷病者及び原爆被爆者に対し東山動植物園等公共施設の無料入場実施。

県協会）第1回「福祉の店」開催。（於・松坂屋リビンザ）

昭和56年 国際障害者年「完全参加と平等」をテーマに、始まる。（協賛の各種行事が日本全国で開催される）

県）愛知県障害者スポーツ大会開催。

市）5月、身体障害者スポーツセンター開設。9月、「障害児早期療育指導委員会」設置。11月、「障害者と市民の集い」開催。

県協会）ふれあい大運動会開催。

わらび福祉園（昭和57年）

水曜療育グループを「**りとるぐるぅぷ**」と改名、名古屋市の補助事業となる。

さわらび園OB有志会を**あさみどりの会後援会**に名称変更。

わらび福祉園母親学習会（助言者堀要理事長の後、鈴木国夫Dr、以後継続）

6月 わらび福祉園父親懇談会開催。（以後継続）

15日、さわらび園のお母さんの手記を中心にまとめた「**坂道をのぼる子ら**」刊行。

10月 わらび福祉園**一泊研修旅行**。

16日～18日、全国精神薄弱施設職員研究大会が名古屋で開かれ、全体発表で母親学習について発表。

機関紙「療育援助」100号記念特集。

11月 新川町療育グループへ集団療育援助開始。（平成元年まで継続）

あさみどり運動会（この年からさわらび園とわらび福祉園の合同運動会）

1月 9日、**さわらび園開園10周年記念会**（於・愛知厚生年金会館）

3月 わらび福祉園**ナイトケア**開始。（平成元年まで継続、それ以降生活実習として実施）

23日、第1回**わらび夏まつり**開催。（以後継続、平成27年からは秋まつりとして開催）

昭和58年度〈1983年〉

7月 さわらび園**親子宿泊療育**開始。（春秋年2回、以後継続）

10月 理事伊藤方一就任。（伊藤伊登子退任）

11月 3日、**理事長堀要逝去**（76才）同6日の葬儀には1、300余名が参列。

12月 **理事長北野博一就任**。監事鈴木國夫就任。

2月 **旅立ちを祝う会**開催、あさみどりに関わってくれた学生ボランティアの卒業と社会人としての出発を祝う会を行う。（以後継続）

昭和59年度〈1984年〉

4月 母親の会「**すばるの会**」発足。（代表塩原光子・24名参加、これ以降さわらび園卒園児の母親の会は3年ごとに結成）

インシデント・プロセス法によるケースカンファレンス開始。スーパーバイザーに小野宏Dr。（月1回、以後継続）

5月 さわらび園、天皇陛下よりご下賜金を賜る。

7月 わらび福祉園**夏休み小中学生の実習生受入れ開始**。（以後継続、

さわらび園開園10周年記念会（昭和58年）

北野博一理事長（昭和58年）

わらび福祉園ナイトケア（昭和59年）

昭和57年 市）在宅障害児療育相談事業を通園施設で開始。

県協会）第20回全国精神薄弱施設職員研究大会開催。（於・名古屋）

昭和58年 「国連・障害者の十年」（昭58年～平4年）開始年。

県）「自閉症児者実態調査」を実施。

あさみどりの会のあゆみ

その後法人各事業所においても同様の受入れ実施）

11月　「おぎゃー献金」にてさわらび園にゲストハウス増築。

2月　16日、父親の会発足。（研修を中心に、発起人 椿泰廣・参加者63名）

3月　30日～4月1日、第1回カウンセリングワークショップ開催。

昭和60年度〈1985年〉　わらび福祉園 園長島﨑春樹が愛知県精神薄弱者愛護協会会長就任。（平成4年度まで）

さわらび園学童療育開始。（小学1年～中学3年まで、以後継続）

7月　わらび福祉園生活実習棟完成。（清水基金より助成・生活実習は平成元年10月から開始、以後継続）

昭和61年度〈1986年〉12月　1日、あさみどりの会法人設立15周年記念行事開催。（於・ロイヤルホテル弁天閣、さわらび園15周年・わらび福祉園5周年記念）

法人15周年記念誌「この子らと共に」、わらび福祉園5周年記念誌「思い入れ記」刊行。

監事黒宮光一就任（河野博太郎退任）

「この子らと共に」（昭和61年）

「思い入れ記」（昭和61年）

昭和62年度〈1987年〉　母親の会「ウィング」発足（代表川松夏子・24名参加）、「もえぎの会」発足（代表椿純子・19名参加）。

父親の会「虹の会」発足。（代表坪内勝彦）

9月　なないろコンサート入選作品集「ぼくだって」刊行

3月　理事長村上英治就任（北野博一は顧問）、理事村地俊二就任。

昭和63年度〈1988年〉4月　あさみどりの会研修所「郡上山の家」一部新築。（以後増築を重ね現在に至る）

6月　わらび福祉園山の家合宿。（10名ずつ3班に分け1週間、以後継続）

あさみどりの集い開催、北野前理事長に感謝状贈呈および村上英治教授名古屋大学退官を記念して。

10月　スウェーデンの心理学者モランダ氏、当法人の施設を見学。

わらび第1ホーム（平成元年）

郡上山の家（昭和63年）

村上英治理事長（昭和62年）

あさみどりの会法人設立15周年記念会（昭和61年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

昭和60年　市）在宅障害者デイサービス事業開始。

県協会）「精神薄弱者の地域処遇を考える会」を開催。

昭和61年　国）障害基礎年金制度の創設。

県協会）「ぼくらの展示会」を「愛護祭」と改称し、規模を拡大。

昭和62年　国）4月、社会福祉士及び介護福祉士法公布。（昭63年4月施行）5月、身体障害者雇用促進法改め「障害者の雇用の促進等に関する法律」公布。（対象者を拡げ、法定雇用率に知的障害者を含む）

市）精神薄弱者グループホーム事業開始。

県協会）「国連障害者の十年」の中間年を記念し、県・市と共催で「愛護祭」を名古屋栄・もちの木広場で開催。

平成元年　国）グループホームの制度化。

市）4月、精神薄弱者雇用促進事業開始。10月、福祉健康センター（現・市総合リハビリテーションセンター）開設。

団体）「愛知県精神薄弱者福祉連盟」結成。

平成2年　市）在宅心身障害児（者）緊急一時保護制度拡充。（中度の精神薄弱児・者まで対象拡大）

平成3年　バブル経済崩壊

市）重度精神薄弱者タクシー料金助成事業開始。福祉都市環境整備指針策定。

平成4年　「国連・障害者の十年」最終年

9月、マドリードパラリンピック競技大会開催。（世界初の知的障害者のスポーツ国際大会）

10月、第1回全国ボランティアフェスティバル開催。（於・兵庫県）

11月、第1回全国知的障害者スポーツ大会（ゆうあいピック）開催。（於・東京都）

11月　理事鈴木國夫就任。（舟橋玉耀は監事就任）

さわらび園改修工事。

平成元年度〈1989年〉　さわらび園単独療育開始。

舟橋玉耀監事・日本愛護福祉賞受賞。

8月　さわらびキャンプ郡上山の家で実施、現在に至る。（前年まで三重県菰野町キンダーハイム）

10月　わらび福祉園「わらび第1ホーム」開所、プレ・グループホーム開始。（4名3カ月ずつ）

平成2年度〈1990年〉　母親の会「あゆいの会」発足。（代表高見早代子・25名参加）

母親の会「あじさいの会」発足。（代表加藤佳代子・9名参加）

牧野正男理事・厚生大臣特別表彰。

村地俊二理事・日本肢体不自由児協会高木賞受賞。

4月　父親の会「あらくさの会」発足。（代表高見茂・22名参加）

1月　わらび福祉園「自立生活を援助する会」発足。（代表吉田政次・22名参加）

平成3年度〈1991年〉　さわらび園親子教室「ジョイフル」開設（毎週木曜日）。学童療育を高学年・低学年の2グループに分けて実施。（以後継続）

中北智久理事・藍綬褒章受賞。

4月　1日、わらび福祉園グループホーム「わらび第1ホーム」認可開設。

20日、第1回サロン游（「語り」とトーク：舟木淳・島﨑春樹以後平成7年まで継続）

1月　スウェーデン福祉視察に職員6名派遣。

平成4年度〈1992年〉　父親の会「かわせみの会」発足。（代表山田忍・39名参加）

わらび福祉園日曜活動開始。（平成16年まで）

4月　1日、「わらび第2ホーム」新築開所（無認可）。

19日　わらび福祉園開園10周年感謝の集い。（於・わらび福祉園）

7月　コミュニティサービス講演会開催「あたりまえのことをごくあたりまえに」アメリカ・ニューハンプシャー州コミュニティサービス開発課長ダグ・ワトソン、障害児の母親リンダ・ステア。

10月　24日、第1回全国ボランティア・フェスティバル（兵庫県）において、婦人ボランティア「さわらびグループ」厚生大臣表彰受賞。

11月　21日、あさみどりの会法人設立20周年記念行事開催。（於・朝日ホール）、記念誌「Human Love」刊行。

ダグ・ワトソン氏、リンダ・ステア氏（平成4年）

コミュニティサービス講演会（平成4年）

わらび福祉園開園10周年感謝の集い（平成4年）

わらび第2ホーム（平成4年）

あさみどりの会のあゆみ

3月　「もえぎの会」と「やどかりの会」が合併して「べにしだの家建設準備会」発足。
　　理事椿泰廣就任。（牧野正男退任）
平成5年度　母親の会「こもれびの会」発足。（代表山田由美子・31名参加）
〈1993年〉6月　19日、父親の会「べにしだの会」発足。
　　20日、あさみどり会館ボランティアサークル連絡会議開催。（9グループ36名参加）
平成6年度　さわらび園卒園児合宿訓練（卒園児母親グループ主催・以後継続）
〈1994年〉4月　1日、わらび福祉園グループホーム「わらび第2ホーム」認可開設。
平成7年度　4月　1日、評議員会設置。（評議員15名）
〈1995年〉　わらび福祉園 園長代理高濱潔就任。
　　1日～、「べにしだの家」新規職員（12名）、利用者候補（11名）現場実習。（わらび福祉園において8月まで）
6月　24日、理事長村上英治逝去（70才）、同27日の葬儀には2、000余名が参列。
　　理事長島﨑春樹就任、理事高濱潔就任。
7月　8日、石井パークマン麻子講演会開催「障害の重い人の地域生活援助」（今池ガスビル）。
9月　1日、「べにしだの家」開設。（入所厚生施設定員30名、通所授産施設定員20名・名古屋市中村区鴨付町）所長にわらび福祉園長島﨑春樹、副所長にさわらび園指導主任吉田とき江就任、わらび福祉園 園長高濱潔就任。（島﨑春樹異動）
　　12日、べにしだの家竣工式。
　　23日、べにしだの家竣工感謝の集い開催。（地域住民、ボランティア、あさみどりの会に縁のあった人に内覧を兼ねて無料で食事を楽しんでいただく、来所者延約1、500名）
　　障害児療育セミナー開催。（平成18年まで）
11月　3日、あさみどり運動会（於・上社公園、べにしだの家が加わり、3施設合同、翌年から平成26年まで中村区豊正中学校で開催）
12月　わらび福祉園自立生活を援助する会が、共同貯蓄の資金でグループホーム用土地・建物購入。（わらび第3ホーム）

べにしだの家（平成7年）

島﨑春樹理事長（平成7年）

あさみどりの会法人設立20周年記念会（平成4年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

12月、第47回国連総会において「12月3日を国際障害者デー」とする宣言を採択。

平成5年　「国連・アジア太平洋障害者の10年」
　　国）障害者基本法公布。
　　市）4月、民生局障害福祉部を新設し、障害施設課、障害福祉課を設置。西部地域療育センター開設。（通園施設ひよし学園廃止／現べにしだの家敷地）6月、地域リハビリテーション実施。9月、精神薄弱者更生相談所（現・知的障害者センター・サンハート）開設。
平成6年　国）「児童の権利に関する条約」批准。
　　12月、「障害者白書」刊行。
　　市）障害者施策推進協議会設置。
　　阪神淡路大震災。
平成7年　国）「障害者週間（12月3日～9日）」が設定される。「障害者プラン」策定。

3月　監事鵜飼信孝就任。（舟橋玉耀退任）
　　父親の会「あしたばの会」発足。（代表和田隆雄・33名参加）
　　母親の会「あんずの会」発足。（代表高見早代子・18名参加）
平成8年度　4月　1日、わらび福祉園グループホーム「わらび第3ホーム」開設。
〈1996年〉　べにしだの家「郡上山の家」において生活訓練。
　　15日、べにしだの家月曜サロン ボランティア開催（社会人を対象、平成10年まで）
6月　べにしだの家「ふたせ作業所」開設。（職住分離を実施、借家）
7月　法人職員全体研修実施。（年2回、以後継続）
8月　第1回べにしだ盆踊り開催。
9月　1日、わらび福祉園　青年会議所主催グラスディに参加。（平成14年ノーマライゼーション運動会、平成18年みんなの運動会という名称となる。以後継続参加）
　　16日、EKO名古屋コンサート開催。（於・愛知県勤労会館、スウェーデンの障害者バンドとなないろコンサートがジョイント）
　　23日、第1回べにしだ祭開催。（以後継続、平成11年から11月3日、令和元年より11月第1土曜日に開催）
　　28日～29日、第1回ボランティア集会開催。（於・べにしだの家、以後平成14年まで継続、平成16年から26年までボランティアフェスティバル、27年からはボランティアスクールに集約）
10月　べにしだの家一泊旅行（以後随時開催）
12月　わらび福祉園職員情報誌「ラポールわらび」発行（毎月1回、以後継続）
　　べにしだの家きょうだい会開催。（以後継続）
1月　わらび福祉園きょうだい会開催。（以後継続）
3月　20日、第1回父親フォーラム開催。（於・東山会館、146名参加、以後平成18年まで、19年からはフォーラムあさみどりとして実施）
平成9年度　4月　25日、全国知的障害者スポーツ大会リハーサル大会に、わらび福祉園から5名参加。
〈1997年〉
5月　あさみどりの会職員情報誌「ラポールあさみどり」発行。（年4回、以後継続）
　　法人職員全体研修（他に新人、中堅、上級研修などの法人内研修を実施）
7月

あさみどりの会設立25周年記念会（平成9年）

第1回父親フォーラム（平成9年）

べにしだの家竣工式（平成7年）

わらび第3ホーム（平成8年）

あさみどり運動会—豊正中学校（平成8年）

平成9年　国）障害者の雇用の促進に関する法律一部改正。（知的障害者の雇用義務化）
　　社会福祉法人の設立認可・指導監査等の業務が県から市へ移譲される。
　　市）知的障害者ガイドヘルパー派遣事業開始。

あさみどりの会のあゆみ

9月　アメリカ人音楽療法士エドウィンさんによる、わらび福祉園グループホーム住人対象の音楽療法開始。（平成11年10月まで、平成11年12月からは新しい講師瀬田なお子さんが引継ぎ継続）

3月　べにしだの家保護者会を父親の「自立をすすめる会」と母親の「保護者会」に組織変更。

平成10年度〈1998年〉4月　わらび福祉園定員33名（旧30名）変更。

べにしだの家通所授産、定員29名（旧20名）に変更。

5月　24日、三好町町政40周年ふるさと功労賞 法人として受賞。

6月　べにしだの家「ながおさ作業室」開設。（ふたせ作業室閉鎖）

9月　べにしだの家グループホーム「ながおさホーム」開所。（無認可）

12月　5日、法人設立25周年記念会開催。（於・東山会館）記念誌「父たち」刊行。

平成11年度〈1999年〉1月　わらび福祉園定員34名（旧33名）変更。

4月　母親の会「東風（こち）の会」発足。（代表服部由美子・21名参加）

4月　あらくさバザー開催。（以後継続）

4月　べにしだの家グループホーム「ながおさホーム」認可開設。

6月　4日、小規模作業所「あらくさ」（利用者3名、千種区東明町）開設。

9月　父親グループ連絡会議開催。（以後父親交流会と名称変更し随時開催）

平成12年度〈2000年〉6月　機関紙「療育援助」300号記念特集。

9月　父親の会「フォルテ」発足。（会長服部正美・18名参加）

法人合同きょうだい会開催。（以後継続）

9月　べにしだの家ボランティア講座を名古屋市社会福祉協議会・中村区社会福祉協議会と共催で開催。（平成14年まで）

23日、べにしだの家5周年記念会開催。（於・べにしだの家）

29日、理事伊藤方一急逝（66歳）。理事後藤秀爾就任。

10月　べにしだの家自活訓練棟「小鴨ハウス」（定員4名）開設。

3月　わらび福祉園ボランティア交流会開催。（平成16年まで）

平成13年度〈2001年〉4月　中学生合宿開始。（10名定員・3泊4日、以後継続）

小規模作業所「あらくさ」名古屋市障害者共同作業所補助対象になる。（利用者10名）

べにしだの家、らいぶ游～みんぐるまんぐる～開催。（以後平成26年まで毎月1回、平成27年から年4回）

5月　あさみどりの会のホームページ開設。（http://www.asamidori.or.jp/）

10月　P&A japan、愛知県知的障害者福祉協会と共催で「スーザン・マクマホーン氏講演会」を開催。

2月　わらび福祉園絵の会開始。（以後継続）

平成14年度〈2002年〉4月　母親の会「凪の会」発足。（代表嶋弘美・22名参加）

1日、「れいんぼうワークス」開設。（通所授産施設定員20名・海部郡佐屋町）所長に植田一雄就任。

1日、べにしだの家グループホーム「こがもホーム」（借家・定員4名）開設。

21日、れいんぼうワークス竣工式。

25日、ボランティア同窓会開催。（約120名が参加）

あらくさナイトケア実施。

9月　れいんぼうワークス親子一泊旅行実施。（平成21年まで、その後形態等変更して実施）

10月　れいんぼうワークスきょうだい会開始。（べにしだの家と共同開催、24年からは単独開催）

20日、あさみどり運動会（れいんぼうワークスが入り、4施設合同）

12月　8日、法人設立30周年記念会開催。（於・愛知厚生年金会館）

30周年記念誌「みちをひらく」、「べにしだ物語」刊行。

3月　監事小林博義就任。（黒宮光一退任）

平成15年度〈2003年〉4月　れいんぼうワークス第1回れいんぼう祭開催。（以後継続）

れいんぼうワークス「自立の会」発足。（会長江尻冨吉）

れいんぼうワークス生活実習開始。（4泊5日、平成20年まで、その後ホーム未入居者による体験実習を平成25年まで実施）

べにしだの家、グループホーム利用者の余暇活動として週末活動開始。

7月　べにしだの家自活訓練棟「第2小鴨ハウス」開設。（定員4名）

べにしだの家茶房「游」開店。（平成25年まで中村区小鴨町）

れいんぼうワークス父親懇談会開催。

小規模作業所「あらくさ」（平成11年）

ながおさホーム（平成10年）

第3回あさみどりの会ボランティア集会（平成10年）

べにしだの家茶房「游」開店（平成15年）

あさみどりの会法人設立30周年記念会（平成14年）

「べにしだ物語」（平成14年）

れいんぼうワークス竣工式（平成14年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

「父たち」（平成10年）

平成10年　国）「特定非営利活動促進法」成立。「精神薄弱」の用語整理のための関係法の一部改正。（「知的障害」に変更）

平成11年　市）知的障害者センター（知的障害者更生相談所・障害者高齢者権利擁護センター・障害者雇用支援センター）を開設。

平成12年　東海豪雨。

国）「介護保険法」「成年後見制度」施行。

社会福祉構造改革実施。社会福祉制度を措置制度から契約制度に、応能負担から応益負担に転換。民間企業を含む多様なサービス提供主体の参入を推進。

「介護保険法」施行。「児童虐待防止法」公布。「交通バリアフリー法」公布。

市）民生局と衛生局を統合し、「健康福祉局」を設置。

平成13年　世界保健機関・「国際生活機能分類（ICF）」採択。

国）9月、「障害者に関する世論調査」実施。

第1回全国障害者スポーツ大会開催。（於・宮城県　身体障害者と知的障害者の全国大会を統合）

平成14年　国）「障害者基本計画」、「重点施策実施5か年計画（新障害者プラン）」策定。

「障害者基本計画」策定。

市）「障害者地域生活支援センター」を16区に設置。

平成15年　国）「支援費制度」施行。

市）北部地域療育センター開設。

あさみどりの会のあゆみ

10月　べにしだの家グループホーム「かもつけホーム」開設。（借家・定員4名、中村区鴨付町）
平成16年度
〈2004年〉4月　島﨑春樹理事長・愛護福祉賞受賞。
べにしだの家グループホーム「あらくさの家」開設。（定員4名、千種区東明町）
11月　27日、第1回ボランティア・フェスティバル開催。（平成26年まで開催、27年からボランティアスクールに集約）
平成17年度
〈2005年〉4月　母親の会「リズム」発足。（代表中村美佐子・11名参加）
れいんぼうワークス土曜日開所開始。
べにしだの家グループホーム「神田ホーム」（借家・定員6名、千種区神田町）、わらび福祉園グループホーム「笑の家」（定員7名、三好町）、れいんぼうワークスグループホーム「虹の家」（定員4名、愛西市）開設。
わらび福祉園居宅介護事業所「ヘルパーステーション笑の家」（三好町）、べにしだの家居宅介護事業所「ヘルパーステーションべにしだ」（中村区、平成21年6月まで）開設。
7月　べにしだの家おうまさん倶楽部開始。（令和3年まで）
9月　小学生合宿開始。（定員10名・2泊3日、以後継続）
11月　べにしだの家グループホーム「城屋敷ホーム」開設。（借家・定員5名、「かもつけホーム」を閉鎖して移転。中村区城屋敷町）
12月　3日、べにしだの家開設10周年記念会開催。（於・愛知厚生年金会館）記念誌「愛と自由と安心を」刊行。
1月　れいんぼうワークス土曜レク開始。（以後継続、現在の名称は土曜活動）
平成18年度4月　法人入所施設、各ホーム土曜日帰省開始。（それまでは原則金曜日帰省）
〈2006年〉べにしだの家所長吉田とき江就任。（島﨑春樹退任）
れいんぼうワークス定員24名（旧20名）変更
7月　べにしだの家グループホーム「ゆうゆう」開設。（「第2小鴨ホーム」からの名称変更及び移転。これにより自活訓練棟を閉鎖）
10月　1日、障害者自立支援法の施行に伴い、法的には法人の各事業所のグループホームはケアホームとなり、新たに「わらび共同生活事業所」（4カ所20名）、「べにしだ共同生活事業所」（6カ所30名）、「れいんぼう共同生活事業所」（1カ所4名）として開設。（以下共同生活事業所の表記省略。法人としてはグループホームのまま呼称）
「べにしだの家分場あらくさ」開設。（借家・定員11名、小規模作業所あらくさから移管、千種区神田町へ移転）
べにしだの家　通所定員40名（旧29名）変更。
11月　理事鳥村善照就任。（鈴木國夫退任）
3月　18日、マザース・フェスタ開催。（於・愛知厚生年金会館）
25日、れいんぼうワークス5周年記念会（於・厚生年金会館）
さわらび園土曜日開園実施。わらび福祉園増築。
平成19年度
〈2007年〉4月　1日、さわらび園　園長島崎徹也就任。（島崎左世退任）
5月　べにしだの家グループホーム「城屋敷ホーム」定員7名（旧5名）変更。
20日、法人設立35周年記念会・兼第1回フォーラムあさみどり（父親フォーラム改め）開催。（於・厚生年金会館、以後継続）
6月　べにしだグループホーム「こがもホーム」開設。（定員4名、自活訓練棟小鴨ハウスを閉鎖。平成14年開設の借家のこがもホームを閉鎖して移転）
7月　べにしだの家分場あらくさ 父親参観実施。
11月　第1回障害児（者）発達支援セミナー開催。（障害児療育セミナーを改称、平成25年まで継続、翌年からあさみどりワークショップとして実施）
3月　機関紙「療育援助」400号記念特集。
平成20年度
〈2008年〉わらび福祉園　園長高濱潔が愛知県知的障害者福祉協会会長に就任。（平成21年まで）
母親の会「宙（そら）の会」発足。（代表臼井利絵・15名参加）
4月　1日、わらび福祉園新体系移行。（生活介護 定員28名・就労移行支援 定員6名）
れいんぼうグループホーム「虹の家Ⅱ」開設。（定員7名、愛西市西條町）
わらび福祉園 みよし市より相談支援事業受託、事業開始。

第1回障がい児（者）発達支援セミナー（平成19年）

れいんぼうワークス5周年記念会（平成19年）

第1回フォーラム・あさみどり（平成19年）

「愛と自由と安心を」（平成17年）

虹の家（平成17年）

第1回ボランティアフェスティバル（平成16年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

平成16年　国）「障害者基本法」改正。
「発達障害者支援法」公布。
市）名古屋市障害者基本計画（平16～25策定。地域子育て支援センター事業開始。
平成17年　愛知万博「愛・地球博」開催（於・愛知県　日本国際博覧会）
国）「障害者自立支援法」公布。

笑の家・ヘルパーステーション笑の家（平成17年）

平成18年　国）「障害者自立支援法」全面施行。
グループホームがグループホームとケアホームに分化される。
市）「子ども青少年局」新設。障害福祉部を再編し、障害企画課及び障害者支援課を設置。発達障害児（者）相談支援事業開始。（児童福祉センター内）

べにしだの家分場あらくさ（平成18年）
千種区神田町、サンサンビル1階
（3階、神田ホーム）

平成19年　国）国連「障害者の権利条約」署名。障害者施策における「重点施策5カ年計画」策定。

ゆうゆう（平成18年）
こがもホーム（平成19年）

平成20年　米証券大手リーマンブラザーズが破綻し世界金融危機が急速に進展。
国）障害者自立支援法の抜本的な見直しに向けた緊急措置。

あさみどりの会のあゆみ

6月　べにしだグループホーム「あらわいの家」開設。（定員7名、「城屋敷ホーム」を閉鎖して移転）
7月　「あらわい作業所」開設。（べにしだの家利用者の日中活動の場として使用、ながおさ作業所を閉鎖して移転）
3月　1日、あらくさの会発足20周年・作業所開設10周年記念会開催。（於・東京第一ホテル錦）　記念誌「営営と20年あらくさの会」刊行。

平成21年度4月　さわらび園　園長吉田とき江就任（島崎徹也異動）、べにしだの家所長追分伸夫就任（吉田とき江異動）、れいんぼうワークス所長島崎徹也就任（植田一雄異動）。
〈2009年〉　れいんぼうワークス定員20名（旧24名）変更。
6月　れいんぼうワークス山の家合宿開始。（以後継続）
9月　さわらび園　園長吉田とき江病気療養につき、島崎春樹理事長が代行。（平成22年3月まで）
1月　26日、特定非営利活動法人「蒼（あお）の会」設立。（理事長椿純子）
べにしだの家保護者有志が司法書士小林博義氏の支援のもとに立ち上げた成年後見法人。23年8月から後見開始。（3名）
母親の会「こだまの会」発足。（代表加藤千晴・13名参加）

平成22年度　1日、べにしだの家（生活介護 定員70名・施設入所支援 定員30名）れいんぼうワークス新体系移行。（生活介護 定員20名）
〈2010年〉4月　さわらび園　園長嶌村善照就任。（吉田とき江退任）
べにしだグループホーム「ながおさホーム」定員7名（旧4名）変更。
れいんぼうワークス増築。（地域交流スペース、相談室・ボランティアコーナー・作業室）
6月　17日、前さわらび園　園長吉田とき江逝去。（62歳）
11月　理事島崎徹也就任。（村地俊二退任）
1月　22日、第13回ないろコンサート開催。（於・ウイルあいち、前年5月に実行委員会を結成、15年ぶりの福祉コンサート）
父親の会「クラブヤジオ」発足。（代表久野格彦・会員30名）

平成23年度　1日、わらび福祉園就労継続B型開始。（定員10名、全体で44名）
〈2011年〉4月　れいんぼうワークス定員23名（旧20名）変更。
れいんぼうグループホーム「虹の家Ⅲ・Ⅳ」開設。（定員各7名、愛西市西條町）
さわらび園　園長島崎徹也就任（嶌村善照退任）、れいんぼうワークス所長葛原成美（島崎徹也異動）。
7月　有志により「郡上山の家」に吉田とき江記念碑を建立。
8月　わらび福祉園　利用者3名の絵が岡崎信用金庫の現金封筒イラストに採用。（翌年2月にはこの絵がキャッシュカードにも採用。これ以降だんだんボックスの活動等を通して利用者の作品が多数の企業から採用される）
10月　わらび福祉園大規模改修工事。（管理棟、第2ホーム等）
12月　4日、法人設立40周年記念会開催。（於・中日パレス）　記念誌「法人設立から40年ー援け合うこころを育んで」刊行。
法改正により共同生活事業所が「共同生活援助事業所」となる。
べにしだの家土曜活動開始。（毎月1回・以後継続）

平成24年度　4月　1日、さわらび園新体系移行。児童発達支援センターとなる。（障害児通所支援事業・児童発達支援　定員30名）
〈2012年〉　べにしだグループホーム「あらくさの家」改築。（名古屋市千種区東明町・平成23年11月～翌年3月利用休止）
4月　わらび福祉園園長熊谷かの子就任（高濱潔退任）
14日、わらび福祉園30周年記念会開催。（於・わらび福祉園）、「わらび福祉園30年の歩み」刊行。
6月　法人設立40周年記念誌「夢あさみどり」刊行。
10月　27日、虹の会25周年、れいんぼうワークス10周年記念会開催。（於・中日パレス）、「にじ」刊行。
12月　べにしだの家茶房「游」休止。
1月　べにしだ共同生活援助事業所（障がいのある方の生活を支える）支援者養成講座開催。（以後継続）
2月　べにしだの家障害児者相談支援事業開始。

平成25年度　4月　1日、さわらび園　障害児通所支援事業・「放課後等デイサービス定員10名」「保育所等訪問支援」「障害児相談支援」開始。
〈2013年〉　べにしだグループホーム「いなばじホーム」開設。（定員7名、中村区稲葉地町）
5月　わらび共同生活援助事業所　支援者養成講座開催。（以後継続）
10月　わらびグループホーム「風の家」開設。（定員7名、みよし市三好町）

クラブヤジオ発会式典（平成23年）

さわらび誕生会（平成21年）

れいんぼうワークス地域交流室（平成21年）

支援者養成講座（平成25年～）

各成人事業所で実施

いなばじホーム（平成25年）

わらび福祉園30周年記念会（平成24年）

法人設立40周年記念会（平成23年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

平成21年　国）政府は利用者負担を「応能負担」を原則とする自立支援法改正案を国会に提出。
政権交代。（民主、社民、国民の連立内閣成立）

営営と20年あらくさの会（平成21年）

平成22年　国）内閣府に「障がい者制度改革推進会議」設置。「障害者自立支援法改正法（つなぎ法）」及び関係法として「児童福祉法」の一部改正法が成立。（平24年4月1日施行）
市）成年後見あんしんセンター開設。

平成23年　東日本大震災。
国）障害者虐待防止法成立。（平24年10月施行）
改正障害者基本法成立。（発達障害を法上に位置づけ、3年後に改正）

「法人設立から40年ー援け合うこころを育んで」（平成23年）

平成24年　国）「障害者総合支援法（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律）」成立。（障害者自立支援法からの改正　25年4月より施行）
市）指定障害福祉サービス事業所等の指定・指導事務が愛知県から移譲・障害者虐待相談センター開設

「にじ」（平成24年）

風の家（平成25年）

平成25年　国）「障害者差別解消法」「障害者雇用促進法」改正。
日本が「障害者権利条約」を批准。

あさみどりの会のあゆみ

11月　さわらび園仮園舎（プレハブ）にて療育開始。
28日、さわらび園新園舎着工。
2月　さわらび祭園舎建替えのため中止。
3月　30日、公益財団法人糸賀一雄記念財団より**糸賀一雄記念賞受賞**。

平成26年度
〈2014年〉
母親の会「JOY!!」発足。（代表中山麻友子・16名参加）
DVD「**この子らを世の光に**」（昭和43年映画をDVDに）刊行、ほかに法人で今までに映画制作のフィルムが現存していたものを全てデジタル化。
4月　れいんぼうワークス定員20名（旧23名）変更。
7月　1日、れいんぼうグループホーム「**虹の家V**」開設。（定員6名、愛西市西條町）
4日、**さわらび園新園舎**で療育開始。
20日、**さわらび園竣工式**、新園舎お披露目パーティー。記念誌「**42年間にわたる母子通園のあしあと**」刊行。
11月　**理事長後藤秀爾就任**（島﨑春樹顧問就任）、理事鵜飼信孝、追分伸夫、島田修三就任（中北智久退任、高濱潔相談役就任）、監事菅沢豊就任（鵜飼信孝理事就任）法人設立者伊藤方文から運営及び経営を託された島﨑春樹、法人設立時からの理事であった中北智久、運営管理基礎を作った高濱潔が退任、新体制の下での出発となる。
1月　11～12日、ワークショップ開催。（昨年までの障害者発達支援セミナーから内容変更、以後継続）
父親の会「かたつむり」発足。（代表谷口弘記・17名参加）
法人本部事務局体制始動。（島崎徹也事務局長、葛原成美事務局次長）
れいんぼうワークス所長鷲見まち子就任。（葛原成美異動）
5日、**なないろコンサートCD発売記念コンサート**開催。（於・愛知県芸術劇場）、なないろコンサートCD「**きせき**」（全21曲）刊行。
9月　19日、**べにしだの家20周年記念会**開催。（於・ルブラ王山）記念誌「**えにしを繋いで・べにしだのアルバム20年のあゆみ**」刊行。
10月　4日、**さわらび運動会**開催。（昨年度までの成人施設との合同運動会からさわらび園単独の運動会となる）
10日、**わらび秋まつり**開催。（昨年までの夏まつりから開催時期、名称を変更）
11月　9日、**元れいんぼうワークス所長植田一雄急逝**。
1月　れいんぼう共同生活援助事業所、**支援者養成講座**開始。（以後継続）
1月　べにしだの家　日中活動に活用するために植物栽培装置「おあしすくん」を開発、特許取得。

平成28年度4月
〈2016年〉
9月　**「援け合うこころを育んで――会の発足から59年間にわたる活動の足跡」**刊行。
年2回の法人全体研修の内、2回目を各事業所の実践発表の場とする。（以後継続）
9月　さわらび園　放課後等ディサービスに音楽療法を取り入れる。（以後継続）
10月　れいんぼうワークス　本体及び虹の家Ⅰ、Ⅱ外壁改修工事。
11月　れいんぼうワークス　音楽療法を導入。
2月　さわらび園　放課後等ディサービスの音楽療法の一環としてダンスを取り入れる（H29年4月より単独の活動となり以後継続）。
3月　18日、**元さわらび園　園長島﨑左世逝去**。（82歳）

平成29年度4月
〈2017年〉5月
わらび福祉園　将来の高齢化対応型ホームとして**風の家Ⅱ**を開設。
社会福祉法人制度改革に伴い、新たな理事会及び評議員会体制となる。
5月　発達障害対応研修開始。（社会福祉法人やまびこの里、小林信篤氏を講師に成人事業所を対象として年間3～4回開催）
9月　さわらび園　児童発達支援との一体的運営が認められなくなったため**放課後等ディサービスを廃止**。利用者が全員卒園児であることから学童療育と位置付け、**「放課後クラブ」**として継続。
10月　**母親の会「コパン」**発足。（代表江本尚子・17名参加）
1月　わらび福祉園　みよし商工会よりクッキーが「みよしぶらんど」に認定される。

「この子らを世の光に」DVD（平成26年）

糸賀一雄記念賞受賞（平成26年）

後藤秀爾理事長（平成26年）

さわらび園竣工式（平成26年）

さわらび園新園舎（平成26年）

さわらび園仮園舎（平成25年11月～26年6月）

風の家Ⅱ（左側／平成29年）

べにしだの家20周年記念会（平成27年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

平成26年　国）「障害者総合支援法」改定、ケアホームがグループホームに一元化。

虹の家V（平成26年）

「42年間にわたる母子通園のあしあと」（平成26年）

平成27年　国）マイナンバー通知

なないろコンサートCD「きせき」（平成27年）

「えにしを繋いで」（平成27年）

平成28年　7月26日未明、相模原障がい者施設殺傷事件発生
国）「障害者差別解消法」施行
地域共生社会の実現を盛り込んだ「日本一億総活躍プラン」が閣議決定。
市）「名古屋市障害者差別相談センター」開設。

平成29年　国）「社会福祉法人制度改革（経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上、財務規律の強化等）」施行。
国）児童発達支援ガイドライン策定。提供すべき支援として「発達支援」「家族支援」「地域支援」が示された。

あさみどりの会のあゆみ

3月　さわらび園　新池盆踊りの企画、運営に携わる中学生から社会人までの卒園児と学生ボランティアを交えた「盆踊り実行委員会」を発足。（令和元年度からは、より幅広い活動を行うサークル的なグループ「ジャイアントステップス」として活動開始）

3月　わらび福祉園　就労移行支援事業を廃止。

平成30年度4月　さわらび園　園長山本智恵就任。（島崎徹也退任）法人総合施設長島崎徹也就任。（事務局長兼務）

〈2018年〉

6月　監事 渡邊冬樹就任。（小林博義退任）

9月　法人規模の拡大に伴い、法人の理念を共有しつつ、より地域に根差した拠点として良質な活動を追求していくことを目指し、わらび福祉園を新法人「あさみどりの風」わらび、として分割するための設立準備委員会を発足。（令和元年12月までに4回開催）

11月　べにしだの家「従たる事業所」のあらくさ作業室を独立させる構想を提示。

12月　れいんぼうワークス　施設南側の土地を購入（令和2年4月に駐車場と畑として整備、953㎡）

1月　わらび福祉園　地域包括支援と連携し、地域の高齢者の集いの場「わらびカフェ」を開始。（毎月1回）

令和元年度4月　れいんぼうワークス　全国の農福連携の事業所が参加する「農福連携自然栽培パーティー全国協議会」に加入。

〈2019年〉

5月　れいんぼうワークス　東屋設置。

6月　理事 熊谷かの子就任。（嶌村善照退任）

6月　わらび共同生活援助事業所　定員28名から29名に増員。

7月　監事 渡邊冬樹逝去

11月　監事 渡邊勝就任。

12月　あらくさ作業室の将来の独立に向けて1階と2階の大規模改修を実施。

令和2年度5月　「社会福祉法人あさみどりの風」設立が認可される。

〈2020年〉5月　べにしだの家開設時の本来の目的であった「地域移行」を再確認し将来の快適かつ適切な居住環境を整えるために生活棟をグループホームに転用する構想を提示。（以後、名古屋市と協議継続）

れいんぼうワークス前の畑と駐車場
（平成 30年）

れいんぼうワークスの東屋と花壇
（令和元年）

和來 ～ wara ～（令和2年）

6月　わらび福祉園　就労継続B型事業の新たな活動場所として、みよし市役所前にうどん店「和來～wara～」を開店。

7月　べにしだの家　事務所改修工事。

9月　「わらびの途～開園から38年、新法人設立に向けて～」刊行

10月　理事 山本智恵就任。（熊谷かの子退任）

10月　1日、法人分割により「社会福祉法人あさみどりの風」わらび（理事長 熊谷かの子）開設。

※新型コロナウィルスの感染状況により、本年度以降各種法人事業、行事、研修等の開催に継続的に影響がみられている。

令和3年度4月　法人事務局長 追分伸夫就任。（あらくさ作業室所長兼務、島崎徹也異動）べにしだの家 所長島崎徹也就任。（追分伸夫異動）

〈2021年〉

5月　島崎春樹顧問・瑞宝双光章受賞。

6月　前わらび福祉園園長（法人専務理事）高濱潔逝去。（86歳）

6月　べにしだの家　本体中庭に第3作業室を新築。

8月　母親の会「いちごの会」発足。（代表塩野維子・19名参加）

べにしだ共同生活援助事業所　こがもホーム改修工事。

令和4年度4月　れいんぼうワークス 所長田中雅樹就任（鷲見まち子異動）、あらくさ作業室 所長鷲見まち子就任（追分伸夫異動・法人事務局長専任）

〈2022年〉

6月　れいんぼうワークス　生活介護定員20名から23名に増員。

11月　27日、法人設立及びさわらび園開設50周年記念「フォーラム・あさみどり」開催。（於・東京第一ホテル錦）

記念誌「早蕨 ― さわらび ― ～出会いと感謝の50年～」刊行。

※本年を以てわらび40周年、れいんぼうワークス20周年の節目を迎える。

3月　「援け合うこころを育んで～会の発足から65年間にわたる活動の足跡～」刊行。

法人設立50周年記念会
「フォーラムあさみどり」（令和4年）

べにしだの家 第3作業室（令和3年）

国・愛知県・名古屋市・団体等の動き

平成30年　国）幼児教育・保育無償化実施のための子ども・子育て支援法改正案閣議決定。

市）「障害者通院時コミュニケーション支援事業」開始。

名古屋市障害者基本計画（令1～5）策定。

令和元年　国）5月1日、「平成」から「令和」に改元。

10月、消費税率が8％→10％に引き上げ。

12月、中国・武漢で新型コロナウィルス発生、世界的な大流行へ。

市）名古屋市障害者就労支援窓口「ウェルジョブなごや」開設。

令和2年　国）障害者の法定雇用率2.2％→2.3％に引き上げ。

市）あけぼの学園敷地内移転改築

「わらびの途」
（令和2年）

令和3年　国）新型コロナウィルス感染拡大のため延期されていた東京オリンピック、パラリンピックが開催。

令和4年　国）「社会福祉連携推進法人制度」施行。

「早蕨 -さわらび-」
（令和4年）

あさみどりの会が取り組んできた 集い・研修・講座など活動記録の概要

1 心身障がい問題を考える集い

心身障害問題を考える集いは、朝日新聞名古屋厚生文化事業団と社会福祉法人あさみどりの会の共催により、昭和41年、障害を持った人たちが地域社会の中でしあわせな生涯を送ってほしいという願いのもとに、社会の人々に理解を求め、障害者の最も適切な処遇を志向して、地元講師はもとより全国各地から講師をお願いして、時々折々最も必要とされる問題を取り上げてきました。

第16回までは、「心身障害問題を理解する集い」のタイトルでしたが、第17回からは「心身障害問題を考える集い」とし、参加者みんなで考える集いとなるよう心がけています。

回	年月	テーマ／講師
1	昭和41年1月	心身障害問題の根本をさぐる 〈講師〉小林靖彦、川本伸夫、広瀬和代、永井敦子、飯田えつ子、山崎章雄　〈司会〉村上英治
2	42年3月	遺伝と精神薄弱 〈講師〉津田克也、富永義彦、石田　清　他　〈司会〉村上英治
3	43年2月	能力を育てる 〈講師〉見神俊彦、沢田秀一、川崎　昂　〈司会〉堀　要
4	43年10月	映画「この子らを世の光に」完成披露 〈講師〉古橋金一、伊藤方文、ゲスト：矢野隆夫
5	43年11月	映画「この子らを世の光に」と「夜明け前の子どもたち」 〈講演〉岡田喜篤
6	44年2月	育つもの・育てるもの 〈講演〉杉田　裕
7	44年10月	手をつなぐ子達 〈講演〉田村一二
8	45年2月	わが子の幼児期 〈講師〉塚崎映子、富田静江、小坂　巴　〈司会〉堀　要
9	46年2月	社会に巣立つ子らの問題 〈講演〉手塚直樹
10	47年2月	コミュニティ・ケアと施設 〈講演〉野上芳彦
11	昭和48年2月	これからの障害児療育① 〈講師〉小松原次郎、大野智也、中村予吉
12	49年2月	これからの障害児療育② 〈講師〉祖父江昭二、松原隆三、宮下俊彦　〈司会〉堀　要
13	50年2月	自閉的な子ども 〈講師〉宮下俊彦、若林慎一郎、宮脇　修　〈司会〉丸井文男
14	51年2月	性と結婚 〈講演〉弘済学園長（千葉県）中村健二
15	52年2月	年長障害者の処遇 〈講演〉厚木市すぎな寮長（神奈川県）小杉長平
16	53年2月	心身障害者のリハビリテーション 映画「やればできる」（札幌市製作） 〈講演〉三国一郎
17	54年2月	障害児にとって学校教育とは何か 〈講師〉松原隆三、石井高明、宮下俊彦　〈司会〉村上英治
18	55年3月	障害児の保育 〈講師〉鈴木弘一、宮下俊彦、祖父江文宏
19	56年4月	障害者の社会参加 義務教育終了後の処遇をどうすすめるか 〈講師〉若山祐次、沓名芳枝、矢部　進　〈司会〉村上英治
20	57年3月	障害者と地域療育　―すべての人が幸せに暮らすには― 映画「そっちやない、こっちや」 〈講演〉評論家　水原　孝
21	58年4月	障害児・学齢期の養育 社会自立のためにやっておかなければならないこと 〈講演〉弘済学園長（千葉県）中村健二
22	59年3月	堀要先生追悼シンポジウム 「福祉のこころ」障害者福祉のゆくえ 〈講師〉石井高明、渡辺良禅、須知繁子　〈司会〉村上英治
23	60年5月	高齢障害者のくらしを考える 主に高齢精神薄弱者の処遇を中心として 〈講演〉穂高悠生寮（長野県）山崎調一
24	61年5月	障害者の地域処遇 ―障害者の家族と地域資源の連携のもとに― 〈講演〉小児療育相談センター所長（神奈川県）佐々木正美
25	昭和62年5月	障害者の自立とくらし ―精神薄弱施設と生活寮をめぐって― 〈講演〉あきは寮長（静岡県）八谷祐司
26	63年4月	障害児と言葉 〈講演〉愛知県コロニー中央病院言語療法士　国島典子
27	平成元年6月	障害者は、いま　地域生活援助の実践を中心に 〈講演〉国際障害者年日本推進協議会広報委員長　大野智也
28	2年6月	障害者福祉の明日を考える 〈講演〉愛知県立看護短期大学学長　村地俊二
29	3年6月	知恵遅れと授産 ―ひとりひとりの個性と能力にそった自立をめざして― 〈講演〉津山みのり学園長（岡山県）牧野弘典
30	4年11月	障害をもった人たちの福祉と教育 ―国際的視野からの展望― 〈講演〉明治学院大学教授　山口　薫
31	6年1月	命、このいとしきもの 〈講演〉作家　灰谷健次郎
32	6年4月	子どもの未来を拓く父親の役割 障害児のライフサイクルを見通して 〈講師〉島田修三、野沢和弘、椿　泰廣、小野　宏　〈司会〉村上英治
33	7年5月	知的障害者の社会参加を考える 本人参加と自己決定をめぐって 〈講演〉四国学院大学教授　河東田　博 〈鼎談〉河東田　博、渡辺勧持、島田修三
34	8年5月	ともに生きともに老いる障害者と泣き笑い大変さを楽しむ34年 今思うこと 〈講演〉長崎純心大学教授　なずな園主宰　近藤原理
35	9年5月	すべての子どもたちの発達保障 ―統合療育をめざして― 〈講演〉うめだ・あけぼの学園長（東京都）加藤正仁 パネルディズカッション 加藤正仁、高橋　脩、涌井規子　〈司会〉後藤秀爾
36	10年6月	自閉症の人たちの豊かな人生を求めて 〈講演〉仲町台発達障害センター長（横浜市）藤村　出 〈鼎談〉藤村　出、野沢和弘、島崎春樹
37	11年6月	自閉症の人たちと地域で共に生活するために 〈講演〉あさけ学園長（三重県）奥野宏一 〈鼎談〉奥野宏一、森　省一、島崎春樹
38	平成12年6月	障害のある人たちの未来を探る 〈講演〉北信圏域障害者生活支援センター所長（長野県）福岡　寿 〈鼎談〉福岡　寿、三田優子、吉田とき江
39	13年6月	障害のある子の生きる力を育てる 〈講演〉豊田市こども発達センター所長　高橋　脩 〈鼎談〉高橋　脩、加藤ひとみ、後藤秀爾
40	14年6月	まちに暮らす ―知的障害のある人たちの地域生活支援を考える― 〈講演〉伊達市地域生活支援センター所長（北海道）小林繁市 〈鼎談〉小林繁市、渡邊冬樹、高濱　潔
41	15年6月	障害者福祉の展望 ―制度の転換は障害者の幸せを保障できるか― 〈講演〉川崎医療福祉大学学長　岡田喜篤 〈対談〉岡田喜篤、島崎春樹
42	16年6月	子どもの心を育てる ―健常な子、障害のある子の健全な育てを考える― 〈講演〉財団法人　ハーモニーセンター　大野重男 〈対談〉大野重男、島崎春樹
43	17年6月	障害のある人もあたりまえに暮らせる街にするために 〈講演〉高浜市長　森　貞述 〈対談〉森　貞述、島崎春樹
44	18年6月	社会福祉制度改革と地域福祉 〈講演〉日本社会事業大学学長　大橋謙策 〈対談〉大橋謙策、島崎春樹
45	19年6月	知的な障害のある人の福祉のゆくえ 〈講演〉社会福祉法人むそう理事長　戸枝陽基 滋賀県社会福祉事業団企画事業部長　北岡賢剛 〈鼎談〉戸枝陽基、北岡賢剛、島崎春樹
46	20年6月	奈緒ちゃんとのヨカッタサガシの日々 映画「ありがとう」の上演 〈講演〉映画監督　伊勢真一
47	21年5月	発達障害のある人の社会自立 〈講演〉社会福祉法人あおぞら共生会副理事長　明石洋子 〈対談〉名古屋大学名誉教授　蔭山英順、明石洋子
48	22年6月	日本の福祉の未来を描く 〈講演〉DPI（障害者インターナショナル） 日本会議事務局長　尾上浩一 〈対談〉尾上浩一、島崎春樹

49	平成23年6月	発達障がい児の支援 〈講演〉豊田市子ども発達センターセンター長・児童精神科医 高橋 脩 〈鼎談〉高橋 脩 愛知県自閉症協会 副会長 岡田ひろみ さわらび園 前園長 嶌村善照
50	24年6月	発達障害を考える ―発達障がいのある子どもとその家族の安定したくらしを実現するために― 〈講演〉川崎医療福祉大学準教授 諏訪利明 〈対談〉諏訪利明・島崎徹也
51	25年6月	日本の社会福祉を考える ―超高齢社会における地域の包括的な支援の行方と障害児者のケア― 〈講演〉元厚生労働事務次官 辻 哲夫 〈対談〉辻 哲夫、島崎春樹
52	26年6月	障害児者の地域支援を考える―〝みんな一緒に〟幸せになるために― 〈講演〉社会福祉法人訪問の家元理事長 日浦美智江 〈対談〉日浦美智江、島崎春樹
53	27年7月	障害者と共に生きる社会を目指して ―障害者福祉から人間福祉の時代へ― 〈講演〉社会福祉法人札幌この実会関連法人代表 加藤 孝 〈鼎談〉加藤 孝、渡部 等、熊谷かの子
54	28年7月	誰もが生きやすい社会の実現に向けて 〈講演〉毎日新聞社論説委員 野澤和弘 〈鼎談〉愛知淑徳大学 学長 島田修三 椙山女学園大学 准教授 手嶋雅史、野澤和弘
55	29年6月	障害福祉が照らす日本の未来 〈講演〉筑波大学 人間系教授 小澤温 〈対談〉小澤温、後藤秀爾
56	30年6月	日本がこれから向かうべき社会とは 〈講演〉法政大学 教授・社会活動家 湯浅誠 〈対談〉社会福祉法人岩崎学園 理事長 松下直弘、湯浅誠
57	令和元年6月	援け合いのある社会へ 〈講演〉NPO法人抱樸 理事長 奥田知志 クロストーク
58	3年7月 （WEB開催）	※令和2（2020）年度は新型コロナ感染防止のため中止 コロナ後を見据えた地域づくり 〈講演〉早稲田大学法学学術院 教授 菊池馨実
59	令和4年7月 （WEB開催）	それぞれが元気になる社会を妄想してみた 〈大討論会〉社会福祉法人拓く 法人本部長 浦川直人 社会福祉法人グロー 福祉事業部 御代田太一 株式会社 musbun 代表取締役 鈴村萌芽 社会福祉法人あさみどりの風 相談支援専門員 渡邊裕介 長久手市 市長直轄組織 地域共生推進監 國信綾希

2 障がい児問題研修旅行

各地の優良施設等を見学し、よりよい処遇のあり方を探っていくことを目的に、昭和41年から朝日新聞名古屋厚生文化事業団との共催で実施されました。

回	実施年月	テーマ／見学地
1	昭和41年7月	精神薄弱者を雇用している工場 丸高木工（浜松市）
2	11月	重度心身障害児の訓練と過保護 止揚学園と彦根学園
3	42年4月	この子らを世の光に 近江学園
4	10月	情緒障害児について（付脊損者リハビリテーション） 諏訪湖健康学園と労災リハビリテーション長野作業所
5	43年5月	日本のゲールを訪ねて 岩倉病院と大雲寺
6	11月	動く障害児と教育 関西青少年サナトリウムと高槻養護学校
7	44年5月	幼児期の育ち方 白川学園
8	44年11月	施設と地域社会 八楽児童寮と高山学園
9	47年11月	精神薄弱者の更生施設と授産施設 松花園と南山城学園
10	48年6月	これからの療育 神奈川県こども病院と国立特殊教育総合研究所
11	10月	心身障害者の社会復帰 弘済学園と神奈川県総合リハセンター
12	49年6月	施設とコミュニティ・ケア 神戸市立各施設

13	昭和49年11月	心身障害幼児の保育 大津市立保育園と大津市民健康センター
14	50年6月	桃十字運動の街を訪ねて 心身障害者総合施設「旭川荘」
15	11月	高年齢重度心身障害者の処遇 宝池住吉寮（上田市）鹿教湯病院 他
16	51年5月	施設とコミュニティ 西駒郷（長野県駒ヶ根市）
17	52年3月	精神薄弱者施設の運営 天竜厚生会（静岡県浜松市）
18	52年6月	〝多目的小規模通所施設〟と重度者の〝住宅付生涯学級〟 大阪市、芦屋市
19	52年11月	この人たちの処遇 牧ノ原やまばと学園（静岡県榛原町）と御殿場十字の園（静岡県御殿場市）
20	53年6月	障害者雇用の諸問題 光瓔酪製作所（岡山県備前市）と赤穂精華園（兵庫県赤穂市）
21	54年3月	心身障害児の地域療育 奈良仔鹿園と明日香養護学校（奈良）
22	6月	高齢化する心身障害者の処遇 大阪府金剛コロニー

3 子どもの精神衛生講座

回	開講年月	日数	人数	主な講師
1	昭和43年10月	6	16	大西誠一郎（名大） 沢田秀一（愛教大） 石井高明（名大）
2	10月	6	72	亀山義郎（名大） 中条雅二（作詩家） 土方康夫（日福大） 久世妙子（日福大） 宍戸健夫（県大）
3	44年5月	4	20	西原新一（金城学院大） 福島佐松（市立保育経大） 泰恵美子（日福大）
4	10月	5	36	村上英治（名大） 窪田暁子（日福大） 知的障害・肢体不自由・重症児親の会各会長

4 療育問題研修講座

回	開催年	日数	主な講師
1	昭和52年6月	10	津田克也（県コロニー中央病院） 岡田喜篤（こばと学園長） 大野智也（日本短波放送） 他
2	9月	13	岡本栄一（大阪ボランティア協会事務局長） 高森敬久（県立大講師） 原 紀美子（県コロニー中央病院） 宮下俊彦（日福大教授） 他

5 療育問題公開講座

回	開催年	主な講師
1	昭和52年7月	シンポジウム「〝ことば〟を育てる」 石井高明（県コロニー中央病院） 長谷川茂（神奈川県小児療育相談センター） 森 宏（小学校教諭）
2	52年11月	シンポジウム「障害児の運動機能」 佐々木正美（横浜小児療育相談センター） 河井多喜子（鎌倉聖路加幼稚園） 若松繁伸（名古屋YMCA特別体育室）

6 お母さん教室

回	開催年	日数	延人数	主な講師
1	昭和52年10月	8	125	稲垣寿年（山田家政短大講師） 新海英行（名大助教授） 小嶋秀夫（名大助教授） 天野正子（南山短大講師） 他
2	53年9月	9	337	中山恵子（市婦人問題担当室長） 徳武登志子（家裁調停委員） 伊藤康子（日福大助教授） 天野郁夫（名大助教授） 他
3	54年6月	6	151	八重樫克羅（NHK中部製作本部長） 山中康裕（名市大講師） 山口幸男（日福大教授） 三高邦子（雑誌編集者） 他
4	55年4月	6	219	山下智恵子（作家） 二宮純子（弁護士） 神崎住恵（サン・ギャラリー主宰） 浅野美和子（女性史研究家） 高橋ますみ（主婦） 他
5	56年4月	3	―	吉野 要（県立大講師） 新田敏夫（南養護学校） 山田正敏（県立大教授）

7 婦人のためのボランティア講座

回	開講年月	日数	人数	主な講師
1	昭和56年10月	4	−	堀　要（日福大学監） 島﨑春樹（さわらび園長） 婦人ボランティア実践家　さわらび園保母
2	58年5月	4	−	堀　要（日福大学監）　水山進吾（市保育短大教授） 野村文枝（なごや婦人ボランティア協議会） 島﨑春樹（わらび福祉園長）　他
3	58年10月	5	−	堀　要（日福大学監）　水山進吾（市保育短大教授） 島﨑春樹（わらび福祉園長） 島﨑左世（さわらび園長）　他
4	60年5月	7	13	小野　宏（県コロニー中央病院医師） 水山進吾（市保育短大教授） 島﨑左世（さわらび園長）　他
5	61年10月	6	15	加藤奈々枝（名東福祉会常務理事） 島﨑左世（さわらび園長） 障害児の母親、ボランティアの先輩、施設見学　他
6	平成元年11月	5	19	馬庭京子（誕生日ありがとう京都友の会） 島﨑春樹（あさみどり会館長） 島﨑左世（さわらび園長）　他

8 心身障がい児のためのボランティア療育援助研修会

ボランティア育成のための本格的研修として、昭和43年7月から中日新聞社会事業団の共催を得て東別院青少年会館で開催されました。

回	開始年月	コース	日数	人数	講師　★施設における実務訓練
1	昭和43年7月	初級	7	29	山口幸男（日福大）　丸井文男（名大） 秦　安雄（日福大） 成瀬　昇（こばと学園）　高木　勲（県中央児相） ★あけぼの学園・長良荘
2	10月	初級	10	104	浦辺　史・田中美智子（日福大） 村上英治（名大） 見神俊彦（名古屋市）　秦　安雄（日福大） 伊藤正美（一宮児相） ★あけぼの学園・コロニーこばと学園
3	昭和44年5月	初級	10	91	石井鉄一（県コロニー養楽荘） 斉藤俊之助（三好学園長）　★県コロニー、三好学園
4	11月	初級	10	39	山口幸男（日福大）　村上英治（名大） 見神俊彦（名古屋市）　近藤信義（中央児相） 窪田暁子（日福大）　成瀬　昇（こばと学園） 伊藤方文・古橋金一（あさみどり） ★あけぼの学園・県コロニー
5	45年5月	中級	5	32	高井真理子（名市大）　見神俊彦（名古屋市） 島﨑春樹（東別院青少年会館） 秦恵美子（幼児療育研究所）　他　★県コロニー
6	10月	上級	20	39	浦辺　史・秦　安雄（日福大） 山家　拓・岡田喜篤（こばと学園） 西原新一（金城大）　★県コロニー、地域活動
7	46年5月	初級	15	40	岡田喜篤（県コロニー中央病院） 坂内辰弥（県コロニーこばと学園） 村上英治（名大）　他　★県コロニー、あけぼの学園
8	11月	中級	10	45	北野博一（県コロニー中央病院長） 加藤奈々枝（親の会）　高森敬久（県大）　他 ★県コロニー
9	47年5月	初級	15	27	浦辺　史（日福大）　津田克也（こばと学園）　他 ★県コロニー
10	47年10月	中級	15	22	吉田宏岳（同朋大）　祖父江昭仁（県コロニー）　他 ★県コロニー
11	48年6月	初級	15	35	堀　要（理事長）吉田宏岳　高森敬久（県立大）　他 ★県コロニー
12	10月	中級	12	30	鬼頭清右衛門（中央児相） 岡田喜篤・小野　宏（県コロニー） 村上英治（名大）高森敬久（県立大）他　★県コロニー
13	49年5月	初級	13	38	村地俊二・岡田喜篤（県コロニー） 清水　武（名古屋市）　高森敬久（県立大） 舟橋玉燿（恵泉館）　他、宿泊研修1回
14	10月	中級	12	24	村上英治（名大）　石井高明・岡田喜篤・夏目玲典・ 小野　宏（県コロニー） 窪田暁子（日福大）　堀　要　他、宿泊研修2回
15	50年5月	初級	9	−	浦辺　史（日福大）　村地俊二、中村幸男　他
16	10月	中級	10	−	大野智也（日本短波放送）長屋昌宏（県コロニー）他
17	51年10月	中級	10	−	篠田達明（こばと学園）鈴木國夫（くすのき学園）他

9 ボランティアスクール

昭和51(1976)年、講義中心の「心身障がい児のためのボランティア療育援助研修会」から、参加者の自主的企画運営方式による「ボランティアスクール」に切り替えました。参加者の中から自薦他薦で選ばれた10名程度の企画委員が、次回の講座全体のプログラム編成、講師依頼、PR、毎回の講座の設営などにあたります。会場は昭和52(1977)年秋まで、上前津のあさみどりの会連絡事務所、昭和53(1978)年春からあさみどり会館で開催してきました。令和2(2020)年以降は新型コロナ感染拡大の影響により、オンライン開催となっています。時の流れと共に、規模や形態の移り変わりはありますが、法人の事業活動の原点であるボランティア育成を目的とする事業として今後も取り組んでいきます。

回	年	季	日数	人数	主な講師　◎印企画委員長
1	昭和51年	春	7	12	伊藤方文（あさみどり） 高森敬久（県立大）　他　◎河村　茂
2	51年	秋	10	53	岡本栄一（大阪ボランティア協会） 加藤奈々枝（親の会）　成瀬勝洋（劇団うりんこ） 伊藤方文（あさみどり）　他　◎上田孝行
3	52年	春	10	41	村上英治（名大）堀　要（日福大）　山本太祥（安養寺住職） 島﨑春樹（さわらび園）　他　◎佐藤敏明
4	52年	秋	10	42	岡田喜篤（こばと学園）　江尻彰良（はちのす寮） 加藤奈々枝（親の会）　他　◎村松信明
5	53年	春	10	42	長谷川恒信（フィジカルフィットネスセンター） 山田昭義（重度障害者の生活をよくする会） 宮下俊彦（日福大）　他　◎村松信明
6	53年	秋	10	51	播磨靖夫（奈良たんぽぽの会）深山富男（愛学院大） 高島　進（日福大）　高濱　潔（若杉作業所）　他 ◎中西玲子
7	54年	春	11	52	浅倉恵一（中部女子短大）　丹下　進（むすび座） 布目　均（社会活動家）　亀井　鉱（在家仏教者）　他 ◎宮崎　晃
8	54年	秋	11	48	高木政市（あけぼの学園）　藤井勇・久江（会社員） 山中康裕（南山大） 映画「坂道をのぼる子ら」　他　◎岡田清隆
9	55年	春	11	63	小川利夫（名大）　黒宮正栄（カミキリムシの会） 柴田あかり（若葉学園）　江尻彰良（はちのす寮）　他 ◎米田厚子
10	昭和55年	秋	11	57	殿岡正敏（X線技師）　杉谷早苗（四日市土曜サロン） 宮本信繁（会社員）　後藤昭夫（くすの家酋長） 前田敏雄（愛教大）　他　◎森　貴司
11	56年	春	14	75	小野田全弘（静岡ボランティア協会） 小林苑子（障害児の母）　寺西伊久夫（南山寮） 松永展子（国際折り紙研究会）　他　◎近藤光雄
12	56年	秋	15	85	水野豊二（名古屋文化学園）　山口　透（県立大） 内村順子（ひまわりの会）　田中真固（中学校教諭）　他 ◎堀江博俊
13	57年	春	14	74	鬼剣舞（フォークグループ）　野村文枝（市ボランティア ビューロー協議会）　伊藤昭治（日本レクリエーション協会） 菅沢　豊（愛の実行連動）　◎滋野宗人
14	57年	秋	14	54	劇団うりんこ　近藤宏（小学校教諭）　フレッド吉和（英会 話講師）　秋山元秀（県立大）　他　◎植田一雄
15	58年	春	13	70	雨田陽三（中学校教諭）　広瀬　鎮（日本モンキーセンター） 近藤英雄（小学校教諭）　鈴木峯保（ゆたか希望の家）　他 ◎野田達也
16	58年	秋	13	78	中山佐知子（一宮女子短大）　増原彬陽（デザイナー） 夏目玲典（青い鳥学園） セパレートウェーズ（フォーク）　他　◎熊澤佳子
17	59年	春	13	75	黒木彬光（春日井こども村）増田喜昭（子どもの本専門店） 熊崎森数（リサイクラー）宮脇　修（名女大）他　◎三輪則子
18	59年	秋	13	57	小木美代子（日福大）奥田睦子（主婦）　島﨑左世（さわらび園） 足立幸治（タウン誌編集長）　他　◎村地裕子
19	60年	春	13	42	加藤隆正（小学校教諭）　田中寛次（むすび座） ボランティア先輩　他　◎中原忠徳
20	60年	秋	13	50	天野貞子（子ども文庫）　高橋弘恵（鬼剣舞） 松岡恵二（更生相談所）　植田一雄（わらび福祉園） 萩原喜之（リサイクル市民の会）　◎岩瀬明美
21	61年	春	13	50	柴田詩子（よくする会）　高橋ますみ（東海BOC） 三浦幸弘（みんなで創るキャンプの会） 渡辺　勉（夢喰人）　他　◎堀　智二
22	61年	秋	13	46	蔭山英順（名大）　山下千恵子（作家）　松本悌央（名古屋 文化学園）　篠田達明（こばと学園）　他　◎加納須美子
23	62年	春	13	42	三浦孝臣（北部教育センター）　山田隆光（誓願寺住職） 西沢信正（東海TVキャスター）　堤　治子（市婦人会館）他 ◎那須友佳理

24	昭和62年	秋	13	45	野村公樹（会社員）　佐藤豊子（主婦） 野口昭虎（ボランティアサークル連絡協議会） 豊田昌宏・吉田一夫（先輩）　他　◎堀木ひとみ
25	63年	春	13	54	山際耕兄（自由学院短大）　浅井貴代子（主婦） 手嶋修一（あかね荘）　長谷川準（有機八百屋）　他 ◎山本浩代
26	63年	秋	13	39	山田昭義（車いすセンター）　平野恒弘（あるすの会） 原口陽一（はんどぶっく「タビネコ」著者） 川合英治（工作学校）　◎東上里みゆき
27	平成元年	春	13	71	玉木　功（東山キリスト教会牧師）　槻木瑞生（同朋大） 小川真喜子（料理研究家） 佐藤宗夫（みどり子ども図書館）　他　◎田中　肇
28	元年	秋	13	46	鳥山伸子（海外協力隊ＯＧ）　井上文人（名古屋短大） 田代俊孝（同朋大）　若山五十鈴（わらび福祉園）　他 ◎神谷幸次
29	2年	春	11	59	増原彬陽（ニュートン学院）　柳沢寿男（映画監督） 藪野恵美（ジャズピアニスト） 服部　晃（ＧＯＥＮ農場）　他　◎井上　馨
30	2年	秋	12	34	村上英治（名大名誉教授）　鵜飼信孝（僧侶） 前田房子（手話サークル『あじさい』） 中西あけみ（愛知たいようの杜）　他　◎柴田真弓
31	3年	春	11	71	東方淑雄（市保育短大）　毛振　明（中京女子大） 堀内秀雄（名古屋短大）　鶴田かつ枝（障害児の母）　他 ◎河野由美
32	3年	秋	12	43	高間　睦（中日新聞）　追分伸夫（穂高悠生寮） 日比野京子（中央総合福祉専門校） あらくさの会（障害児を持つ父親の会）　◎平林勝次
33	4年	春	13	49	「むすめ座」、木村哲雄（岩西授産所） 藤井三弥子（名古屋東急ホテル） 水野豊二（水野こども研究所）　◎近藤雪代
34	4年	秋	10	64	石田晃子（あさひ文庫）　長谷川真人（県立大） 稲村正興（さわらび園） ジョン・ギャスライト（南山大留学生）　他　◎天埜芳樹
35	5年	春	13	101	内藤洋子（エッセイスト）　川本公子（中日新聞） 河合　勝（江南女子短大）　藤井三弥子（日本レク協会） 椿さん一家　他　◎岡村　浩
36	5年	秋	12	96	岡崎　勝（小学校教諭）　松山国臣（東山動物園） 大谷貴子（東海骨髄バンク）　内藤洋子（エッセイスト）、 むすめ座　他　◎和田忠浩
37	平成6年	春	12	70	小板孫次（恵那たんぽぽ作業所）　水谷　昭（県コロニー） 河西　光（盲導犬センター） ジュリア・カセム（ジャパンタイムス）　他　◎小島政美
38	6年	秋	13	71	村上英治（椙山女学園大）　足立秀夫（大須演芸場） 高村　豊（名古屋おもちゃ図書館代表） 鬼頭　隆・紀子（童話作家）　他　◎吉田和敬
39	7年	春	12	97	山際耕兄（中央総合福祉専門校） 嶌村善照（豊田市福祉事業団）　大久保晋作（ＮＨＫ） 加藤隆正（小学校教諭）　他　◎大沢由貴子
40	7年	秋	11	88	加藤孝正（同朋大）　北山達成（児童福祉センター） 堀尾　静（堀尾医院）　上家益一（日本漫画協会）　他 ◎南谷　学
41	8年	春	12	58	今道隆之（熊取療育園）　吉田一平（愛知たいようの杜） 内藤洋子（エッセイスト）　丹下　進（むすび座）　他 ◎佐土原将樹
42	8年	秋	12	68	坂本隆司（リハビリセンター） 水野豊二（名古屋文化学園） ジョン・ギャスライト（コラムニスト）　他　◎青木麻由美
43	9年	春	11	52	安藤順一（同朋大）　工藤　亮（ＩＮＡＸ） 三船　哲（メルヘンハウス）　熊田地余子（手話通訳者） 森　幸栄（カウンセラー）　他　◎大久保美保
44	9年	秋	12	32	長谷川真人（県立大）　温井明美（主婦） 笠井琉巳子（しんがーそんぐらいたー） 嶌村善照（豊田市福祉事業団）　他　◎和田忠浩
45	10年	春	12	31	サイン加藤（中京大）　伊藤方一（教育カウンセラー） 黒柳　諭（小学校長）　劇団なんじゃもんじゃ　他 ◎加藤世詩子
46	10年	秋	12	33	松山国臣（農業センター）　三輪　哲（メルヘンハウス） 祖父江文宏（子どもの虐待防止ネットワーク） 小林明子（中部学院大）　他　◎水野克俊
47	11年	春	12	33	高森敬久（金城大）　野沢和弘（毎日新聞） 笠原尚志（愛知ゴミ仲間ネットワーク） 松浦晴男（日本フロアバレー連盟）　他　◎今井隆文
48	11年	秋	12	20	三田優子（県コロニー）　高森敬久（金城大） 徳村　稔（日本レク協会） 吉田一平（愛知たいようの杜）　他　◎池尾良子
49	12年	春	10	46	熊田地余子（手話通訳者）　石田音人（胡弓演奏家） 鬼頭　隆（童話作家）　たけしまさよ（まんが家） 和田耕治（中部学院大）　他　◎幡掛なつみ
50	平成12年	秋	10	35	水野豊二（柳城短大）　三田優子（県コロニー） 前田房子（手話通訳者） 袖山卓哉（デイサービスセンター大久手）　他　◎水野克俊
51	13年	春	11	27	徳村　稔（日本レク協会）　後藤秀爾（愛知学泉大） 山口久美子（たいようの杜） 朱雀英八郎（県自然観察指導員）　他　◎山田雅子
52	13年	秋	12	38	鬼頭　隆（童話作家）　中西由利子（名古屋短大） 加藤孝正（同朋大）　兼田智彦（子どもの虐待防止ネットワーク）　劇団なんじゃもんじゃ　他　◎津乗美世子
53	14年	春	11	20	早瀬道治（日本レク協会）　山本千恵（中部大） 猪俣　寛（河川環境楽園自然発見館） 安藤明夫（中日新聞記者）　温井明美（主婦）　他　◎水野克俊
54	14年	秋	12	31	鬼頭　隆（童話作家）　村田尚生（愛知学院大） 中西由美子（園芸療法士）　加川直樹（精神科医） 五十嵐ベティ（イージーライター）　他　◎當山智恵子
55	15年	春	12	29	遠藤　学（愛知たいようの杜）　戸枝陽基（ＮＰＯ法人ふわり） 近藤京子（社会福祉法人なかまの家） ブライト・アイズ（名古屋聾学校卒業生） 近藤道弘（豊田養護学校）　山本純士（大府養護学校）　他 ◎水野克俊
56	15年	秋	12	36	徳村　稔（日本レクリエーション協会公認指導員） 土井香菜子（ボラみみ）　松下典子（ＮＰＯ法人地域福祉さぽーとちた）　三和啓二（愛知県臨床心理士会） 木全和巳（日本福祉大学助教授）　他　◎野並俊治
57	16年	春	6	29	こどもをめぐる豊かな環境づくり ～ボランティアの存在と役割を考える～ 寺井陽一（養護施設　中日青葉学園）　菱田　理（暁学園長・ＣＡＮＰＡＮ理事）　白上永（フリースクール「オアシス」代表） 山本純士（大府養護学校） 鬼頭　隆（童話作家）　他
58	16年	秋	6	26	障害者福祉の未来を語る ～ボランティア活動からの発信～ 江戸　徹（ぴあ名古屋）　青木邦子（地域生活センター親愛の里そよ風）　宮崎　潔（名古屋市障害者雇用支援センター） 安形健郎（知的障害者更生施設あかね荘）　他
59	平成17年	春	6	44	子どもたちが最高の日々を送るために ～ボランティアが出来ること～ 小出将則（豊田西病院　精神科医） 三輪　哲（メルヘンハウス代表） 伊藤玲子（レクリエーション・コーディネーター） 江口昇勇（愛知学院大学教授） 松山圀臣（東山動物園動物相談員・獣医師）　他
60	17年	秋	6	23	出合いから支え合いへ ～ムーブメントとしてのボランティア～ 栗田暢之（ＮＰＯ法人レスキューストックヤード代表理事） 大竹良平（野宿労働者の人権を守る会メンバー） 袖山卓也（有限会社笑う介護士　代表取締役） 島﨑春樹（べにしだの家）　他
61	18年	春	6	26	コミュニティが生まれる環境づくり ～私にもできるボランティア～ 秋吉拓央（劇団ちむどんどん代表）　野々山　郁（野々山歯科医院院長）　蟹江篤子（東海ラジオアナウンサー） 早川真理
62	18年	秋	6	30	子どもたちが最高の日々を送るために ～ボランティアが出来ること～ 水野豊二（水野こども研修所）　増田喜昭（メリーゴーランド店主）　田中弘美（障害を持つ子供の父母のネットワーク愛知）　酒井映子（名古屋女子大学教授） 神田英雄（桜花学園大学教授）　他
63	19年		8	14	出会いはいつも勇気から ～私にもできるボランティア～ 勝田　潔（わくわく創造アトリエ主任講師） 渡辺　勉（ワークショップなべや）　袖山卓也（有限会社笑う介護士　代表取締役）　山口真人（南山大学文 学部心理人間学科教授）　他　◎武藤麻奈未
64	20年		8	19	出会いはいつも勇気から ～私にもできるボランティア～ 手嶋雅史（同朋大学社会福祉学科講師） 平石　堅（同朋大学安全衛生関係講師） 福地龍介（ＪＡＭ-ＷＯＲＬＤ代表） 高野修滋（碧南高校教諭）　他　◎ 神谷広美

65	平成21年	8	27
			出会いはいつも勇気から ～踏み出そう、あらたな一歩～ 赤澤貴洋（名城病院内科医）江口昇勇（愛知学院大学教授） 小出隆司（愛知淑徳大学助教授） 松山圀臣（東山動物園動物相談員・獣医師）他 ◎山内喜之
66	22年	8	27
			出会いはいつも勇気から ～私にもできるボランティア～ 山本和昭（ＮＰＯ法人こどもの杜　理事長） 川口佑有子（まなびや＠ＫＵＢＡＮ　代表） 山口清之（虹のとびら　代表）他　◎森田隼平
67	23年	8	67
			きっかけはいつも出会いから 高橋弘恵（チャイルドラインあいち代表理事） 鷲津さとみ（豊田西病院相談審理室）田倉さやか（日本福祉大学助教授）後藤秀爾（愛知淑徳大学教授） 小山田奈央（人間関係トレーニングトレーナー）他
68	24年	8	24
			きっかけはいつも出会いから 柴田朋子（音楽療法士）伊藤健（車いすシェフ） 金井牧仁（児童養護施設溢愛館） 諏方智広（横浜きょうだいの会代表） 渡邊冬樹（あらくさ作業室保護者）他　◎米田絵理
69	25年	8	27
			きっかけはいつも出会いから 小山田奈央（人間関係トレーニングトレーナー） 小山加代（福祉理美容師）今村光章（岐阜大学准教授） 三上みき（マザーハウスｉｎｇ代表）他
70	26年	5	65
			見て、知って、感じながら　新たな自分に出会おう 伊藤玲子（レクリエーションコーディネーター） 荻野ます美（ＮＰＯ法人ゆう副理事長） 仲畑芳紀・米田絵理（さわらび園職員） 永山順二（永伸重量代表）　◎谷　槙恵
71	27年	5	68
			私はかけ橋　あなたとつながり　広がる出会い 後藤秀爾（あさみどりの会理事長） 高橋弘恵（チャイルドラインあいち代表理事） 田上栄一（愛知たいようの杜グループゴジカラ村役場） 古屋道子・後藤優花（日本介助犬協会）他　◎小林栞菜
72	平成28年	5	85
			ぱ・ず・る　～出会いのピースをつないでいこう～ 島﨑春樹（あさみどりの会顧問） 能見明里（社会人ボランティア） 安間優希（ＮＰＯ法人ＰＲＯＵＤ　ＬＩＦＥ代表理事） 松永鎌矢（ＮＰＯ法人レスキューストックヤード事務局次長） Ｈｉｉ－Ｄ（シンガーソングライター）他　◎鈴木悠子
73	29年	5	83
			人生　＃この出会いが奇跡だ 長谷川雄一（一村総合法律事務所）髙松信友（無脳業ミュージシャン） 貝谷京子（元あさみどりの会事務局職員） 荒井和樹（ＮＰＯ法人全国子ども福祉センター理事長）◎本多李菜
74	30年	5	96
			未来へ　～つながれ この出会い～ 奥田太郎（南山大学 教授）佐藤啓介（南山大学 准教授） 目黒達哉（同朋大学 教授） 岩花紅実（一般社団法人もったいないボランティアプロジェクト代表理事） 安江昌人（ＮＰＯ法人ポパイ） 川名洋行（ＡＲＴ ＳＰＩＥＬ代表） ポパイ座銀河団　◎原田菜生
75	令和元年	5	38
			@新しい自分　～Meeting surprises your life～ 「出会いは人生のサプライズ」 小林栞菜 伊藤沙也加 伊東宏崇（社会人ボランティア） 鎰廣みどり（ストーリーテラー）谷口功（椙山女学園大学 教授） 六鹿香（口と足で描く芸術家協会）　◎川村浩市
76	2年	1	31
			ボラスクチャンネル🔍♪うちでつながろう～♪ 牧野友香子（株式会社デフサポ　代表取締役）◎吉岡将吾
77	3年	3	88
			つむぎ愛　～伝えてみよう私の思い　繋げようみんなの思い～ 林ともみ（福祉番組「ともみとともに」パーソナリティ） 森山花鈴（南山大学社会倫理研究所 准教授） 野川祐史（名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンター副所長） 種田勝利（らいぶゆうマスター）　◎船田杏里
78	4年	5	107
			ピース　～心を豊かにする、ボランティアという宝探し～ 浅野環（災害ボランティア千種ネットワーク） 鈴村ユカリ（東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや） 徳山隆秀（新潟県上越市 西念寺住職） 奥田太郎（南山大学社会倫理研究所 教授） 檀浦聖徳（ＮＰＯ法人 ｇｒｅｅｎｂｉｒｄ 名古屋チーム） 伊東宏崇（社会人ボランティア）　◎増野芽愛

※◎企画委員長名無記載のものは委員長をおかず実施

10 ボランティア集会

あさみどりの会に関係するボランティア・サークルの交流と研修を目的として「べにしだの家」を会場に、毎年1回開催されました。平成14年度は、「脈々40年、あさみどりのボランティア」のテーマで、ボランティア同窓会を実施しました。

回	開催年月日	人数	内容
1	平成8年 9月28・29日	91	活動報告「私にとってのボランティアとは」 情報交換：学生分科会「学生ボランティアとしていかに連携・継続して活動を進めていくか」主婦分科会「ボランティアを無理なく続けるには」社会人分科会「自分のライフスタイルに活動をどう取り入れていくか」
2	9年 4月26・27日	90	〈講演〉「人生の中身を豊かにする方法の一つとしてボランティアを考える」島﨑春樹（理事長） 分科会：①ボランティアって、なに　②何となくボランティア　③ボランティアをやってみて　④サークル活動を通して
3	10年 10月3・4日	77	〈講演〉「障害者をめぐる人々」大野智也（日本障害者協議会） 分科会：①子どもの幸せを願う親のおもい・ボランティアのおもい　②職員のポジション・ボランティアのポジション　③ボランティアは何のため、誰のため　④ボランティアサークルのリーダーシップ
4	11年 10月2・3日	92	〈講演〉「子どもの目が輝くとき」名和秀雄（名和昆虫博物館長） 分科会：①子どもの幸せを願う親の思い、ボランティアのおもい　②ボランティアとして　―関わりのあり方―　③みんなでレクリエーション　④ボランティアサークルへ、集まれ！ ―サークル運営―
5	13年 1月20・21日	63	映画「そっちやない　こっちや」～コミュニティケアへの道～ グループディスカッション、ビデオ『坂道をのぼる子ら』 お話「幼児通園からみる大人への展望」 さわらび園長　島﨑左世
6	13年 6月23・24日	48	〈講演〉「ボランティア活動の将来を探る」木村　央（日本青年奉仕協会） 小グループによる話し合い、障害体験（車いす・アイマスク） ボランティア同窓会　昭和43年の第1回のボランティア療育援助研修会に参加した人から、最近活動をはじめた人まで、親子以上の歳の差を超えた交流が、夜遅くまで続けられた。
7	14年 5月25日	120	

11 ボランティアフェスティバル

ボランティア集会に、お祭り的な要素を盛り込んだ交流と研修の一日プログラムとして「べにしだの家」を会場に、毎年1回開催されました。

回	開催年月日	内容
1	平成16年11月27日	「人間ってすばらしい、間違いない！」実行委員長　深津敦子 オープニングトーク：志村清一（中日新聞社編集局次長） 織田元樹（名古屋ボランティアＮＰＯセンター所長） 島﨑春樹（社会福祉法人あさみどりの会理事長） 分科会講師 ・森　紀行（ソルトレイクパラリンピック日本代表） ・伊藤玲子（レクリエーションコーディネーター） ・グラバア俊子（南山大学人文学部教授）
2	17年11月19日	〈講演〉 「ジョンさんの『遊びの達人』 ～自然大好き！人間大好き！」 ジョン　ギャスライト（タレント・作家） 「こんな出会いもいーじゃない ～となりにいる人、どんな人～　実行委員長　内山明信 オープニングイベント：平和世創人ちむどんどん「エイサー」 分科会講師 ・栂井朱美（主婦・保護者） ・伊藤玲子（レクリエーションコーディネーター） ・鬼頭瑞希（シンガーソングライター・ピアニスト） ・鬼頭　隆（童話作家） 〈講演〉「心のバリアフリー」 廣中邦充（西居院　住職）
3	18年12月2日	「出会いはいつもサプライズ☆ ～みつけよう人生のたからもの」実行委員長　本田佳歩 オープニング対談：「夢を叶えるために　～野球との出会いから、そして今」 今中慎二（元中日ドラゴンズ投手） 植田一雄（れいんぼうワークス所長） 分科会講師 ・林かぐみ（アジア保健研究所（ＡＨＩ）事務局） ・三輪　哲（絵本専門店メルヘンハウス代表） ・安江一家（車椅子バスケットボールチームＫＩＮＧＳ代表）

4	平成19年12月1日	「心・踊・遊ぶ～つながる人と人、出会いは一生の宝物～」 実行委員長　稲吉あゆみ オープニングトーク：「伝えたい…夢の力♪」 福地龍介（JAM－WORLD代表） 分科会講師 ・勝田　潔（（株）遊ぼ　わくわく創造アトリエ主任講師） ・グラバア俊子（南山大学人文学部教授） ・木下ゆーき（大道芸人）
5	20年11月29日	「わ！出会いの輪　なごみの和　はなしの話」 実行委員長　安江由衣 オープニングトーク：「病院に道化師あらわる」 ～空気が変わり、笑顔が広がる瞬間を体感しましょう～ 大棟耕介（NPO法人日本ホスピタル・クラウン協会理事長） 分科会講師 ・加藤隆正（フォークシンガー・元小学校教諭） ・黒田真由（北京オリンピック体操女子　日本代表） ・石原征樹（プロダンサー）
6	21年11月28日	「心　～観て、聴いて、感じて～」 実行委員長　中瀬雄太 オープニングトーク： 「一期一会を詩にのせ～うたうスーパーDr. 参上！」 赤澤貴洋（名城病院医師） 分科会講師 ・丹羽丈司（同朋大学教授／福祉レク・ワーカー） ・栗林文雄（名古屋音楽大学教授／日本音楽療法学会常任理事） ・三輪　哲（絵本専門店メルヘンハウス代表）
7	23年11月26日	「いのち　絆　支えあい」～そこから生まれる大切なもの～ 実行委員長　半田　仁 オープニングトーク：「生きてるってシアワセ！」 大谷貴子（全国骨髄バンク推進連絡協議会　前会長） 分科会講師 ・中谷雄二（名古屋共同法律事務所　弁護士） ・吉村誠司（ヒューマンシールド神戸　代表） ・小山田政義（一般社団法人日本あいさつ検定協会　代表理事）
8	24年12月1日	「～夢のトビラ～」 実行委員長　山中君洋 オープニングトーク：「ドラえもんに学ぶ人生の歩き方」 横山泰行（富山大学名誉教授） 分科会講師 ・林正道（海洋楽研究所所長） ・山口清之（NPO 法人虹のとびら代表理事） ・今村光章（岐阜大学准教授）
9	平成25年11月30日	「テーマ：設定なし」 実行委員長　後藤博子 オープニングライブ：「きむやんのギター放浪人生」 木村正明（手話ロックバンド BRIGHT EYES super-duper ギタリスト） 分科会講師 ・増田喜昭（子どもの本屋〝メリーゴーランド〟店主） ・北泰幸（津ぎょうざ協会会長） ・伊藤静生（ひぐらしハーモニカ教室主宰）
10	26年11月29日	「いろんな人との出会いを通して…あなたのやりたいことみつけてみませんか」 実行委員長　谷　槙恵 オープニングステージ：車いすダンス名古屋 プログラム①「音のない3・11～ファインダーを通して届けたい心のメッセージ～」　今村彩子（映画監督） プログラム②　交流会

12 心身障がい児の母親研修会

母親自身が障がいに対する正しい認識を深め、親としてのあり方を学ぶものです。年間を通じて原則月1回開催され、さわらび園の母親だけでなく、県内外の通園施設の母親も参加しています。

回	開催年	日数	延人数	主な講師
1	昭和52年	11	582	岡田喜篤（コロニーこばと学園長） 川崎　昂（ひかり学園長）　杉本一義（龍谷大教授） 桑原　博（市特殊教育研究協議会会長）　他
2	53年	20	961	堀　要（名大名誉教授）　村上英治（名大教授） 宮脇　修（岐阜教育センター） 山中義博（春日台養護）　浅井順子（柏井保育園）　他
3	54年	12	614	吉田　正（名古屋YMCA）　岩田恒子（コロニー中央病院） 松井増継（市教育館）　渡辺良禅（児童福祉センター） 島﨑春樹（さわらび園長）　他
4	55年	10	480	堀　要（日福大学監）　宮下俊彦（日福大教授） 石井高明（コロニー中央病院） 夏目玲典（青い鳥学園長）　松友了（日本てんかん協会常務）
5	56年	10	550	堀　要（日福大学監）　板倉　秀（県総合保健センター部長） 島﨑左世（さわらび園副園長）　障害児の母親　他
6	57年	10	523	堀　要（日福大学監）　小野　宏（コロニー中央病院部長） 松下　淑（愛教大教授）　福留ヒデ（手をつなぐ親の会）　他
7	昭和58年	10	421	堀　要（日福大学監）　松下　淑（愛教大教授） 新田敏夫（西養護校長）　障害児の母親　他
8	59年	10	394	小寺重孝（日本モンキーセンター動物園長） 大野智也（身体障害者雇用促進協会広報室長） 浅井順子（柏井保育園長）　しかたしん（作家）　他
9	60年	10	423	増田喜昭（子供の本専門店）　祖父江文宏（暁学園長） 西沢信正（東海TVキャスター） 牛田カズ仔（黒石みどり幼稚園長）　他
10	61年	10	399	高村　豊（春日台養護）　小野　宏（コロニー中央病院部長） 石井高明（石井クリニック院長） 加藤孝正（コロニー発達障害研究所部長）　他
11	62年	10	506	矢部京之助（名大教授）　村上英治（名大教授） 加藤奈々枝（メイトウワークス所長） 織田　清（愛知県教育センター）　他
12	63年	10	453	村上英治（名大教授）　杉山登志郎（県コロニー医師） 山中　昂（県コロニー医師） 三輪　哲（子供の本メルヘンハウス）　他
13	平成元年	10	382	渡辺勧持（県コロニー発達障害研究所）　しかたしん（作家） 水野豊二（名古屋文化学園）　森　孝子（劇団 市民座）　他
14	2年	10	420	西村辨作（県コロニー発達障害研究所）　山中忠茂（〃） 井上文人（名古屋短大助教授） 松本悌央（多治見市太平児童センター）　他
15	3年	10	435	杉山登志郎（名大病院）　石井鉄一（春日台授産所長） 松山国臣（東山動物園） 松本悌央（多治見市太平児童センター）　他
16	4年	10	423	後藤秀爾（愛知学泉女子短大教授） 高橋　脩（県コロニー医師） 尾関秀男（東山植物園）　他
17	5年	10	448	村上英治（名大名誉教授）　加藤孝正（同朋大教授） 金山　学（児童福祉センター） 小野　宏（県コロニー医師） 渡辺勧持（コロニー発達障害研究所）　他
18	6年	10	550	村上英治（名大名誉教授） 杉山登志郎（名大病院医師）　金山　学（児童福祉センター） 西村辨作（県コロニー発達障害研究所）他
19	7年	10	538	後藤秀爾（愛知学泉女子短大教授）　松下良紀（岩崎学園長） 小西田利子（名古屋短大教授）　伊藤方一（元ならわ学園長）　他
20	平成8年	10	500	杉山登志郎（静岡大教授）　斉藤久子（名市大病院医師） 小林洋子（元NHKアナウンサー） グラバア俊子（南山短大教授）　他
21	9年	10	471	石井高明（石井クリニック院長） 宮田広善（姫路市総合通園センター） 丹下　進（人形劇）　本田弘味（県コロニー看護婦） 島﨑春樹（法人理事長）　他
22	10年	10	476	杉山登志郎（静岡大教授）　森　省二（精神科医・作家） 西村辨作（県コロニー発達障害研究所） 浅野恵美子（愛知みずほ短大助教授）　他
23	11年	10	484	小野　宏（こばと学園長）　森　省二（精神科医） 鈴木峯保（ゆたか福祉会） 高橋　脩（豊田こども発達センター） 青木利和（名古屋市教育センター）　他
24	12年	10	413	杉山登志郎（静岡大教授）　後藤秀爾（愛知学泉大教授） 小西由利子（名古屋短大） 野々山　郁（歯科医院長）　森　省二（精神科医） 三好宣雄（中学校長）　他
25	13年	10	407	後藤秀爾（愛知学泉大教授） 松下　淑（皇學館大教授）　吉岡成子（大阪知的障害者育成会） 石川通子（市地域療育センター所長）　他
26	14年	10	395	松下　淑（皇學館大教授）　石井高明（精神科医） 西村辨作（県コロニー発達障害研究所） 森　省二（精神科医）　野沢恭子（無門学園長）　他
27	15年	10	381	宮崎　潔（名古屋市障害者雇用支援センター） 杉山登志郎（あいち小児保健医療総合センター診療科部長） 西村辨作（愛知淑徳大学教授）　他
28	16年	9	283	田中善美（いぶき保育園長） 近藤道弘（豊田市立豊田高等養護学校教諭） 松山圀臣（東山動物園飼育研究主幹） 宮地泰士（名古屋市児童福祉センター医務係長）　他
29	17年	10	298	石井高明（石井クリニック院長） 後藤秀爾（愛知淑徳大学教授） 大谷貴子（骨髄バンク推進連絡協議会副会長） 森　省二（精神科医）　他
30	18年	10	248	後藤秀爾（愛知淑徳大学教授） 西村辨作（愛知淑徳大学教授） 石井麻子（福井大学助教授） 兼田智彦（子どもの虐待防止ネットワークあいち）　他

回	開催年	日数	人数	主な講師
31	平成19年	10	271	野沢和弘（全日本育成会権利擁護委員会委員長） 石井高明（石井クリニック院長） 後藤秀爾（愛知淑徳大学教授）
32	20年	9	266	酒井映子（名古屋女子大学教授）他 藤本泰孝（名古屋市教育センター特別支援教育研究室長） 涌井規子（菜の花保育園長） グラバア俊子（南山大学教授）他
33	21年	10	275	松下　淑（愛知新城大谷大学） 石井高明（石井クリニック院長）小野宏（精神科医） グラバア俊子（南山大学教授） 蔭山英順（名古屋大学名誉教授）他
34	22年	10	240	鈴木方子（名古屋女子大学講師） 若子里恵（県コロニー児童精神科医） 後藤秀爾（愛知淑徳大学教授） 蔭山英順（名古屋大学名誉教授）他
35	23年	10	231	河村雄一（ファミリーメンタルクリニック院長） 田中善美（いぶき保育園長）石井麻子（福井大学教授） 渡辺顕一郎（日本福祉大学教授）他
36	24年	9	227	徳村　稔（公認レクリエーション・コーディネーター） 野々山　郁（野々山歯科医院院長） 小山田奈央（人間関係トレーニングトレーナー）他
37	25年	9	243	後藤秀爾（愛知淑徳大学心理学部教授） 杉山郁子（グループファシリテーターの会Seeds代表） 大高一則（大高クリニック院長）
38	26年	9	229	宮崎　潔（就労移行支援事業所「マーム」事業本部長）他 河村雄一（ファミリーメンタルクリニック院長） 幸　順子（名古屋女子大学短期大学部保育学科講師）
39	27年	10	272	小川真紀（名古屋市発達障害者支援センター「りんくす名古屋」）他 石井　卓（石井クリニック院長） グラバア俊子（南山大学心理人間学科教授） 佐藤　賢（愛知淑徳大学教育学科准教授）他
40	28年	10	163	河村雄一（ファミリーメンタルクリニック院長） 岩井茂（名古屋市特別支援教育研究協議会会長） 山田尋美（愛知県自閉症協会・つぼみの会ペアレントメンター）他
41	29年	10	259	田中善美（いぶき保育園園長） 島崎佳子（希望が丘保育園園長） 植田敦子（新池保育園園長） 池田満（南山大学講師） 岡部直樹（守山養護学校特別支援教育コーディネーター）他
42	平成30年	10	289	小川真紀（名古屋市発達障害者支援センター「りんくす名古屋」） 鎌田博幸（田原授産所施設長） 小島一郎（名東区障害者基幹相談支援センターセンター長）
43	令和元年	10	234	伊藤玲子（レクリエーション・コーディネーター） 堀井千代子（かわさき保育園園長） 高村葉子（豊田市青少年相談センター「パルクとよた」特別支援教育アドバイザー） 岡田勢津子（名古屋市知的障害者更生相談所「サンハート」心理判定員）
44	4年	6	116	※令和2年度、令和3年度は新型コロナ感染防止のため中止 桐生光恵　盛山亜耶（さわらび園卒園児母） 小川真紀（名古屋市発達障害者支援センター「りんくす名古屋」）他

13 カウンセリングセミナー

このセミナーは、平成6年まで毎年春・秋2講座開催してきました。エンカウンターグループによる学習を中心に、講義や体験学習も取り入れ、いろいろな角度から参加者一人一人に自己啓発を促す研修として開催されました。

回	開催年	日数	人数	主な講師
1	昭和54年	12	39	田畑　治（名大助教授）深山富男（愛学院大教授） 河野博太郎（労務コンサルタント） 毛利孝一（開業医）畠瀬　稔（京都女子大教授）
2		12	30	堀　要（日福大教授）石原文里（カウンセラー） しかたしん（作家）
3	55年	6	37	田畑　治（名大助教授）岡本幹翁（合掌苑長） 堀　要（日福大学監）赤座憲久（大垣女子短大教授）
4		6	33	杉本一義（龍谷大教授）石原文里（カウンセラー） しかたしん（作家）
5	56年	6	41	田畑　治（名大助教授）岡本幹翁（合掌苑長） 堀　要（日福大学監）赤座憲久（大垣女子短大教授）
6		6	34	杉本一義（龍谷大教授）石原文里（カウンセラー） しかたしん（作家）
7	57年	8	26	田畑　治（名大助教授）小野　宏（県コロニー中央病院医師）
8		8	31	石原文里（カウンセラー）島崎左世（さわらび園長）
9	58年	5	33	田畑　治（名大助教授）小野　宏（県コロニー中央病院医師）
10		6	41	石原文里（カウンセラー）島崎左世（さわらび園長）

回	開催年月	日数	人数	主な講師
1	平成7年9月	4回と1泊2日のワークショップ	62人	斉藤久子（名市大病院小児科医）島崎左世（カウンセラー）
2	8年	6	61	杉山登志郎（静岡大教授）島崎左世（カウンセラー）
3	9年	6	56	石井　卓（名大病院医師） 小野　宏（県コロニー中央病院臨床第4部長）
4		6	54	島崎左世（さわらび園長）
5	10年	6	45	後藤秀爾（愛知学泉大教授） 石川道子（市地域療育センター所長）
6		6	39	山田　優（知多地域障害者生活支援センター所長） 伊藤方一（教育カウンセラー） 島崎春樹（べにしだの家所長）島崎左世（さわらび園長）
7	11年	6	56	小西由利子（名短大教授） 石川道子（市地域療育センター所長） 西村辨作（県コロニー発達障害研究所）
8		6	28	金山　学（市児童福祉センター療育室長） 島崎左世（さわらび園長）
9	12年	6	47	小西由利子（名短大教授） 西村辨作（県コロニー発達障害研究所）
10		6	44	若子理恵（県コロニー中央病院精神科医長） 伊藤方一（教育カウンセラー）涌井規子（菜の花保育園長）他
11	13年	6	31	若子理恵（県コロニー中央病院精神科医長） 水野豊二（柳城女子短大講師）島崎左世（さわらび園長）
12	14年	6	32	小野　宏（豊田西病院） 吉岡恒生（愛知教育大障害児治療教育センター助教授）
13		6	4	島田修三（愛知淑徳大教授）高濱　潔（わらび福祉園長） 若林慎一郎（金城学院大学教授）
14	15年	6	63	後藤秀爾（愛知学泉大学教授）島崎左世（さわらび園長） 吉田とき江（べにしだの家副所長）
15		6	17	西村辨作（愛知淑徳大学教授） 石井　要（名古屋市児童福祉センター療育室主幹）他
16	16年	6	41	森　省二（豊田西病院） 今枝正行（名古屋市北部地域療育センター長）
17		6	18	高橋直紹（弁護士）

14 障がい児療育セミナー

回	開催年	日数	人数	主な講師
11	昭和59年	6	45	田畑　治（名大助教授） 小野　宏（県コロニー中央病院指導相談部長）
12		6	42	石原文里（カウンセラー）島崎左世（さわらび園長）
13	60年	6	34	田畑　治（名大助教授） 小野　宏（県コロニー中央病院指導相談部長）
14		6	41	石原文里（カウンセラー）島崎左世（さわらび園長）
15	61年	6	39	田畑　治（名大助教授） 小野　宏（県コロニー中央病院指導相談部長）
16		6	27	石原文里（カウンセラー）島崎左世（さわらび園長）
17	62年	6	29	田畑　治（名大教授） 小野　宏（県コロニー中央病院指導相談部長）
18		6	25	石原文里（カウンセラー）島崎左世（さわらび園長）
19	63年	6	33	田畑　治（名大教授） 小野　宏（県コロニー中央病院指導相談部長）
20		6	27	石原文里（カウンセラー）島崎左世（さわらび園長）
21	平成元年	6	29	小野　宏（県コロニー中央病院指導相談部長） 杉本一義（宇治福祉園理事長）
22		6	25	坪内辰也（岡崎女子短大助教授） 石原文里（カウンセラー）島崎左世（さわらび園長）
23	2年	6	29	津村俊充（南山短大教授）石原文里（カウンセラー）
24		6	23	島崎左世（さわらび園長）
25	3年	5	28	石原文里（カウンセラー）島崎左世（さわらび園長）
26		5	29	
27	4年	6	24	津村俊充（南山短大教授）グラバア俊子（南山短大助教授）
28		6	27	島崎左世（さわらび園長）
29	5年	6	20	寺西佐稚代（南山短大講師）グラバア俊子（南山短大助教授）
30		6	23	島崎左世（さわらび園長）
31	6年	6	25	後藤秀爾（愛知学泉女子短大教授） 杉山登志郎（名大病院医師）
32		6	21	石井鉄一（元春日台授産所長）島崎左世（カウンセラー）

回	開催年	日数	人数	講師
18	平成17年	4	39	高橋晋哉（名古屋市児童福祉センター） 西村辨作（愛知淑徳大学教授） 若子里恵（県コロニー児童精神科医） 後藤秀爾（愛知淑徳大学教授） 島﨑春樹（社会福祉法人あさみどりの会理事長）　他
19		4	34	
20	18年	4	28	野邑健二（名古屋大学付属病院児童精神科医） 宮崎　潔（名古屋市障害者雇用支援センター所長） 江口昇勇（愛知学院大学心身科学部教授） 石井　要（名古屋市児童福祉センター療育室長）　他
21		4	14	

15 障がい児・者発達支援セミナー

回	開催年	日数	人数	講師
1	平成19年	障害児2	17	西村辨作（愛知淑徳大学教授） 浅井朋子（名古屋市児童福祉センター所長）
		障害者2	40	宮崎　潔（名古屋市障害者雇用支援センター所長） 山田　優（西駒郷地域生活支援センター所長）
2	20年	障害児4	12	宮地泰士（浜松医大小児科医） 島﨑春樹（社会福祉法人あさみどりの会理事長） さわらび園の園児と職員（宿泊療育体験）
		障害者2	36	川上雅也（株式会社ジョブウェル代表取締役） 宮崎　潔（名古屋市障害者雇用支援センター所長） 伊藤町夫（郵便事業株式会社千種支店総務課チャレンジド・シニアコーチ）
3	21年	障害児4	11	若子里恵（豊田市子ども発達センター児童精神科医） 山本智恵（さわらび園指導主任） さわらび園の園児と職員（宿泊療育体験）
		障害者2	24	谷口明広（愛知淑徳大学医療福祉学部教授） 川上雅也（尾張東部圏域相談アドバイザー） 阪田征彦（西三河圏域相談支援アドバイザー） 久野寿枝（中村区障害者地域生活支援センター相談員）
4	22年	障害児2	29	後藤秀爾（愛知淑徳大学教授） 神谷真巳（豊田市子ども発達センター臨床心理士）
		障害者2	27	小野　宏（豊田西病院・精神科医）
5	平成23年	障害児2	27	河村雄一（ファミリーメンタルクリニック院長） 神谷真巳（豊田市こども発達センター臨床心理士） 島﨑佳子（希望ヶ丘保育園主任）
		障害者2	54	鵜飼哲矢（九州大学学術工学部准教授） 夏目浩次（社会福祉法人ら・ぱるか代表理事） 宮崎　潔（名古屋障害者雇用支援センター所長）
6	24年	障害児2	27	辻井正次（中京大学現代社会学部教授）
		障害者2	45	野澤和弘（毎日新聞論説委員） 手嶋雅史（椙山女学園大学人間関係学部准教授）
7	25年	障害児2	47	後藤秀爾（愛知淑徳大学心理学部教授）
		障害者2	41	阪井ひとみ（おかやま入居支援センター理事） 中野敦夫（入居者） 小島一郎（名東区障害者地域生活支援センター長） 追分伸夫（べにしだの家所長）

16 ワークショップ

回	開催年	人数	講師
1	平成26年	19	後藤秀爾（愛知淑徳大学心理学部教授）
2	27年	11	津村俊充（日本体験学習研究所代表理事）

17 父親の会（研修会）

父親が研修会や施設見学などを通じて我が子の将来について学び、交流する機会を重ねていく中で、家族ぐるみで支え合う人間関係、環境が醸成されていきます。この研修会は、平成9年度より平成18年度まで「父親フォーラム」、平成19年度以降はさらに広く家族や法人関係者が共に学び、互助・共助関係を確認する場として「フォーラム・あさみどり」に名称を変更し、現在に至っています。

回	開催年月	人数	内容
1	昭和60年2月	63	父親の会発足にあたって
2	61年3月	57	研修と親睦会
3	7月	42	〈講演〉「子どもの将来と父親のあり方」村上英治
4	62年4月	33	施設見学「わらび福祉園」
5	10月	31	〈講演〉「子ども、父親、家族」村上英治

回	開催年月	人数	内容
6	昭和63年4月	40	〈講演〉「あさみどりと父親の会」島﨑春樹
7	10月	35	施設見学「名東ワークス」「あけぼの学園」「希望荘」
8	平成元年6月	48	〈講演〉「10年後の親子の生活をイメージする」島﨑春樹
9	2年4月	53	父親・ボランティア・職員でソフトボールと親睦会
10	3年4月	50	スウェーデンの福祉情勢報告を聞く （スウェーデンを視察した職員より）

18 父親フォーラム

回	開催年月	人数	内容
1	平成9年4月20日 東山会館	138	〈講演〉「援助的な風土を育てるために」島﨑春樹 分科会：①グループホーム　②父親のグループ活動 ③父親の会と地域のかかわり ④家庭の中での父親の役割　⑤就労
2	10年4月26日 東山会館	106	パネルディスカッション「知的障害者の生活支援の現状と課題」 渡辺勧持、河野和代、野沢和弘、高濱潔 分科会：①自立を支援する家族のあり方 ②地域で生活するということ ③働く場所や環境を考える ④今後求められる父親の会の役割と可能性 ⑤支援者の育成とネットワークづくり
3	11年4月25日 邦和セミナープラザ	103	〈講演〉「社会福祉制度改革の行方」 鈴木清覚（全国社会就労センター協議会副会長） バズセッション・全体会
4	12年4月22日 ラフィネ東山	116	〈講演〉「生活支援の現場から」 山田　優（知多地域障害者生活支援センター長） 「スウェーデンに触れてみる」 菱田昌道（かわせみの会） 〈鼎談〉「この子らの未来を拓く」 山田　優、菱田昌道、島田修三（あらくさ）
5	13年4月21日 ラフィネ東山	106	映画上映「こどものそら」（監督：小林茂） 〈鼎談〉「こどもの未来を語る」 小林　茂（映画監督）、吉田　隆（あしたばの会）、島﨑春樹
6	14年5月18日 愛知厚生年金会館	117	〈講演〉「地域支援のあるべき姿」 大塚　晃（厚生労働省障害福祉専門官） 全体会：大塚　晃 八谷重之（日本知的障害者福祉協会地域支援部会長） 父親の会代表、コーディネーター　島﨑春樹
7	平成15年4月26日 愛知厚生年金会館	86	〈講演〉学齢期支援の新しい考え方 加瀬　進（東京学芸大学助教授） 〈鼎談〉こどもからおとなへ 加瀬　進、平沼貞義（豊田高等養護学校）、島﨑春樹
8	16年4月18日 愛知厚生年金会館	97	〈講演〉地域生活支援あの手この手 根来正博（全国地域支援ネットワーク代表） 〈鼎談〉地域生活支援の展望 根来正博、横倉裕子（NPO法人かわせみ理事） 髙濱　潔（日本福祉協会地域支援部会委員）
9	17年4月24日 愛知厚生年金会館	110	〈講演〉今、さらにこの子らの将来を考える 野沢和弘（全日本育成会理事・毎日新聞記者） 〈鼎談〉障害児（者）福祉の未来 野沢和弘、小板孫次（日本知的障害者福祉協会会長） 島﨑春樹
10	18年5月13日 愛知厚生年金会館	105	〈講演〉障害者自立支援法によって何がどう変わるの 安形健郎（あかね荘施設長） 〈対談〉これからの時代、問われる父親の役割 副島宏克（全日本手をつなぐ育成会副理事長） 吉田とき江（べにしだの家施設長）

19 フォーラム・あさみどり

回	開催年月	人数	内容
1	平成19年5月20日 愛知厚生年金会館	105	「障害者福祉のゆくえを考える」 〜スウェーデン・アメリカの脱施設化のその後の動きと 日本の障害者福祉の動向から今後の方向を探る〜 〈講演〉渡辺勧持（東日本国際大学教授）
2	20年5月25日 愛知厚生年金会館	94	「どうなる？障害者の〝くらし〟は」 〈講演〉星野泰啓（全国社会就労センター協議会会長）
3	21年6月28日 中日パレス	108	「地域で福祉を拓く」〜親がやらなきゃ　誰がやる〜 〈シンポジスト〉浅井晴美（社会福祉法人海部連福祉会理事） 戸田三保子（NPO法人スローライフ代表） 福田晋介（社会福祉法人ウエルビーイングつがる理事長） 〈コーディネーター〉島田修三（父親の会　あらくさ代表）

4	平成22年5月22日 中日パレス	142	遺言の会Ⅰ「豊かさの罪」 ～人間が人間らしく生きるということ～ 〈講演〉島﨑春樹（社会福祉法人あさみどりの会理事長） 〈鼎談〉障害者福祉のゆくえを読む ～障害者福祉の歴史の中の功と罪 ミスリードに身をゆだねないために、運動論として福祉を考える～ 〈語り人〉北岡賢剛（滋賀県社会福祉事業団理事長） 野沢和弘（毎日新聞社論説委員） 島﨑春樹
5	23年5月22日 中日パレス	129	「地域生活のこれからの方向性を探る」 〈講演〉小林繁市（日本知的障害者福祉協会 地域支援部会長／グループホーム・ケアホーム等分科会座長） シンポジウム「あさみどりの会の知的障がい者支援」 〈シンポジスト〉坪内勝彦（虹の会代表） 高見 茂（あらくさの会初代会長） 秋田伸子（ヘルパーステーション笑の家サービス提供責任者あさみどりの会世話人第1号）
6	24年5月13日 中日パレス	131	「障害児・者福祉の道しるべ」～今、この国で起っていること～ 〈講演〉戸枝陽基（社会福祉法人むそう理事長） 〈対談〉「あさみどりの会がめざすべき未来」 戸枝陽基、島﨑春樹
7	25年5月12日 中日パレス	114	「地域の中でいきいきと、自分らしく生きるということ」 〈講演〉手嶋雅史（椙山女学園大学 人間関係学部准教授） 〈鼎談〉「地域で安心して暮らし続けてほしい ～どうなる、この子らの暮らし?～」 手嶋雅史、追分伸夫、椿純子（NPO法人蒼の会代表）
8	26年5月25日 中日パレス	111	～糸賀一雄記念賞受賞講演会～ 「この子らを世の光に」の理念のもとに～あさみどりの会が歩む未来をえがく～」 〈講演〉島﨑春樹
9	27年5月24日 中日パレス		『「発達障害とアタッチメント障害」～自己イメージの生成が社会参加を促す～』 〈講演〉後藤秀爾
10	28年5月22日 中日パレス	105	福祉の未来を拓くみなさんへ ～昭和の福祉、平成の福祉に学びこれからの福祉を考える～ 〈講演〉島﨑春樹（あさみどりの会顧問）
11	29年5月21日 中日パレス	105	繋がる支援、広がる絆 ～障害者と家族と支援者が共に歩んでいくための道しるべ～ 〈講演〉小林信篤（社会福祉法人横浜やまびこの里障害福祉事業部長）
12	平成30年5月20日 中日パレス	105	創る喜びはみんなとともに 〈鼎談と実践〉神谷順子（NPO法人ふぃーる工房理事長）、中野則恵（さわらび園主任） 熊谷かの子（わらび福祉園園長）
13	令和元年5月19日 東京第一ホテル錦	45	私たちが想う真の福祉社会とは 〈対談〉秋吉美果（べにしだの家主任）、田中雅樹（れいんぼうワークス主任） 平野飛鳥（さわらび園主任）、柿下大悟（わらび福祉園主任）、山本智恵（さわらび園園長）
			※令和2年度は新型コロナ感染防止のため中止
14	3年11月20日 （WEB開催）	62	人づくりの中で見えてくる未来 〈講演〉野澤和弘（植草学園大学副学長・教授） 〈座談会〉田中雅樹（れいんぼうワークス主任） 渡邊裕介（あさみどりの風わらび相談支援専門員） 倉嶋昌之（豊田市福祉事業団第二ひまわり主任）、野澤和弘
15	4年11月27日 東京第一ホテル錦 （一部WEB開催）	123	あさみどりの会設立50周年記念フォーラム・あさみどり ―未来に伝えていきたい糸賀一雄の心― 〈記念講話〉島﨑春樹（あさみどりの会顧問） 〈記念講演〉辻哲夫（糸賀一雄記念財団理事長）

20 福祉コンサート（わたぼうしコンサート・なないろコンサート）

昭和53年、ボランティアが中心となって、奈良で興り全国的規模で拡がりをみせていた「わたぼうしコンサート」を名古屋市公会堂で開催したのが始まりです。4回目からは「なないろコンサート」の名で、この地域に根付いた福祉コンサートの活動を続けています。

回	開催年月	内容 ◎印実行委員長
1	昭和53年10月 名古屋市公会堂 第1回わたぼうし 名古屋コンサート	〈出演〉歌うボランティアわたぼうし・鬼剣舞 ◎長谷川伸二 入選作：ひみつ（加藤美津子） HAPPY WAY（益田正勝） お母さんごめんなさい（土谷康文・信子） 窓の虹は消えるけど（小曽根俊子）
2	54年12月 名古屋市民会館 第2回わたぼうし	〈出演〉歌うボランティアわたぼうし・鬼剣舞 ◎宮崎 晃 入選作：ぼく生きてるよ（田中 淳） さんぽ（小嶋啓生） 神様への手紙（前田典子）
3	昭和55年11月 名古屋市民会館 第3回わたぼうし	〈出演〉歌うボランティアわたぼうし・我夢土下座（笠木透グループ）・ひまわりの会（手話コーラス） ◎岡田清孝 入選作：僕だって（石黒次郎） ちょっぴり涙ためて（大加幸枝） ともだち（岡 弘子）
4	56年11月 愛知文化講堂 第1回なないろコンサート	〈出演〉笠木透と仲間たち・鬼剣舞・ひまわりの会（手話コーラス） ◎植田一雄 入選作：あっちゃんの星（岡 弘子） 生きる（柏本 勝） 君はキューピット（岩田芳雄） 雪のおまじない（山田みき江）
5	57年11月 名古屋市公会堂 第2回なないろ	〈出演〉笠木透と仲間たち・鬼剣舞・グループボイス（朗読）・クインテットグリーン（緑風荘） ◎追分伸夫 入選作：夢（長谷川玲子） あじさい（小嶋啓生） 妻は名のみの車いす（大岩和子） おれの夢（山村秀雄） みんな集まれ（雨田陽三）
6	58年7月 総合社会福祉会館	「なないろふれあいコンサート」〈出演〉鬼剣舞・トレイン 他
7	58年12月 愛知文化講堂 第3回なないろ	〈出演〉鬼剣舞・トレイン・あけぼの合唱団（視覚障害の人たち） ◎伊達弘敏 入選作：いもうと（小嶋啓生） ほんのすこしのやさしさを（山田喜代美） はーととはーとでともだち（江口奈緒美） きざみキャベツの歌（久野のり子） 生きていかなくちゃ（加藤誠司）
8	59年12月 愛知文化講堂 第4回なないろ	〈出演〉加藤隆正とドレミファバンド・加藤健一・翼・ひまわりの会 ◎三輪幸司 入選作：あみもの（赤崎友理子） できたよ（川松夏子） タケオとともに（佐藤喜美子） 見ないで笑わないで（若子智美） 他
9	60年12月 愛知文化講堂 第5回なないろ	〈出演〉加藤隆正とひとつ山こえてみよう会・鬼剣舞・ママさんコーラスかすりの会（日本民謡） ◎植田 修 入選作：坂（武藤恵利子） 想い（吉田 実） ぼく歩けたよ（武藤洋子） プラットホームで（米沢寿浩） 僕らのかあちゃん（杉江徳長）
10	61年11月 名古屋市公会堂 第6回なないろ	〈出演〉これがおわりのほれほれバンド・加藤健一・ひかり学園鼓笛隊 ◎乾 勝貫 入選作：僕のめがね（佐藤豊子） 梨の花（金井小夜子） お父さんに会いたい（野畑秀弘） タイプ君に愛をこめて（渡辺ふみえ） 他
11	昭和62年11月 名古屋市公会堂 第7回なないろ	〈出演〉これがおわりのほれほれバンド・岩瀬善則・笠井るみ子・アドベンチャーズ（視覚障害の人たち） 法月 健 ◎堀 智二 入選作：ママはライバル（湯浅真理子） 弟の結婚式（松生恵子） アフリカの子供たちへのメッセージ（村瀬親示）
12	63年12月 愛知文化講堂 第8回なないろ	〈出演〉これがおわりのほれほれバンド・むぎの芽・豊田市第2ひまわり学園・笠井るみ子・法月 健 ◎小川 卓 入選作：がんばりやのケンちゃん（加藤ひろみ） 日曜学級の詩（清水将一） ちいさな冒険しよう（津田美由貴） ありがとう奈美ちゃん（作石侃子）
13	平成2年2月 東別院NBNホール 第9回なないろ	〈出演〉加藤隆正・安川 誠・増田やすのり・笠井るみ子 丹下 靖 ◎小川 卓 入選作：僕は知っている（富永くるみ） ぽつんと（鈴木さおり） 車いすの貴婦人（湯浅真理子） 秋の終わりに（深川常雄） 岩西授産所で働く仲間たち（森田勝昭）
14	4年1月 愛知文化講堂 第10回なないろ	〈出演〉越智章仁・加藤隆正・安川 誠・増田康記・丹下 靖・笠井るみ子・グループボイス ◎井上 馨 入選作：コロニーにて（那須賢治） 一緒に……（桑田大輔） 光になりたい（深川常雄） My hand My foot（水野三恵） 6月の花嫁（登 容子） つけもの石音頭（松生恵子）
15	6年1月 愛知勤労会館 第11回なないろ	〈出演〉LOUS・わっか・なないろバンド ◎井上 馨 入選作：杖さんありがとう（高見沢 幸） 雨の日だけのおたまじゃくし（青木誠一郎） ひだまり（深川常雄） 意志をもってはダメですか（田中明美） 地球最後の日（中西 恵）
16	7年2月 名古屋市公会堂 第12回なないろ	〈出演〉恵那たんぽぽ作業所・アンサンブルアミー（視覚障害の人たち） ◎水野裕子 なないろバンド
17	8年9月 愛知勤労会館	「EKO名古屋コンサートWITHなないろフェスティバル」 〈出演〉スウェーデンの知的障害者のロックバンド・なないろバンド・恵那たんぽぽ作業所・越智章仁・むすめ座

18	平成23年1月22日 ウィルあいち 第13回なないろ	〈出演〉 我楽童（がらっぱ）・ハートフルホスピタル・ なないろスペシャルバンド ◎伊東宏崇 入選作：いまだからわかること（登 容子） まさくんのあれから（川松夏子） 風を追いかけて（利根川知枝） ひとりじゃない（味岡 想） なないろのあなたへ（塚本田紀子）	CD発売記念コンサート
19	27年4月5日 愛知芸術劇場	〈出演〉 なないろスペシャルバンド （伊藤育雄、岩瀬喜則、笠井琉巳子、加藤隆正、 高橋弘恵、田中雅樹、丹下 靖、堀智二、水野裕子） 青山兄弟・すぱっつ	なないろコンサート－ｉｎ同朋大学２０１６
20	28年10月8日 同朋大学成徳館 12階ホール	〈出演〉 和太鼓クラブてんつくてん ＮＰＯ法人ほがらか企画 高松信友 なないろバンド	なないろコンサート－ｉｎ同朋大学２０１７
21	29年12月9日 同朋大学成徳館 12階ホール	〈出演〉 我楽童（がらっぱ）同朋高校フォークソング部 ポパイ座銀河団 ブレイク★スルーらいぶ游バンド なないろバンド	なないろコンサート２０１８－ｎべにしだの家
22	30年12月2日 べにしだの家研修室	〈出演〉 高松信友 ブレイク★スルー ポパイ座銀河団 なないろバンド	なないろコンサート２０１９－ｎべにしだの家
23	令和元年12月1日 べにしだの家研修室	〈出演〉 すぱっつ ポパイ座銀河団 ブレイク★スルー 山本紗矢香 ※令和2年度は新型コロナ感染防止のため中止	なないろコンサート２０２１「生命・つながり」 －コロナ禍ですが、今年40年を迎えました！－
24	3年12月5日 べにしだの家研修室	〈出演〉 なないろバンド（笠井琉魅子、伊藤育雄、高橋弘恵、 堀智二、田中雅樹、そらしの、丹下靖他）・過去入選者 （森美由貴、吉田実、利根川知枝、川松夏子）	

〈なないろミニコンサート・出前コンサート〉

「障がい者と市民の集い」「ひかりのさとファームコンサート」「同朋大わいわいフェスタ」
「らいぶ・游」法人各事業所催事　他多数開催

21グループホーム見学会

当初「障害のある方の生活を支える支援者養成講座」として開催し、令和元年度に県の事業に位置付けられました。令和3年度から主に求職者を対象として現在の名称に変更し、受講された方がホームのスタッフとしてつながることを期待すると共に、ホームで働いている方の研修の機会としても活用されています。

開催年	場所	回数	人数	参加者
平成25年	べにしだ	1	24	本部・べにしだ共同生活援助事業所職員・利用者
26年	わらび べにしだ	2 2	21 11	わらび福祉園・わらび共同生活援助事業所職員 べにしだ共同生活援助事業所職員・利用者
27年	わらび べにしだ れいんぼう	2 2 1	22 38 15	わらび福祉園・わらび共同生活援助事業所職員 べにしだ共同生活援助事業所職員・利用者 れいんぼう共同生活援助事業所職員
28年	わらび べにしだ れいんぼう	1 1 1	8 16 10	わらび共同生活援助事業所職員 べにしだ共同生活援助事業所職員・利用者 れいんぼう共同生活援助事業所職員
29年	わらび べにしだ れいんぼう	1 1 1	2 29 11	わらび共同生活援助事業所職員 べにしだ共同生活援助事業所職員・利用者 れいんぼう共同生活援助事業所職員
30年	わらび べにしだ れいんぼう	1 1 1	5 10 6	わらび共同生活援助事業所職員・利用者 べにしだ共同生活援助事業所職員・利用者 れいんぼう共同生活援助事業所職員・利用者
令和元年 （見学会含む）	わらび べにしだ れいんぼう	1 2 3	3 14 26	わらび共同生活援助事業所職員・利用者 べにしだ共同生活援助事業所職員・利用者 れいんぼう共同生活援助事業所職員・利用者
2年	れいんぼう	2	13	（コロナの影響によりれいんぼうのみ開催） れいんぼう共同生活援助事業所職員
3年	べにしだ れいんぼう	5 4	15 8	べにしだ共同生活援助事業所職員 れいんぼう共同生活援助事業所職員（オンライン1回）
4年	べにしだ れいんぼう	4 2	28 19	べにしだ共同生活援助事業所職員 れいんぼう共同生活援助事業所職員

出版

〈ボランティアグループ時代〉

◎「青い空」
（昭和33年創刊）
◎ 季刊雑誌「あさみどり」 B5判40～50頁
（昭和39年6月創刊、昭和51年No.39まで確認）
◎「明日を待つ子たち」－重度精神薄弱児－（カメラルポ第1集） B5判38頁
（昭和39年6月刊行、伊藤方文 編）
◎「教室の小菩薩たち」－精神薄弱児と教育－（カメラルポ第2集）
B5判50頁
（昭和40年5月刊行、伊藤方文 編）
◎「働く愉快な仲間」－精神薄弱と社会－（カメラルポ第3集） B5判50頁
（昭和41年7月刊行、伊藤方文 編）
◎「遺伝と精神薄弱」 B6判32頁
（昭和42年3月刊行、名古屋大学教授 丸井文男 監修）
◎「血液型と心身障害」 B6判36頁
（昭和42年6月刊行、名古屋市立大学助教授 小林靖彦 監修）
◎「赤ちゃんの脳」 B6判36頁
（昭和43年4月刊行、名古屋大学助教授 亀山義郎 監修）
◎「幼児期の再検討」 B6判36頁
（昭和44年4月刊行、名古屋大学教授 堀 要 著）
◎「育つための条件」 B6判32頁 （あさみどり No.19別冊）
（昭和44年5月刊行、東京教育大学助教授 杉田 裕 著）
◎「心身障害児の療育援助のために」 A5判225頁
（昭和44年7月刊行、三木安正・浦辺央・成瀬昇・沢田秀一・他 著）
◎「精神薄弱児存在の意義」 B6判32頁 （あさみどり No.21別冊）
（昭和45年1月刊行、一麦寮長 田村一二 著）
◎ 季刊会報「さわらび」 B5判6頁
（昭和45年5月刊行、昭和49年No.14まで確認）

〈法人設立以降〉

◎ 機関誌「療育援助」 A4判8～12頁
—心身障害児（者）のためのボランティア活動—
（昭和49年6月創刊、令和5年3現在577号）
◎「この子らと —あるボランティアの心象—」 B6判264頁
（昭和52年8月刊行、伊藤方文 著）
◎「地域福祉の実践とその背景 —あさみどりの会の足跡—」 B6判18頁
（昭和52年11月刊行、伊藤方文 著）
◎「子どもは育つ —心身障害幼児の療育、母子通園施設さわらび園の実践—」
B5判25頁 （昭和53年9月刊行、さわらび園 編）
◎「坂道をのぼる子ら —さわらび園母親の手記を中心に」 A5判156頁
（昭和57年9月刊行、島﨑春樹 編）
◎「この子らと共に」 法人15周年記念誌 A5判184頁
（昭和61年12月刊行、島﨑春樹 編）
◎「思い入れ記」 わらび福祉園5周年記念誌 A5判232頁
（昭和61年12月刊行、島﨑春樹 編）
◎「ぼくだって」コンサート入選作品集 B5判63頁
（昭和62年9月刊行、なないろコンサート実行委員会 編）
◎「Human Love —出会いとかかわりの20年—」
法人設立20周年記念誌 B5判151頁
（平成4年11月刊行、島﨑春樹 編）
◎「父たち —障害を持つ子の父たちの悲しみと喜びと生きがいの記録—」
法人設立25周年記念誌 A5判208頁
（平成10年12月刊行、島﨑春樹・高濱 潔 編）
◎「みちをひらく —ボランティア活動から社会福祉法人設立までの歩み—」
法人設立30周年記念誌 A4判95頁
（平成14年12月刊行、高濱 潔 編）
◎「べにしだ物語 知的な障害のある人たちと共に」
法人設立30周年記念誌 A5判284頁
（平成14年12月刊行、島﨑春樹 著）
◎「愛と自由と安心を べにしだの家十周年に語る」
べにしだの家10周年記念誌 A5判248頁
（平成17年12月刊行、島﨑春樹 著）
◎「営営と20年あらくさの会」A4判21頁
（平成21年3月刊行、あらくさの会・あさみどりの会 編）
◎「法人設立から40年 —援け合うこころを育んで」
法人設立40周年記念誌 A4判48頁
（平成23年12月刊行、高濱 潔・島崎徹也・追分伸夫 編）
◎「わらび福祉園30年の歩み」A4判33頁
（平成24年4月刊行、あさみどりの会・わらび福祉園 編）
◎「夢あさみどり —療育援助の半世紀—」
法人設立40周年記念誌 A5判340頁
（平成24年6月刊行、島﨑徹也、追分伸夫 編）
◎「にじ —子を想う親心の記録」 B5判172頁
虹の会25周年・れいんぼうワークス10周年記念誌
（平成24年10月刊行、虹の会 編、あさみどりの会監修）
◎「42年間にわたる母子通園のあしあと」 A5判168頁
（平成26年7月刊行、島﨑春樹 編）
◎「えにしを繋いで —べにしだの20年—」 B5判84頁
「べにしだのアルバム —20年のあゆみ—」 B5判248頁
（平成27年9月刊行、追分伸夫・秋吉美果 編）
◎「わらびの途」 A5判266頁
（令和2年9月刊行、わらび福祉園 編）
◎「さわらび —出会いと感謝の50年—」 A5判266頁
（令和4年11月刊行、あさみどりの会50周年記念）

映画

〈ボランティアグループ時代〉

◎「いずみ学園」
（昭和35年6月、名古屋手をつなぐ親の会からの委嘱映画、16mm）
◎「働く子ら」
（昭和35年10月、菊井中学校特殊学級の委嘱、16mm）
◎「わが愛と祈り」
（昭和36年4月、名古屋手をつなぐ親の会の啓蒙活動支援、16mm）
◎「静かな波紋」
（昭和37年8月、尾原信夫氏一家の協力による映画、16mm）
◎「あなたはご存じですか」
（昭和40年11月、名古屋西ライオンズクラブ協賛、16mm）
◎「この子らを世の光に」
（昭和43年9月、糸賀一雄氏の著書をもとに制作、16mm）
◎「ひろがれ愛の波紋」
（昭和46年10月、聖心教会の協力のもとに制作、16mm）

〈法人設立以降〉

◎「坂道をのぼる子ら」
（昭和54年5月、さわらび園の1年間の療育の記録、8mm）
◎「小さなともだち」
（昭和56年5月、ボランティア活動、8mm）
◎「そっちやないこっちや」
（昭和56年11月、記録映画コミュニティ・ケアへの道、16mm）

538		11 月	こころがいっぱい動いたこの夏 — さわらび園親子療育キャンプにて — ～ 加藤茉那、村里理恵、牧野昌代、佐藤誉子、 佐藤留菜、春田莉奈、糸魚川咲季、小代信幸 ～
539		12 月	“ たのしい ” ことに いっぱい出会えたボランティア — 先輩ボランティアからのメッセージ — ～ 小林栞奈、伊藤沙也香、伊東宏嵩
540	R2	1 月	謹賀新年 『ぼくが生まれてごめんなさい』の向こう ～ 後藤秀爾、熊谷かの子、追分伸夫、 鷲見まち子、山本智恵、島崎徹也 ～
541		2 月	先達からのことづて — 次世代のみなさんへ — ～ 島﨑春樹
542		3 月	母子通園だからこそ出会えたもの — 卒園を迎える母たちの想い — ～ 青井美佳、鬼頭敬子、塩野維子 ～
543		4 月	ふくしの明日を夢見て — ウェルフェア(welfare)とウェルビーイング (well-beinng) ～ 島崎徹也 ～
544 (合併号)		5 月 6 月	雑草(あらくさ)という夢は終わらない ～ 島田修三、渡邊冬樹、上田 慎、平岩 恵 ～
545		7 月	あさみどりの会へようこそ ～ 熊谷かの子、尾関実野里、上田沙織、 田中聡子、堀切千波 ～
546		8 月	発達障害対応研修を通して ～ 小林信篤、田中雅樹、仲畑芳紀、稲石 涼、 鷲見まち子 ～
547		9 月	べにしだの家 25 周年特集 — べにしだの家をなぜ作ったのか — ～ 島﨑春樹、追分伸夫、椿 泰廣、秋吉美果、 吉田とき江 ～
548		10 月	福祉人足るために — その育成と明日を考える — ～ 下山久之、繁原幸樹 ～
549		11 月	風立ちぬ いざ生きめやも —“ 夢あさみどり ” それぞれの出発(たびだち) — ～ 島崎徹也、山本智恵 ～
550		12 月	一人ひとりの花が地域で咲くために — 花 * 花のこと… — ～ 江部眞弓、安島一樹、河合泰洋、石橋和樹 ～
551	R3	1 月	謹賀新年　顔が生まれる — 教育における自己の生成 — ～ 後藤秀爾、島崎徹也、追分伸夫 ～
552		2 月	アフターコロナにおける障害者福祉 — 愛知県知的障害者福祉協会の取り組み — ～ 松下直弘、田中友久 ～
553		3 月	さわらび園卒園児母親レポート — ここでの豊かな時間の中で — ～ 盛山亜耶、菅沼有紀、新納 恵 ～
554		4 月	いまこそ「よってたかって」 ～ 追分伸夫 ～ コラム　昭和原人のつぶやき①　～ 島﨑春樹 ～
555		5 月	そのままでいいよ — 2 年目職員の皆さんへ — ～ 鷲見まち子、大舘有里、川越由佳、立石裕一、 伊藤天音 ～ コラム　昭和原人のつぶやき②　～ 島﨑春樹 ～
556		6 月	インタビュー　ダンスのちから — 今までにないメッセージをつくる — ～GORO、中野則恵、追分伸夫 ～ コラム　昭和原人のつぶやき③　～ 島﨑春樹 ～
557		7 月	障害者スポーツの世界から地域共生社会を考える ～ 藤田紀昭、牧彰太 ～ コラム　昭和原人のつぶやき④　～ 島﨑春樹 ～
558		8 月	高濱潔さんを悼む　— 友として、相棒として — ～ 島﨑春樹、小林繋市、川崎純夫、熊谷かの子、 新美直代 ～
559		9 月	第 58 回心身障害問題を考える集い コロナ後を見据えた地域づくり 講演—新たな地域のあり方と社会保障の 未来を考える① —　～ 菊池馨実 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑤　～ 島﨑春樹 ～
560		10 月	第 58 回心身障害問題を考える集い コロナ後を見据えた地域づくり 講演　— 新たな地域のあり方と社会保障の 未来を考える② —　～ 菊池馨実 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑥　～ 島﨑春樹 ～
561		11 月	コロナ禍におけるボランティア活動を考える — with コロナの時代に — ～ 野川祐司、原田菜生、船田杏里、平野飛鳥、 鷲見まち子 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑦　～ 島﨑春樹 ～
562		12 月	相談支援あれこれ話 — 当たり前の暮らしを支え続けるために — ～ 小島一郎、秋房真由美、渡邊裕介 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑧　～ 島﨑春樹 ～
563	R4	1 月	迎春　子どもの気持ち VS 大人の理屈 — 共感することと理解すること — ～ 後藤秀爾、山本智恵、島崎徹也、鷲見まち子、 追分伸夫 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑨　～ 島﨑春樹 ～
564		2 月	第 14 回フォーラム･あさみどり講演録 人づくりの中で見えてくる未来 ～ 野澤和弘 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑩　～ 島﨑春樹 ～
565		3 月	さわらび園母親の手記より — 子どもとの歩みの中で — ～ 酒井優佳、山口由里子、長谷川郁美 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑪　～ 島﨑春樹 ～
566		4 月	「あさみどり」という運動体として — 法人設立 50 周年という節目を前にして — ～ 島崎徹也 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑫　～ 島﨑春樹 ～
567		5 月	第 14 回フォーラム･あさみどり座談会 これからのフクシと私を語り尽くす ～ 田中雅樹、渡邊裕介、倉嶋昌之、野澤和弘 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑬　～ 島﨑春樹 ～
568		6 月	今の時代だからこそボランティアの心を — コロナ禍でみえてきた大切にしたいもの — ～ 田中雅樹 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑭　～ 島﨑春樹 ～
569		7 月	子どもを見る目に寄り添うこと — 巡回相談から考える — ～ 堀 美和子 ～ コラム　昭和原人のつぶやき⑮　～ 島﨑春樹 ～
570		8 月	音楽のチカラ　— ありのまま、心のままに — ～ 柴田朋子、春日井彩子、仲畑芳紀、鷲見まち子 ～
571		9 月	第 59 回心身障害問題を考える集い それぞれが元気になる社会を妄想してみた — 地域で “ 共に生きる ” ために — 大討論会① ～ 浦川直人、御代田太一、鈴村萌芽、渡邊裕介、 國信綾希 ～
572		10 月	第 59 回心身障害問題を考える集い それぞれが元気になる社会を妄想してみた — 地域で “ 共に生きる ” ために — 大討論会② ～ 浦川直人、御代田太一、鈴村萌芽、渡邊裕介、 國信綾希 ～
573		11 月	「あさみどりの風　わらび」の 40 年 — 義を見てせざるは、勇無きなり — ～ 髙橋脩 ～ 記念座談会 ～ 島﨑春樹、吉田侃美、中島峯子、 村主史女、松本峯子、伊東尚子、熊谷かの子、柿下大悟 ～
574		12 月	れいんぼうワークス 20 周年 ～ 田中雅樹、坪内勝彦、高橋順子、吉田美奈子 ～
575	R5	1 月	謹賀新年　自分史から見るこの 50 年 ～ 後藤秀爾、山本智恵、鷲見まち子、田中雅樹、 追分伸夫、島崎徹也 ～
576		2 月	あさみどりの会設立 50 周年記念 「フォーラム･あさみどり」 【記念講演】未来に伝えていきたい糸賀一雄の心 ～ 辻哲夫 ～
577		3 月	さわらび園卒園児母親の手記 人生で一番悩み 自分とも向き合った 4 年間･他 ～ 加藤茉那、唐澤真理亜、三澤奈緒子 ～

毎月1回10日発行　紙面上の画像及び文章等の無断転載、複製はご遠慮下さい。

この子らを世の光にと願い 援け合うこころを育む

療育援助

2023（令和5）年2月10日発行　No. 576

●発行人　社会福祉法人あさみどりの会
〒464-0027 名古屋市千種区新池町 1-18-2　TEL:(052)782-2233　FAX:(052)782-3513
（ホームページ）あさみどりの会　検索入　（メール）asamidori@asamidori.net

あさみどりの会設立50周年記念「フォーラム・あさみどり」

【記念講演】

未来に伝えていきたい糸賀一雄の心

公益財団法人 糸賀一雄記念財団
理事長　辻　哲夫

糸賀一雄氏とあさみどりの会の縁（えにし）

私、滋賀県に勤務したときに障がいの問題に出会い、そのご縁で糸賀一雄財団の理事長をさせていただいております。あさみどりの会とは、島崎（春樹氏・あさみどりの会顧問）さんと滋賀県で毎年開催されるアメニティフォーラムでお会いし、それ以来のお付き合いで、2013 年には講演もさせていただきました。今日は「未来に伝えていきたい糸賀一雄の心」という演題をいただき大変名誉に思います。

453　8月　障害児･者福祉の道しるべ　～戸枝陽基～
454　9月　発達障がいのある子どもとその家族の
安定したくらしを実現するために
～諏訪利明～
455　10月　障がい者の輝きを地域にひろげたい
～横倉裕子～
456　11月　虹の会 25 周年･れいんぼうワークス 10 周年を
迎えて ～江尻富吉、服部雪子、山田智子 他～
457　12月　よりよい地域生活を目指して
ーグループホームのあり方を考えるー
～丹下靖、安井美也子、近藤竜也、秋吉美果～

458 **H25** 1月　謹賀新年
障害のある子が幸せな生活を送るために
ー児童発達支援センターさわらび園の役割ー
～島﨑春樹～
459　2月　絵画を通した地域とのつながり
ーわらび福祉園での取り組みー
～鵜飼哲也、加藤晃一～
460　3月　お母さんも卒園します
～中村芳奈、鈴置恭子、平井玲子～
461　4月　あさみどりの会 25 年度の事業計画
462　5月　施設視察を通して自らを振り返る　ー職員 4 年
目研修からー　～菊田千恵、塚本華依～
463　6月　相談支援で大切にしたいこと　～深田明男～
464　7月　さわらび園創設の原点に立ちかえってみる
ーさわらび園園舎建替えにあたってー
465　8月　地域の中でいきいきと自分らしく生きるという
こと　～手嶋雅史～
466　9月　超高齢化社会における、障害児者のケアを含め
た地域包括的な支援の行方　～辻哲夫～
467　10月　地域の中で育まれてきた子どもクラブ～渡邉裕
介、會田彩乃ほか～
468　11月　入所施設の今後のあり方を展望するために
ー北海道での取り組みを学びにー
～丹下靖、追分伸夫、川﨑雄司、熊谷かの子～
469　12月　街の中の元気な事業所「ひょうたんカフェ」
～橋本思織～

470 **H26** 1月　謹賀新年　この子らの未来を拓くために
ーさわらび園を建て替えますー
～島﨑春樹ほか～
471　2月　集団の中での発達障害児に対する支援
～後藤秀爾～
472　3月　自分自身と向き合って
～中山麻友子、佐藤真由子～
473　4月　「この子らを世の光に」の思想を次の時代に
ー糸賀一雄記念賞を受賞してー
あさみどりの会 26 年度の事業計画
474　5月　現場に出て 1 年での「出会い」を言葉に
～藤本沙弓、米田絵里、大竹芽～
475　6月　いなばじホーム開設から 1 年たちました
～塚本華依ほか～
476　7月　れいんぼうワークス訪問記　ー大人になった子
どもたちを訪ねてー　～山本智恵～
477　8月　糸賀一雄先生の思想とあさみどりの会の実践
～島﨑春樹～
478　9月　今年の夏もキャンプでいっぱい出逢いがありま
した～島﨑徹也ほか～　さわらび園新園舎完成

479　10月　母子通園という実践の上に立つ 3 つの新たな事
業～島﨑徹也、大澤夕佳、中野則恵、平野飛鳥～
480　12月　どんなに障がいが重くてもその人の人生を生
きる　ー日浦美智江さんの講演からその実践
を学ぶー
～追分伸夫、國澤宏登、近藤竜也、岸下幸子～

481 **H27** 1月　謹賀新年　あさみどりのあした　～後藤秀爾～
各事業所施設長の新年の挨拶
482　2月　ボランティアスクール･フェスティバル
ー新たな自分の発見ー
～追分伸夫、谷槙恵、伊東宏崇、田内伸一～
483　3月　未来(あした)に向かって
～寺澤由紀、吉田良子、永石嘉代～
484　4月　あさみどりの会 27 年度の事業計画
485　5月　あさみどりの会をさよならするに当たって
～島﨑春樹～
486　6月　私の福祉回顧録　～高濱潔～
487　7月　七夕の日、あっという間に逝ってしまったあな
たに(井上馨)
～追分伸夫、橋本思織、安島一樹、種田勝利、堀智二～
488　8月　現代社会とアタッチメント障害　～後藤秀爾～
489　9月　よりよい地域生活を目指して　その 3 年後
ーグループホームのあり方を考える②　担当者
編ー～秋吉美果、近藤竜也、柿下大悟～
490　10月　1 人ひとりにいろんな思いを残して(さわらび
園キャンプレポート)
491　11月　共に生きることの意味
～青山まち子、葛原成美～

492 **H28** 1月　迎春　「精霊の守り人」は何を守ったか
～後藤秀爾～
私のボランティア活動について ～河合賢治～
493　2月　私はかけ橋 あなたとつながる 広がる出会い
（ボランティアスクール）～小林栞菜 他～
494　3月　出会えたすべてに感謝して
～高松聡子、若山敦子、山田万奈～
495　4月　平成 28 年度を迎えるに当たって
「あさみどり」に込められた想いを胸に
～島﨑徹也～
496　5月　出会い、かかわり、揺れ動いた福祉職スタートの 1 年
― 新人職員が感じたこと ―
～辻 愛美、菅原圭佑、河村桃子～
497　6月　「はちのす寮」 53 年の歩みに幕
～知的な障がいのある人と一緒に暮らし続けて～
498　7月　23 年の雑感
― お口の健康アドバイスを通じて ― ～野々山郁～
499　8月　誰もが生きやすい社会の実現に向けて
― 第 54 回心身障害問題を考える集い 鼎談より ―
～野澤和弘、島田修三、手嶋雅史～
500　9月　第 500 号記念　永遠ということ
― あらためて「この子らを世の光に」について ―
～後藤秀爾、中北智久、津田克也、馬庭京子、小野 宏～
501　10月　愛は育つのです
― 療育キャンプの出会いの中で ―
～大澤幸恵、水木貴廣、山本美典、冨永祥子、
渡邊友子、小林栞菜、福田唯～

502　11月　かずくんとボランティアとあさみどり
― 植田一雄さん一周忌 ―
～島﨑春樹、安田理恵、丹下 靖、村地裕子、河野正治～
503　12月　きょうだいの気持ち
― 共に生きてきた年月の中で ―
～川松仁子、平原良子～

504 **H29** 1月　迎春　まだ会ったことのない運命の人
～ 後藤秀爾、島﨑徹也 ～
505　2月　地域生活を支える資源として
― 短期入所のサービスを通して感じた「本人主体」 ―
～ 川﨑雄司 ～
506　3月　芽吹きを感じる歓びの中で
― 卒園児母親のレポートから ―
～ 國分恵美、筒井佳美、桐生光恵、江本尚子 ～
507　4月　平成 29 年度を迎えるに当たって
創立者の言葉から感じる「あさみどり」の
スピリット　～ 追分伸夫 ～
508　5月　「知ってもらう」ことから始めてみました
― 支援者養成講座開催の取り組みから ―
～ 丹下 靖 ～
509　6月　支援にかかわるものとして大事にしたいこと
― 若手職員の心の歩みと実践から ―
～ 米田絵里、三浦彰太、稲石 涼、松崎孝夫 ～
510　7月　障害者と家族と支援者が共に歩んでいくための
道しるべ　～ 小林信篤 ～
511　8月　第 55 回心身障害問題を考える集い
障害福祉施策の課題と展望
― 共生社会の実現に向けて ―　～ 小澤 温 ～
512　9月　第 55 回心身障害問題を考える集い対談
「今　若い人たちがえがく福祉未来とは」
～ 小澤 温、後藤秀爾 ～
513　10月　4 日間の小さなキセキ
― さわらび園親子療育キャンプのレポートから ―
～ 溝口香織、櫻井阿耶、青木美由紀、猿田智津瑠 ～
514　11月　きょうだいとして、職員として、人として
― 少し立ち止まって、改めて考えてみました ―
～ 近藤竜也、稲石涼、熊谷かの子 ～
515　12月　父親の役割　― わが子の成長と父の想い ―
～ 椿 泰廣、福田敏宏、久野格彦、葛原成美 ～

516 **H30** 1月　迎春　障害者元型と自己実現
～ 後藤秀爾、追分伸夫、島﨑徹也、
熊谷かの子、鷲見まち子 ～
517　2月　偲ぶ「島﨑左世先生」特集
人と人の間（ま）の世界を生き切って
― さわらび園と共に 44 年 ―
～ 渡辺 幸、白尾素子、山本智恵、服部美子、
椿 純子、國分恵美、依田佳子 ～
518　3月　あたらしき出発（たびだち）
― 卒園児母親のレポートより ―
～ 田中茉緒子、中嶋美咲、冨永祥子 ～
519　4月　“ 夢あさみどり ” に託された思い
― あさみどりの会であり続けるために ―
～ 島﨑徹也 ～
520　5月　「つぼみの会」と自閉症児･者とあさみどり
― 創立 50 周年おめでとうございます ―
～ 島﨑春樹、岡田ひろみ ～

521　6月　親になるという内的作業
― 「親だから」と「親だけど」 ― ～ 後藤秀爾 ～
522　7月　創る喜びはみんなとともに
― 芸術には人の心を動かす力がある ―
～ 神谷順子、中野則恵、熊谷かの子 ～
523　8月　地域とのつながり
― あさみどりの会で培ってきたものを
地域で活かす ―
～ 熊谷かの子、清水慎太郎、阪田征彦 ～
524　9月　入職 2 年目の職員の感想より
～ 渡部由夏、古井佑樹、村雲優花、仲木 秀、
日高健吾、長尾一樹、粥川舜己 ～
525　10月　出会いの中で育ちあう
― さわらび親子療育キャンプ in 郡上山の家 ―
～ 渡邉千穂、和田瑞木、加藤伊織、森山亜耶、
岩田萌那、足立直樹 ～
526　11月　第 56 回心身障害問題を考える集い　講演録
子どもたちに残したい未来について
～ 湯浅 誠 ～
527　12月　幼児期から成人へ、歩みは続いているのです
― 2018･しんいけ盆踊り実行委員会の軌跡を通して ―
～ 中野則恵、鈴木翔大、藤井夏鈴、鈴木恵子、
仲畑芳紀、島﨑徹也 ～

528 **H31** 1月　謹賀新年　ダイバーシティモデル
― 新年のごあいさつに代えて ―
～ 後藤秀爾、追分伸夫、山本智恵、熊谷かの子、
鷲見まち子、丹下 靖、島﨑徹也 ～
529　2月　社会福祉法人の矜持とは
～ 川﨑純夫、磯部竜太、石元憲明 ～
530　3月　愛しき日々と共に　― 卒園児母親の手記から ―
～ 高木 都、兵頭奈穂、小谷麗子、田中里美 ～
531　4月　今だからこそ、先達の教えを
― 時代の一区切りに思うこと ― ～ 追分伸夫 ～

532 **R1** 5月　農業という夢のあとさき
― 自然栽培と農福連携、そして、
れいんぼうワークスの明日 ―　～ 田中雅樹 ～
533　6月　私たちの支援を、今一度振り返る機会に
― 「横浜やまびこの里」訪問記 ―
～ 柿下大悟、鷲見まち子 ～
534　7月　花のように咲き誇れ
― 2 年目の職員たちの思いに寄せて ―
～ 平岡祥江、門野公子、石腰智恵子、深田哲平、
梶田琴乃、古澤知也 ～
535　8月　私たちが想う真の福祉社会とは
― 現在、そして未来に向けて
各事業所リーダーからの提言 ―
～ 秋吉美果、田中雅樹、平野飛鳥、柿下大悟、
山本智恵 ～
536　9月　第 57 回心身障害問題を考える集い　講演録
逃げ遅れた人たちにも優しい社会であるために
【Part1】　～ 奥田知志 ～
537　10月　第 57 回心身障害問題を考える集い　講演録
逃げ遅れた人たちにも優しい社会であるために
【Part2】　～ 奥田知志 ～

396 11月 障害者の村コロニーを観る ～島﨑春樹～
ー国立コロニーのぞみの園を訪ねてー
397 12月 きょうだいの思いきょうだいの役割
ー障害のある人の心を支えるためにー
～諏方智広 他～

398 **H20** 1月 謹賀新年　あさみどりのふくし（H20 新春）
ーボランティアの心を基調として活動開始から
50 年ー
399 2月 ボラフェス 2007 ー心･踊る･遊ぶー
400 3月 400 号記念特集　地域で福祉を拓く
ーさわらび園との出逢いを縁としてー
401 4月 あさみどりの会 20 年度の事業計画
402 5月 巣立ちの時を迎えて ー母と子が共に学んださわらび園ー ～臼井利絵、中川裕美、佐藤希代子～
403 6月 脱施設、地域での暮らしが始まりました
ー西駒郷の実践ー ～山田優～
404 7月 あらくさ 10 年という節目を迎えて
～小縣恵美子小嶋素子、田中郁子、上田慎他～
405 8月 インシデントプロセス法を通して学んだこと
ー気づくことで見えてくるものー ～山本智恵～
406 9月 どうなる？障害者の暮らしは ～星野泰啓～
困ったときどうするか ～小野宏～
ー第 2 回フォーラムあさみどり講演ー
407 10月 キャメラを通して見えてくるもの家族の絆、命のつながり
ー「ありがとう」上映と伊勢真一氏の講演からー
408 11月 障害者自立支援法新体系に移行して 6 か月
～高濱潔 他～
409 12月 福祉職業人としての矜持ー生きがいややりがいを持って元気に働くためにー ～山村健～

410 **H21** 1月 謹賀新年　街の中で仲間と普通に暮らす（H21 新春）ーグループホームの生活ー
411 2月 第 5 回ボラフェス ～安江由衣、神谷広美他～
ーわ！出会いの輪なごみの和、はなしの話ー
412 3月 母が育てば子は育つ ーさわらびを巣立つ母たちー ～志水久美、平井章江、久野みか～
413 4月 あさみどりの会 21 年度の事業計画
414 5月 あらくさ 20 周年 ～島田修三、島﨑春樹～
415 6月 福祉的就労から一般就労へ
ー障害者雇用の実際と今後ー ～宮崎潔～
416 7月 さわらび園の給食について ～光本礼子～
417 8月 地域で普通に暮らすために（考える集い講演）
～明石洋子～
418 9月 発達障害のある人の社会自立について
（考える集い対談） ～明石洋子、蔭山英順～
419 10月 地域で福祉を拓く（第 3 回フォーラムシンポ）
～島田修三、浅井晴美、戸田三保子、福田晋介～
420 11月 大自然の中で知的障害者の方々と農業を通じて共に生きる
ー NPO 法人自然生クラブを訪ねてー小西利憲
421 12月 ボランティア力を見つめなおす
～高桑やよい、成田綾子、吉田実、伊東宏崇他～

422 **H22** 1月 謹賀新年　安心して共存できる社会にするために（H22 新春）　～島﨑春樹～
家族力を見つめ直す ～若子理恵～
423 2月 あさみどりのボランティア活動
～川村純平、追分伸夫、吉田とき江～
424 3月 新しい旅立ちー鈍行列車にゆっくり揺られてー
～後藤晶世～
425 4月 あさみどりの会 22 年度の事業計画
426 5月 施設サービスから地域サービスへ
ーみよし市相談支援連絡会の一員になってー
～熊谷かの子～
427 6月 今、本当に必要な支援とは　～谷口明広～
428 7月 伝えておきたいあさみどりの心
ー遺言の会よりー ～島﨑春樹～
429 8月 吉田とき江追悼特集
この仕事楽しかったよー最期のメッセージー
430 9月 人創りが未来を拓く鍵 ～尾上浩二～
431 10月 出会いはいつも勇気から ー私にもできるボランティアー（第 66 回ボラスクール）
432 11月 中堅職員研修　学んだことを職場に生かす
～平野飛鳥、水野愛弓、種田勝利、秋田浩徳～
433 12月 就労移行支援事業の取り組みから
～山口雅之～

434 **H23** 1月 謹賀新年　いのちに向き合う（H23 新春）
～島﨑春樹～
435 2月 人は人をなぜ隔離するのか
ー船形コロニー、国立ハンセン病療養所訪問記ー
～植田一雄、島﨑春樹～
436 3月 巣立ちの時期を迎えて ～加藤千晴、鈴木恵子～
437 4月 あさみどりの会 23 年度の事業計画
438 5月 15 年ぶりのなないろコンサート
～伊東宏崇、堀智二、高橋弘恵、かとうたかまさ～
439 6月 障害児者の福祉職員の最初の一年
～磯村亜耶、渡邊祐介、渡辺美咲、渡邊友美～
440 7月 あきらめないで、工夫して ～温井あけみ～
ー発達と子育てを学ぶ母親研修会からー
441 8月 どの子も大人になる
ーあさみどりの会における学齢児支援の取り組みー ～島﨑徹也、川村純平、幅尚子～
442 9月 地域生活のこれからの方向性を探る
ー伊達市と太陽の園での取り組みからー
～小林繁市～
443 10月 発達障害のある子どもの育ちを支える ～高橋脩一～
444 11月 育ちざかりの学齢期にこそ働く経験を
445 12月 法人設立から 40 年
ー援け合うこころを育んでー

446 **H24** 1月 法人設立から 40 年
ー援け合うこころを育んで Ⅱー
（伊藤方文語録）
447 2月 法人設立から 40 年
ー授け合うこころを育んで Ⅲー（鼎談）
448 3月 出会いと出発の中で
～今村加都子、坂野由紀子～
449 4月 あさみどりの会 24 年度の事業計画
450 5月 いのち　絆　支え合い
（ボランティアフェスティバル 2011 より）
451 6月 わらび福祉園開園 30 周年
452 7月 人が重なり合う場（さわらび園）
～會田彩乃、鍋谷貴子～

340 3月 さわらび園が教えてくれたこと
～幅尚子、関東千明、福田由美、平野富代～
341 4月 あさみどりの会 15 年度の事業計画
342 5月 この子らを世の光に
（法人設立 30 周年記念講演から）
ー糸賀一雄の思想に学ぶー ～佐藤久夫～
343 6月 悲しくもさわやかに
ー多くの友に惜しまれて水野克俊さん逝くー
344 7月 れいんぼうワークスの一年を振り返って
～植田一雄、三浦光子、神田輝美、清水久美子他～
345 8月 学齢期支援の新しい考え方 ～加瀬進～
ー障害児教育から特別なニーズ教育へー
346 9月 こどもからおとなへ（第 7 回父親フォーラム鼎談） ～加瀬進、平沼貞義、島﨑春樹～
347 10月 日々是好日、我が子と共に ～永田尚子～
ー明日香との 12 年間を振り返ってー
348 11月 今どきのボランティア事情 ～高濱潔～
ー時代の流れとともに変化してきたボランティア活動ー
349 12月 障害児とその家族に出会って
ーボランティアとしてー ～横倉裕子～

350 **H16** 1月 さわらび園からの贈り物
～長谷川雄一、山田正氏他～
ーボランティア活動を通して学んだことー
351 2月 多くの人に支えられた 6 年 ～河村繁之～
ーさわらび園卒園の年を迎え、父親としてー
352 3月 親子で巣立ちの時を迎えて
～那須田透子、鈴木智子～
353 4月 あさみどりの会 16 年度の事業計画
354 5月 父たちの活動が実って
ーグループホーム「あらくさの家」開所ー
355 6月 社会に出るということ ～宮崎潔～
ー障害者雇用の現場からその 1 ー
356 7月 社会に出るということ ～宮崎潔～
ー障害者雇用の現場からその 2 ー
357 8月 「かわせみの里構想」への第一歩
ーかわせみ工房開所ー
358 9月 施設を出てグループホームで暮らす
ーべにしだの家グループホームの取り組みー
359 10月 地域支援あの手この手
ー第 8 回父親フォーラムー ～根来正博～
360 11月 子どもは自ら育つ ～大野重男～
361 12月 家族の風景ー学齢児への支援を振り返りながらー ～島﨑徹也～

362 **H17** 1月 人と人との強いきずなを大切に ～島﨑春樹～
363 2月 ボランティアだからこそできること
ーよき友人になるためにー ～江戸徹～
364 3月 新しき出発
ーさわらびで学んだこと経験したことー
～中村美佐子、西山篤子、安達朝世～
365 4月 あさみどりの会 17 年度の事業計画
心の架け橋　村地俊二
366 5月 人間ってすばらしい（ボラフェス 004 オープニング） ～志村清一、織田元樹、島﨑春樹～
367 6月 人間ってすばらしい、間違いない！
ーボラフェス 2004 に参加してー
368 7月 永年の夢が実って
ーグループホーム「虹の家」開設ー ～植田一雄 他～
369 8月 今、さらにこの子らの将来を考える ～野沢和弘～
ー激動の時代、記者の目、父の目を通してー
370 9月 子どもたちが最高の日々を送るために
ーボランティアができることー
第 59 回ボラスクール主旨
371 10月 「郡上山の家」でのキャンプ ー家族と共にー
～島﨑左世 他～
372 11月 これからの地域福祉 ～森貞述（高浜市長）～
ー住民と行政が協働して福祉のまちづくりー
373 12月 障害児者をめぐる支援の輪をどう構築していったらよいか（対談） ～森貞述、島﨑春樹～

374 **H18** 1月 謹賀新年　がんばった母たち（H18 新春）
ーべにしだの家開設 10 周年に寄せてー
375 2月 涙の数だけ明日がある ー母親の体験発表よりー
～小林浩子～
376 3月 人間としての生きる原点を学ぶ大学生 ー教員免許特例法による介護等体験実習記録からー
377 4月 あさみどりの会 18 年度の事業計画
378 5月 ボランティアフェスティバル 2005
ーこんな出会いもいーじゃないー
379 6月 命を愛しむということ ～大谷貴子～
ー支えられる仕合せ、支える仕合せー
380 7月 障害児･知的障害者の居宅介護事業の今後
～高濱潔～
ーヘルパーステーション笑の家の 1 年ー
381 8月 この仕事、この職場で、今思うこと
ーあさみどりの職員になってー
382 9月 これからの時代、問われる父親の役割その 1
ー第 10 回父親フォーラムー
～副島宏克、吉田とき江～
383 10月 これからの時代、問われる父親の役割その 2
ー第 10 回父親フォーラムー
～副島宏克、吉田とき江～
384 11月 社会福祉制度改革と地域福祉
（考える集い講演） ～大橋謙策～
385 12月 日本社会のしくみと地域福祉改革の可能性
（対談） ～大橋謙策、島﨑春樹～

386 **H19** 1月 障害のある人の幸せはすべての人の幸せに繋がる（H19 新春） ～島﨑春樹～
387 2月 大人の常識、子どもの常識 ～神田英雄～
388 3月 さわらび園卒園を迎えて～杉山亜紀、吉井麻紀～
389 4月 あさみどりの会 19 年度の事業計画
390 5月 マザーズフェスタ　ー母たちの今昔物語…泣いて怒って笑ってそして今ー
391 6月 マザーズフェスタ　PART2　ー母たちの今昔物語…そして今子離れの時を迎えてー
392 7月 あさみどりで働くあなたへ
ー先輩からのメッセージー
～青山まち子、葛原成美、若山五十鈴、田内伸一～
393 8月 障害者福祉のゆくえを考える ～渡辺勧持～
394 9月 知的障害者児と障害者自立支援法 ～戸枝陽基～
ー障害者自立支援法をどう活用していくかー
395 10月 地域生活支援を中心においた福祉社会の構築
～北岡賢剛～ （鼎談…北岡、戸枝、島﨑）

280	H10	1月	賀春(H10 新春)各施設親の会
281		2月	おとなになった自閉症 ～佐構由美、中村ゆき子～
282		3月	十歳になったグループホーム ー障害が重くても地域の中で暮らせる可能性を求めてー ～高濱潔～
283		4月	ボランティア体験を語る ～河野由美、宮林佐千子、東正人～
284		5月	療育との接点・私の背景 ～森省二～
285		6月	子どもの成長・親の成長 ～市坪葉子～
286		7月	今、子どもたちは…ー子どもが本当に求めているものー ～伊藤方一～
287 〈A4判に〉		8月	知的障害者の生活支援の現状と課題 ～渡辺勧持、河野和代、高濱潔、野沢和弘～
288		9月	知的障害者の生活支援を考える ー第２回父親フォーラム分科会まとめー
289		10月	ボクは街の中で暮らし始めた ーながおさ作業所・ながおさホーム開設ー
290		11月	自閉症の人たちの豊かな人生を求めて ～藤村出～ ー自閉症の人たちのライフステージを支える援助活動ー
291		12月	自閉症の人たちの豊かな人生を求めてー鼎談ー ～藤村出、野沢和弘、島﨑春樹～
292	H11	1月	あさみどりの会が活動を始めてから 40 年 21世紀の福祉を求めて ～村地俊二～
293		2月	障害者をめぐる人々 ～大野智也～ ー親・職員・ボランティア、それぞれの居場所ー
294		3月	授かってよかった生きてくれてありがとう ～明保圭子、吉田利恵～
295		4月	あさみどりの会 H11 年度事業計画
296		5月	企業市民の社会貢献活動
297		6月	ボランティアは良き友人 ～井上馨、水野克俊～ ーべにしだの家宿泊ボランティアの活動～
298		7月	社会福祉制度改革の行方 ～鈴木清覚～ 第３回父親フォーラム講演と全体会
299		8月	いらっしゃいませ、小規模作業所 「あらくさ」オープン ～貝谷京子～
300		9月	この子らの幸せ願い続けて ー 300 号記念特集ー ～島﨑春樹、堀要、伊藤方一、加藤奈々枝他～
301		10月	自閉症の人たちと地域で生活するために ーあさけ学園における実践ー ～奥野宏二～
302		11月	自閉症の人たちと地域で生活するために ー鼎談ー ～奥野宏二、森省二、島﨑春樹～
303		12月	子どもクラブのボランティア体験から ～加藤貴弘～
304	H12	1月	2000 年に希望をつなぐ(H12 新春) 第４回ボランティア集会から
305		2月	スウェーデンに触れてみる(第１回) ～菱田昌道～
306		3月	スウェーデンに触れてみる(第２回) ～菱田昌道～
307		4月	スウェーデンに触れてみる(第３回) ～菱田昌道～
308		5月	スウェーデンに触れてみる(第４回) ～菱田昌道～
309		6月	障害児の未来を創る父親の会フォルテ
310		7月	地域支援の現場から ～山田優～ ー第４回父親フォーラム　講演と全体会
311		8月	わが子の未来を描く(父親フォーラム鼎談) ～山田優、菱田昌道、島田修三～
312		9月	施設と地域の間で考えたこと ～福岡寿～
313		10月	障害のある人たちの未来を探る(鼎談) ～福岡寿、三田優子、吉田とき江～
314		11月	子らへの篤き想いを残しつつ ー伊藤方一氏逝くー
315 〈合併号〉		12月 1月	べにしだの５年間(1) ～島﨑春樹～ ー特に入所更生施設の活動を中心にー
316	H13	2月	べにしだの５年間(2) ～島﨑春樹～ ー続、人々は動いたー
317		3月	子どもの人生、母の人生 ーさわらび園母親研修会からー ～佐古美知子、川野公美子、吉田とき江～
318		4月	あさみどりの会 13 年度の事業計画
319		5月	IT・インターネット・情報弱者 ～高濱潔～
320		6月	若い世代からのメッセージ ～阿部純子、黒石幸子、津田祥代、棚垣奈々枝他～
321		7月	カメラがみた子どもたちの未来 (フォーラム鼎談) ～小林茂、吉田隆、島﨑春樹～
322		8月	知的障害者権利擁護の動き ～高濱潔～
323 〈合併号〉		9月 10月	子育ての原点と障害のある子の養育 ～高橋脩～
324		11月	障害のある子の生きる力を育てる(鼎談) ～高橋脩、加藤ひとみ、後藤秀爾～
325		12月	スウェーデン、イギリスを訪れて ～山本智恵～
326	H14	1月	知的障害者の暮らしをどう守るか ーアメリカの社会福祉法人レイ・グラハムの実践ー
327		2月	親として見つめ続けてきたこと ～吉岡成子～ ー障害を持った人たちの明日を語るー
328		3月	私が変われた ～嶋弘美、小木曽加代美～
329		4月	あさみどりの会 14 年度の事業計画
330		5月	知的障害者の未来を拓く希望の館 ～島﨑春樹～ ーれいんぼうワークス開設ー～坪内勝彦 他～
331		6月	脈々 40 年、あさみどりのボランティア ～青山昭吉、高木政市、中川裕美子、柴田典義他～
332		7月	地域生活支援のあるべき姿 ー第６回父親フォーラムー ～大塚晃～
333		8月	地域生活支援のあるべき姿(全体会) ～大塚晃、八谷重之、島﨑春樹～
334		9月	新人からのメッセージ ～高橋徹、杉浦大史、花村薫、田中雅樹、高橋将也他～
335		10月	まちに暮らす ー伊達市の実践から生活支援を考えるー ～小林繁市～
336		11月	知的障害のある人たちの地域生活支援(鼎談) ～小林繁市、渡邊冬樹、高濱潔～
337		12月	子どもをよく観る ー発達援助を考えながらー ～石井高明～
338	H15	1月	この子らを世の光にするために ～島﨑春樹～ ーあさみどりの会法人設立 30 周年を迎えてー
339		2月	オーストラリア・ニュージーランドを訪問して ～葛原成美～

220	H5	1月	平成５年を迎えて 障害をもった人たちの福祉と教育～山口薫～
221		2月	あたりまえのことをごくあたりまえに① ーニューハンプシャーの実践よりー 食事と健康～渡辺由子～ (～ 243 号)
222		3月	あたりまえのことをごくあたりまえに② ーニューハンプシャーの実践よりー
223		4月	愛するマリカと共に生きて① ーニューハンプシャーの実践よりー
224		5月	愛するマリカと共に生きて② ーニューハンプシャーの実践よりー
225		6月	自閉児の父親その心の軌跡 ～野沢和弘～
226		7月	自己の発見　青春とボランティア
227		8月	さわらびと私～平塚佐与子～ ーありのままで居られるしあわせー
228		9月	あそびは子どもの命① ～水野豊二～ ー子どもの目は輝いていますかー
229		10月	あそびは子どもの命② ～水野豊二～ ー子どもの目は輝いていますかー
230		11月	心にあったガードがとれていくような感じです ーわらび福祉園に入ってー ～南谷整子～
231		12月	わたしが私らしく生きられることを願って ーわらび福祉園での日々ー ～妹尾知子～
232	H6	1月	謹賀新年(H6 新春) 子どもの未来を拓く父親の活動「あらくさの会」の歩み
233		2月	お花畑でほほえんで ー私にできるボランティアー
234		3月	障害児の未来を創る父親の会「かわせみの会」 ～山田忍、堀江親、野沢和弘～
235		4月	卒園を前に今思うこと ～近藤まゆみ～
236		5月	グループホーム世話人生活２年の経験から ～平林勝次～
237		6月	いまが大事① ー子育てのありようを見直すー ～島﨑左世～
238		7月	いまが大事② ー子育てのありようを見直すー ～島﨑左世～
239		8月	“あさみどり”と私 ～立原肇(療育援助等の印刷)～
240		9月	大自然の中で育ちあい ～さわらび園親子療育キャンプ～
241		10月	スウェーデンの障害児福祉と教育の現場に身を置いて ～石井バークマン麻子～
242		11月	細かいことをきちんとやり続けるということ ～大川理津子～
243		12月	「食事と健康」ーシリーズを終えるにあたってー ～渡辺由子～ (221号より全19回)
244	H7	1月	謹賀新年(H7 新春) 自立援助の館べにしだの家着工
245		2月	さりげなく心豊かな時間を ～秋田誠二～ ーわらび第１・第２ホームの日曜活動ー
246		3月	巣立ちの春 ー学生ボランティアの卒業を祝う「旅立ちを祝う会」ー
247		4月	ボランティアから保母へ１０年余を振り返って ～水野昭子～
248		5月	１年間の日本研修で感じたこと ～二宮サンドラ(ブラジル研修生)～
249		6月	教え子をボランティアにいざなって ～朱雀英八郎～
250		7月	村上英治先生追悼特集(Ⅰ)
251		8月	本人参加と自己決定をめぐって ～河東田博～
252		9月	村上英治先生追悼特集(Ⅱ)
253		10月	自立援助の拠点　べにしだの家竣工
254		11月	本人参加と自己決定をめぐって(Ⅱ) ～河東田博、島田修三、渡辺勧持～
255		12月	一人では幸せに生きられない ー二人の自閉症児と共にー ～飯塚徳子～
256	H8	1月	謹賀新年(H8 新春) べにしだの家新任職員の３か月
257		2月	障害の重い人の地域生活援助 ～石井バークマン麻子～ ースウェーデンの援助活動の歩みー
258		3月	さわらびの四季の中で ～高見茂～ ー父親の悲しみ喜び 10 年の足跡ー
259		4月	障害児のきょうだい達の心の健康① ～西村辨作～
260		5月	障害児のきょうだい達の心の健康② ～西村辨作～
261		6月	ゆっくりと着実な発達を見つめて ～高濱潔～ ー久しぶりの現場復帰で思うことー
262		7月	新人からのメッセージ　さりげなく心地よく
263		8月	あたたかいまなざし ー共に生き合う中でー ～吉田一平～
264		9月	べにしだの１年 ー試行錯誤の日々ー ～島﨑春樹～
265		10月	子どもを愛しています ～山本智恵～ ー悩みながら子どもを感じ自分を感じー
266		11月	ともに生きともに老いる① ～近藤原理～
267		12月	ともに生きともに老いる② ～近藤原理～
268	H9	1月	謹賀新年(H9 新春) あさみどりの原点はボランティア ～島﨑春樹～
269		2月	障害者児の口腔は大丈夫？ ～野々山郁～ ーコミュニケーションブラッシングのすすめー
270		3月	ノルウェー・オーストリアの施設かけ歩る記 ～高濱潔～
271		4月	子どものために何かをしてやりたい ー若い父親グループ「あしたばの会」の活動ー
272		5月	思いっきり少年時代を送って ー新池子どもクラブジュニアスタッフの旅立ちー
273		6月	援助的な風土を育てるために ー第１回父親フォーラムからー ～島﨑春樹～
274		7月	初心 ー新職員のメッセージー ～濱地陽子、伊藤京子、山田夢見～
275		8月	ボランティアは人生の中身を豊かにする ー第２回ボランティア集会からー ～島﨑春樹～
276		9月	すべての子どもたちの発達保障 統合療育を目指して① ～加藤正仁～
277		10月	すべての子どもたちの発達保障 統合療育を目指して② ～涌井規子、高橋脩、後藤秀爾、加藤正仁～
278		11月	子どもの目は輝いていますか ー子どもと一緒に人形劇を楽しむー ～丹下進～
279		12月	障害にこだわらず普通に生きていけるように ～渡辺直子～

86		8月	施設と地域そして多くの人々としんいけ盆踊り
87		9月	のびのびすることのすばらしさ ―三泊四日の療育キャンプから―
88		10月	わたしの行動の原点 ―秋の４講座いっせいに開講―
89		11月	記録映画　そっちやないこっちや　遂に完成
90		12月	どんなに時間がかかっても ―歩行困難なわが子とともに― ～多川登子～
91	S57	1月	建設進む授産施設わらび福祉園（S57 新春）
92		2月	自分だけ家族だけじゃなく私の世界が ひろがって ―婦人のボランティア活動―
93		3月	共に生きるために ―障害者と地域療育― ～水原孝～
94		4月	わらび福祉園スタート
95		5月	０歳児から療育参加 ―早期療育と母親の育ち―
96		6月	さわらび園で学んだ「信頼する」ということ ～岩田久代
97		7月	出会い―人・心・自分― ～中野真咲～
98		8月	夏のアルバム ―地域の中の施設・盆踊り・キャンプ―
99		9月	“ひとにまかすってこんなにもいいものか” 三泊四日療育キャンプ記録
100		10月	100 号記念特集　障害児にたすけられて ―「療育」とは「援助」とは― ～堀 要～
101		11月	教育の原点　親の役割を問う ―「坂道をのぼる子ら」を出版して
102		12月	心をつなぐ虹の架け橋「なないろコンサート」
103	S58	1月	年の初めに（S58 新春）～堀 要～・さわらび園10 周年
104		2月	視覚障害児の母として ～香西勝枝～
105		3月	授産施設の役割を考える（～106、112 号） ―わらび福祉園１年の歩みから―
106		4月	あたらしき門出 ―春４月・学校へ・職場へ― ～山田依子～
107		5月	障害児・学齢期の養育その１ ―中村健二先生の講演から―
108		6月	どんな子どもでもできる何かを皆もっている ―中村健二先生の講演から―
109		7月	お母さんの大きな愛と子供の可能性にちょっと 手を貸して ～島崎徹也～
110		8月	地域の人々と共に 第１回わらび夏祭り、第９回しんいけ盆踊り
111		9月	いろいろ不思議で楽しいことの連続 ～川松夏子～
112		10月	伊良湖のごはんはとてもおいしかった ～押田明久（わらび福祉園園生）他～
113		11月	自分の気持ちを素直に出して ～塩原光子～
114 〈合併号〉		12月 1月	堀要先生追悼特集（Ⅰ） 私の生死観 ～堀 要～（最期の寄稿）
115	S59	2月	福祉の中にこそ自分の生きる道 ―理事長就任に際して― ～北野博一～
116		3月	堀要先生追悼特集（Ⅱ） 人間の尊厳と福祉のこころ ―その生涯に学ぶ―
117		4月	子どもたちがいろいろな私の姿を知らせてくれ ました ～伊藤須恵～
118		5月	なぜボランティアか ～島崎春樹～
119		6月	頭で考えるのでなく触れることで ～大野智也～ ―ボランティアスクールの講義から―
120		7月	カルチャーショックの３か月 ―Ａ子さんへの手紙― ～内藤智恵 他～
121		8月	子どもを知ることは自分を確かめることでした ～川上しげみ～
122		9月	親子療育キャンプ
123		10月	こころをこめてこころで感じながら ―ひろがれ第４回なないろコンサート―
124 〈合併号〉		11月 12月	紀子と歩いた 17 年 ～鈴木美代喜～
125	S60	1月	謹賀新年（S60 新春）父親の日記帳 ～椿泰廣～
126		2月	この子でいい ～須知繁子～
127		3月	出会いと交流と学習と
128		4月	新しい出発―卒園式の言葉から― ～堀田邦子、佐古美智子、香西勝枝～
129		5月	高齢者の暮らしを考える ―穂高悠生寮を訪ねて―
130		6月	これでもういいよと言われるまでお手伝いした い―ボランティア山本さん―
131		7月	健士と共に通った坂道 ～高村圭子～
132		8月	浮き沈みのある状態の方がおもしろいかもしれ ないなあ ～葛原成美～
133		9月	キャンプの思い出 ～幸泉正子 他～
134		10月	心のつながりを求めて ―ナイトケア実践報告― わらび福祉園
135		11月	大学４年の修学旅行 ―車いすの女の子を引率して― ～熊沢佳子～
136		12月	おかあさんも子どもも先生も楽しみながら作っ ていく―宿泊療育の実践― さわらび園
137	S61	1月	謹賀新年（S61 新春） ことしもボランティアパワーで～島崎春樹～
138		2月	母親手記 ～三浦とし子、坪内智恵子～
139		3月	具体的な人間関係の中での学び ―１年間のフィールドワークから（南山短大）― ～長谷川敦子～
140		4月	共感と交流のあしあと ―法人化 15 周年を迎えて―
141		5月	大きな贈り物をうけて ～新間あや子、渡辺幸～ ―おかあさん・子ども・先生の相互関係―
142		6月	障害者の地域処遇 ～佐々木正美～
143		7月	家庭と地域資源を結ぶ ～佐々木正美～
144		8月	“毎日が発見”～三輪則子、和田昭子～
145		9月	療育キャンプから ～柿田とみ江、浅野圭子、大西由香、石井由美～
146		10月	人とかかわり人が育っていく ―第６回なないろコンサート実行委員会―
147 〈合併号〉		11月 12月	「この子らと共に」15 年 ―あさみどりの会法人設立15周年を迎えて―・ 健康な子に恵まれて知る有貴の大切さ～須田みずえ～
148	S62	1月	謹賀新年（S62 新春） 相互関係としての福祉 ～村上英治～
149		2月	障害に目をうばわれて歪んでいく自分に気づく ～椿純子～
150		3月	町のおばさんとして子どもたちに会いに行く ～伴礼美～

151		4月	“さわらびって酸素みたい” ―卒園にあたって― ～佐藤豊子～
152		5月	障害児をはじめとする人間に対しての見方が問 われている ～岡田喜篤～
153		6月	特別なことをやるのでなく普通の人として考え 暮らす ～岡田喜篤～
154		7月	あさみどりの会の福祉 ～島崎春樹～ 他者に求めるのでなく自己への問いを 発し続ける
155		8月	待つことがいかにたいへんなやさしさを必要と するかがわかってきました ～服部雪子～
156		9月	さわらび療育キャンプから ～加藤佳代子、神谷いずみ、野田達也、山田禎也～
157		10月	―泊旅行の思い出～近藤達也（わらび福祉園園生）他～
158		11月	コンサートを通して 「わたぼうし」から「なないろ」10 年を迎えて
159		12月	頑張って落ち込んでまた頑張って ～川野公美子～
160	S63	1月	心身障害児者のためのボランティア活動 （S63 新春）子どもを見直す～島崎左世～
161		2月	子どもが育つ土壌づくり ～島崎左世～
162		3月	知のオアシス発見 ～堀木ひとみ～
163		4月	こころの広がりとこころの育ちを ―理事長就任にあたって― ～村上英治～
164		5月	心から愛をありがとう―４年間の思い出― ～樋栄久子～
165		6月	知能と情緒　～石井高明～
166		7月	大自然に抱かれて　山の家の７日間 ―わらび福祉園ナイトケアの実践から―
167		8月	あたたかい人たちとのふれあいの中で ～壁谷久美子～
168		9月	郡上・尾高療育キャンプから ～戸谷貞子、田中いくみ、丹下靖、小林一江～
169		10月	母親研修会　杉山登志郎先生のお話から（1）
170		11月	福祉とかボランティアという言葉が化石になる よう心を込めて ～小川卓 他～
171		12月	母親研修会　杉山登志郎先生のお話から（２）
172	H1	1月	迎春（S64 新春） 昨年の出来事の中から今年を見る ～島崎春樹～
173		2月	わが子を通して自分を知る機会を与えられてい る幸せを感じています ～渡辺時代 他～
174		3月	夢が実現できる仲間とともに作る「学童療育」
175		4月	卒園式の言葉から ～村上英治～
176		5月	ボランティアスクール―この素敵な体験 ～東上里みゆき～
177		6月	もっともっと子どもたちのことが知りたい ～熊谷豊～
178		7月	自然と人間とのかかわりを求めて ―「郡上山の家」本館完成―
179		8月	圭佑を育てていく中ではじめて私は「おかあさ ん」にしてもらったのです ～水貝和代～
180		9月	なんだか幸せ気分―最後のキャンプを振り返っ て― ～山田智子 他～
181		10月	読み聞かせから考える～しかたしん～
182		11月	児童文学から考える～しかたしん～
183		12月	「おとな」として―仕事に勝る遊びはない― ～若山五十鈴～
184	H2	1月	迎春（H2 新春） 心平かにして人成る～村上英治～
185		2月	様々な活動を通して学ぶ ～馬庭京子～
186		3月	くらしづくり　その１ ―わらび福祉園生活実習（宿泊体験）の実践―
187		4月	大きな愛に包まれた卒園式 ～高見早代子～ くらしづくり　その２
188		5月	くらしづくり　その３ ―わらび福祉園生活実習の実践―
189		6月	施設職員第一歩 ―その動機と体験― ～瀬田かの子、有川裕子～
190		7月	心身障害問題を考える集いから ―障害者福祉の明日を考える― ～村地俊二～
191		8月	ファンタジー入門 ―物語が教えるもの― ～井上文人～
192		9月	親子療育キャンプ ～内田五月、渋谷富美子 他～
193		10月	心の学びを続けながら ―さやかとの暮らし― ～渡辺時代～
194		11月	父親の役割 ―父親参観日から― ～来嶋均～
195		12月	私の大事な宝物 ―あさみどりの会の思い出― ～鵜飼信孝～
196	H3	1月	迎春（H3 新春）ただひとすじに ～村上英治～ くらしづくり　その４ ～服部美子、拓殖梅子～
197		2月	塚崎映子さん逝く（つぼみの会の母）
198		3月	あの頃のこと ―卒園を控えて― ～島田修三～
199		4月	愛のおもちゃ運動　名古屋市立港南中学校
200		5月	夫婦で学んださわらび ～佐藤拓二～ 子どもの将来のために父親の会を結成
201		6月	育ち合いに夢かけて ―若い新任職員と子どもたち―
202		7月	知恵遅れと授産（講演要約その１）～牧野弘典～
203		8月	知恵遅れと授産（講演要約その２）～牧野弘典～
204		9月	夏　323 人の熱い交流
205		10月	グループホーム世話人の暮らしの本音あれこれ ～秋田伸子～
206		11月	中学生と福祉教育 ―福祉体験学習と社会人学級から―
207		12月	動物飼育から学ぶ ～松山國臣～
208	H4	1月	謹賀新年（H4 新春） 法人設立 20 周年を迎えて～村上英治～
209		2月	言葉遅れといわれて３年待ってみたけれど ～菱田恵利子 他～
210		3月	出会いとふれあいの 10 年 ―ボラミー 10 周年に寄せて―
211		4月	自分サイズで学んだもう一つの学校 ―高校生とさわらび園―
212		5月	保育実習生の実習記録に学ぶ
213		6月	わらび福祉園開園１０周年感謝の集い
214		7月	ことばが育つ環境その１ ～松下淑～
215		8月	ことばが育つ環境その２ ～松下淑～
216		9月	大自然に抱かれて１
217		10月	大自然に抱かれて２
218		11月	母子通園だからこそできたこと～吉田恭子～
219		12月	さわらびグループ厚生大臣表彰受賞

療育援助【インデックス：1974.06 → 2023.03】

1	S49	6月	家庭療育援助活動について**(創刊号)**
2		7月	療育とは(素人･玄人～伊藤方文)
3		8月	障害児とは
4		9月	コミュニティケアとは
5		10月	きょういくとは
6		11月	日本のボランティア活動
7		12月	障害児問題を捉えた映画“ふれあい”について
8	S50	1月	新しい年を迎えて(S50 新春)
9		2月	日本の風土
10		3月	アメリカのキャンペーン「障害児を家族のもとへ」
11		4月	療育指導の中味 1か年の援助活動を省みて
12		5月	セミプロのボランティアがほしい
13		6月	ひらかれたみんなの場
14		7月	「花影(はなかげ)の譜(ふ)」～加藤奈々枝～（～37号､24回）
15		8月	福祉対策のむつかしさ
16		9月	「兵庫ボランティア憲章」の制定
17		10月	進化論と障害児
18		11月	精神遅滞者と老化
19		12月	「甘えることは許されない」―記録映画―
20	S51	1月	親こそ先頭に立って(S51 新春)
21		2月	福祉と基盤 ～田村一二～
22		3月	福祉の叫び ～小林提樹～ さわらび園増築工事
23		4月	新しい年度を迎えて(51年度事業計画)
24		5月	施設の中から ～竹渕繁雄～
25		6月	福祉の原点
26		7月	縁と祖先
27		8月	福祉の風土
28		9月	現代ボランティア考 ～水野昭彦～
29		10月	ボランティアにふさわしい仕事
30		11月	障害者の権利宣言
31		12月	街の中の小さな施設
32	S52	1月	県知事 市長あいさつ(S52 新春) 施設の役割～伊藤隆二～
33		2月	再び”街の中の小施設”について
34		3月	宙ブラリンの”はちのす寮”～江尻彰良～
35		4月	いよいよ完成するコミュニティケアの拠点･ 重度の障害者のために～山村二郎～
36		5月	52年度の事業計画
37		6月	コミュニティケアセンター “あさみどり会館”の機能
38		7月	年長の重い心身障害者を持つ親たちの悲願を援 けよう！ 雑感雑記 ～江尻彰良～（～47号）
39		8月	“共同生活場”での“共働”
40		9月	“コーディネーター”の必要性と処遇
41		10月	福祉の風土「この子らと」出版 中日功労賞受賞
42		11月	街の中の障害児保育 ～宮下俊彦～
43		12月	共に生きていく場を ～長沢厳～
44	S53	1月	どの子も大人になる ～堀 要～（S53 新春）
45		2月	行政区画を乗り越えた地域福祉
46		3月	心身障害者の職場を歴訪して(1) ～三国一朗～
47		4月	新年度(53年度)を迎えて 心身障害者の職場を歴訪して(2)
48		5月	はじめにあるべきもの ～宮下俊彦～ やや専門的な療育講座 堀 要(～51号)･ 光の村と私～山口千明～(～58号)
49		6月	総合的な福祉の体制を！
50		7月	ある話し合いの席で････
51		8月	学齢前の問題と学校の問題 ～宮下俊彦～
52		9月	障害者を見る眼
53		10月	また忘れられている“この子ら ダウン症候群の心理と発達①～津田克也～
54		11月	ダウン症候群の心理と発達②～津田克也～
55		12月	重障児療育に置ける諸問題 ～岡田喜篤～(～58号)
56	S54	1月	年頭の辞 ～堀 要～（S54 新春）
57		2月	養護学校義務制実施にあたって (子どもの人権回復を求めて) ～広瀬治代～
58		3月	みんな浮き足立っている
59		4月	自閉症児と共に ～石田孝仁～（～69号）
60		5月	急がれるコーディネーターの設置 ～高森敬久～
61		6月	親たちが望んでいる障害者たちの授産施設
62		7月	新たに企画された16ミリ記録映画 “コミュニティケアへの道(仮題)”
63		8月	日ごとに育つ親子農園 ―自閉症児親子のすばらしい足跡―
		9月	休刊
64		10月	伊藤方文氏追悼特集
65		11月	特集　障害児の就学
66		12月	特集　障害児の就学
67	S55	1月	あけましておめでとうございます(S55 新春)
68		2月	名古屋市における障害児保育の経過と現状につ いて ～青木秀子～
69		3月	現在の教育は失敗し続ける仮説ではないのか ～祖父江文宏～
70		4月	障害児のために生きることはつらいが障害児と 共に生きていくことはつらくない ～坂野みさ子～ **堀 要紙上講座**(～114号、42回) ※表3を参照
71		5月	障害児をめぐる輪の一員として ―私のボランティア活動― ～坂礼美～
72		6月	ひたすら心身障害児の援助を続けて10年 (同朋大学心身研青少年ボランティア賞受賞)
73		7月	子どもが育つわたしが育つ　～鳥山素子～
74		8月	自閉児とともに ―母と子と周りの人々と― ～林たつえ～
75		9月	キャンプに参加して
76		10月	車イスの小さな旅 ～圓信之～ ―重度障害者と老いた母に同行して―
77		11月	地域とのかかわり ～新池町内のお祭り､わたぼうしこんさあと～
78		12月	親なき後の障害者の処遇 ―悠生寮を訪ねて―
79	S56	1月	賀春(S56 新春) われらの福祉元旦～堀 要～
80		2月	在宅療育援助 ―好充くんとの3年間― ～矢野和美～
81		3月	大盛況　さわらび祭終わる
82		4月	特集　障害者の社会参加 ―義務教育終了後の処遇をどうすすめるか―
83		5月	水曜療育と母親の育ち
84		6月	わらび福祉園着工へ
85		7月	目に見えない大きな宝を信じて ―ダウン症児の母となって― ～椿純子～

あさみどりの会と命名

あさみどりすみ渡りたる大空の
広きをおのが心ともがな　（明治天皇御製）

私たちはこの御製に示されている一点のかげりもないおおらかな心を心として生きて行きたい。こう願ってあさみどりという名を選びました。

いまひとつは、私どもが志しているような運動を、かりに色で現すとしたらどんな色になるだろう。それは赤でも青でも黄でもない。やはりみどり色だろう。しかし、緑は緑でも、私どもはまだ未熟なのだからうすいみどり色、つまりあさみどりだろうということで、これを名前に選びました。

（伊藤方文）

療育援助連載（S55.4～58.12）

堀 要紙上講座 ―発達と成熟―

堀先生は障害児の「発達と成熟」、そして親や職員の在り方について、わかり易く解説した講義を4年間、逝去の直前まで42回にわたって連載していただいた。

①わが子の育つ姿を見つめよう（70号）
②なにがとどう
③自分でくりかえす
④再び自分でくりかえすことについて
⑤生活行動と生活意欲
⑥「あそび」から「まなび」へ
⑦生活の場・うち
⑧生き甲斐という仕合せ
⑨発達と成熟（補遺）
⑩こたえて、かかわる
⑪再びこたえて、かかわる
⑫母性愛
⑬障害が見えて子どもが見えない
⑭子どもは何時も伸び育つ
⑮ことばのおくれ
⑯ことばはつかうもの
⑰父親の心
⑱わが子のしあわせ
⑲対応
⑳わが家の宝
㉑新しい年に
㉒生きて在ること
㉓アナクロニズム
㉔「なに」と「どう」
㉕再び「なに」と「どう」について
㉖かずあそび
㉗知能と知恵
㉘今日もわが子は伸びている
㉙心のふれあい
㉚療育とは、援助とは
㉛心に悦びを
㉜ハンドルの「あそび」
㉝鼻たれ小僧
㉞井戸端会議
㉟子どもは子ども
㊱性の抑圧
㊲母の日に思う
㊳他山の石
㊴福祉ということ
㊵がまん
㊶家を出たがった人
㊷私の生死観（114号）

援け合うこころを育んで
―会の発足から65年間にわたる活動の足跡―

令和5年3月31日　発行
発行者　社会福祉法人あさみどりの会
名古屋市千種区新池町1-18-2
TEL 052-782-2233　FAX 052-782-3513
制　作　㈲ナカノデザイン事務所